

2004年度

全学共通授業科目シラバス

外国語学部共通科目(2003年度以前入学生用)

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003～04年度入学生用の全学共通カリキュラム「全学共通授業科目」と、2002年度以前入学生用の「外国語学部共通科目」のシラバスです。

各自の入学年度に従い、目次を確認してください。

① 全カリ 外共	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 春学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
全カリ＝全学共通授業科目（学期完結）
外共＝外国語学部共通科目（原則として通年）
- ③ 担当教員氏名
④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
⑤ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

① 全カリ 外共	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 秋学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

【注意】

1. 定員

「全学共通授業科目」および合併される「外国語学部共通科目」は、定員を設けています。「授業時間割表」を参照してください。

2. 集中講義

集中講義を伴うスポーツ・リクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。開講学期に注意してください。

*カテゴリーⅠの「全学総合講座」は、春学期、秋学期それぞれ1ページに記載しています。

全学共通授業科目
(2003~04年度入学生用)
目次
【全学総合科目】
カテゴリー I~V

カテゴリー I 全学総合講座

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
全学総合講座(日本文化を考える-ことばとこころ)	全学総合講座(現代世界論)	有吉 広介	1
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	全学総合講座(日本文化を考える-行動と思索)	飯島 一彦	2,3
	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	未 定	4,5
	全学総合講座(未 定)		
全学総合講座(獨協学)		岡村 圭子	6
全学総合講座(教えるという仕事)	全学総合講座(教えるという仕事)	堅田 剛	7
全学総合講座(平和と人権-アジア地域の紛争と私たち)		川村 肇	8
全学総合講座(働くための基礎知識-知って得する労働問題)		古関 彰一	9
全学総合講座(ものづくりの現場から)	全学総合講座(ものづくりの現場から)	斉藤 美彦	10
全学総合講座(21世紀を探る I)	全学総合講座(21世紀を探る II)	高松 和幸	11
全学総合講座(国家と国境を考える:地域・民族・国家)		辻 康吾	12,13
		古川 堅治	14
	全学総合講座(国家と国境を考える:地域・民族・国家)	佐藤 勳治	14
全学総合講座(スポーツ・健康の世界)	全学総合講座(スポーツ・健康の世界)	松原 裕	15
全学総合講座(童話(メルヘン)の可能性をめぐって)	全学総合講座(シラーの「歓喜に寄せて」とベートーヴェンの『第九交響曲』その成立と受容)	矢羽夕 崇	16,17
	全学総合講座(環境学)	湯田 雅夫	18

カテゴリー II 概論科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
哲学a (哲学の諸問題)	哲学b (死を哲学する)	谷口 郁夫	19
哲学a (愛について)		松丸 壽雄	20
倫理学a (倫理の基本について考える)	倫理学b (環境と生命の倫理)	市川 達人	21
社会思想史a (市民的社會像の黎明期)	社会思想史b (市民的社會像の確立期)	市川 達人	22
社会思想史a (魔女裁判と現代)		松丸 壽雄	23
心理学a (人間の個性・多様性理解)	心理学b (人間の行動・認知・感情の共通法則)	杉山 憲司	24
心理学a (知覚・認知)	心理学b (行動・個性)	増田 直衛	25
言語学a (一般言語学)	言語学b (一般言語学)	浅山 佳郎	26
言語学a (母語の修得と日本人)	言語学b (コトバの構造と文法観)	桂 千佳子	27
言語学a (日本語とはどのような言語か)		小島 幸枝	28
言語学b (辞書を読む)		小島 幸枝	28
文学a (恐怖の日本文学)	文学b (癒しの日本文学)	佐藤 毅	29
文学a (日本文学-上代から中古前期)	文学b (日本文学-中古後期から現代)	福沢 健	30
文学a (スペイン文学)	文学b (ラテンアメリカ文学)	野々山 ミチコ	31
文学a (メディアとしてのテキスト)	文学b (現代日本でメルヘンを「読む」)	宮谷 尚実	32
歴史学a (日本中世社会における「悪党」)		櫻井 彦	33
	歴史学b (中世「悪党」の諸相)	新井 孝重	33
歴史学a (「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史学b (戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	34
歴史学a (イスラーム世界の成立と拡大)	歴史学b (イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	35
歴史学a (中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	歴史学b (中国近代史概説-変革の諸相)	張 士陽	36
歴史学a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史学b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	37
歴史学a (ヨーロッパの歴史-統合と分裂の視点から)		古川 堅治	38
歴史学a (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(1))	歴史学b (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(2))	増谷 英樹	39
文化人類学a (未開文化の理解へ)	文化人類学b (未開文化の理解へ)	井上 兼行	40
現代文化論a (グローバルゼーションを巡って)	現代文化論b (日本の表象と世界)	柴崎 信三	41
比較文化論a (東西の文化を結びもの)	比較文化論b (東西文化と近代化)	熊谷 哲也	42
経済学a (理論経済学の基礎的理解)	経済学b (理論経済学の基礎的理解)	片岡 晴雄	43
経済学a (国民所得の概念と決定メカニズム)	経済学b (経済政策の基礎理論と課題)	浜本 光昭	44
日本国憲法(憲法と私たち)	日本国憲法(憲法と私たち)	大藤 紀子	45
日本国憲法(憲法と私たち)	日本国憲法(憲法と私たち)	加藤 一彦	46
日本国憲法(憲法と私たち)		高佐 智美	47
国際法a (国際社会と私たち)	国際法b (国際紛争を考える)	廣部 和也	48
政治学a (身近な政治学)	政治学b (参加する政治学)	志摩 團子	49
社会学a (他者と自己)	社会学b (現代社会の諸問題とリスク・マネジメント)	岡村 圭子	50
地理学a (自然環境と文化)	地理学b (自然環境と文化)	秋本 弘章	51
地理学a (世界の自然環境と文化)	地理学b (里山と二次林文化)	犬井 正	52
女性学a (女性学と女性の歴史)	女性学b (女性学と女性の現状)	井上 たか子	53
数学a (微分学)	数学b (積分学)	福井 尚生	54
物理学a (特殊相対論の世界)	物理学b (一般相対論の世界)	東 孝博	55
化学a (生命と健康の化学)		和田 浩志	56
	化学b (生命と健康の化学)	加藤 優重	56
		和田 浩志	57
生物学a (植物の特性と自然の仕組み)	生物学b (植物の分布)	加藤 優重	57
	地球科学b (銀河天文学)	福井 尚生	58
地球科学a (恒星天文学)	健康科学b (東洋の健康哲学)	青柳 多恵子	59
健康科学a (東洋の健康哲学)		梶野 克之	60
スポーツ・レクリエーション学a (身体運動と生体の生理的变化)	スポーツ・レクリエーション学b (トレーニングの科学的基礎)		
スポーツ・レクリエーション学a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	スポーツ・レクリエーション学b (最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	和田 智	61

カテゴリーⅢ 各論科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造a)	ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造b)	伊豆山 敦子	62
ことばと思想(Ⅲ)(思想を形づくるもの)	ことばと思想(Ⅲ)(思想を伝えるもの)	金田一 秀穂	63
ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)		田口 雅徳	64
ことばと思想(Ⅲ)(悪の思想史)		谷口 郁夫	65
	ことばと思想(Ⅲ)(ニヒリズムの克服と生きる意味)	谷口 郁夫	66
	ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	中西 家栄子	67
	ことばと思想(Ⅲ)(通訳論)	永田 小絵	68
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想b)	福井 嘉彦	69
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史a)	歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史b)	川村 肇	70
	歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	小山 慎治	71
	歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	鈴木 隆	72
歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像a)	歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像b)	瀬尾 菊治	73
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽史)		園田 みどり	74
	歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽曲)	園田 みどり	75
歴史と文化(Ⅲ)(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化(Ⅲ)(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋 一男	76
歴史と文化(Ⅲ)(イギリスの詩の楽しみ方)		園部 明彦	77
	歴史と文化(Ⅲ)(アメリカの詩の楽しみ方)	原 成吉	77
歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争-その歴史と遺産a)	歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争-その歴史と遺産b)	中村 葵	78
歴史と文化(Ⅲ)(西洋美術史a)	歴史と文化(Ⅲ)(西洋美術史b)	前川 久美子	79
歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	水口 章	80
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	81
現代社会(Ⅲ)(英国人は階級問題抜きで語れない)	現代社会(Ⅲ)(少子・高齢社会を生きる)	有吉 広介	82
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論a)	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論b)	堅田 剛	83
現代社会(Ⅲ)(広告論a)	現代社会(Ⅲ)(広告論b)	川又 祥平	84
現代社会(Ⅲ)(教育法a)	現代社会(Ⅲ)(教育法b)	小泉 広子	85
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	柴崎 信三	86
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるa)	現代社会(Ⅲ)(中国を考えるb)	辻 康吾	87
現代社会(Ⅲ)(法学a)	現代社会(Ⅲ)(法学b)	中空 壽雅	88
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想a)	現代社会(Ⅲ)(中東政治思想b)	藤原 和彦	89
現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	未 定	90
自然・環境・人間(Ⅲ)(量子論の世界a)	自然・環境・人間(Ⅲ)(量子論の世界b)	東 孝博	91
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	92
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)	自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)	福井 尚生	93
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論a)	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)	福井 尚生	94

カテゴリーⅣ 実習・実践科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-コミュニケーション篇)	ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-表現篇)	飯島 一彦	95
ことばと思想(Ⅳ)(作品を読む)		小島 幸枝	96
ことばと思想(Ⅳ)(作品を書く)		小島 幸枝	96
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	佐藤 毅	97
ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践a)	ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践b)	千本 健一郎	98
	ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	田口 雅徳	64
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	福井 星一	99
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	福沢 健	100
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)		阿部 正浩	101
現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るa)	現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	102
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a)	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)b)	橋口 徹	103
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)a)	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)b)	橋口 徹	104
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	各担当教員	105
現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスa)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスb)	田村 仁	106
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	各担当教員	107
	自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	加藤 優重	108

カテゴリーⅤ 体育科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)		和田 智	109
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)		和田 智	109
	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	和田 智	110
	スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	和田 智	110
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)		青柳 多恵子	111
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)		青柳 多恵子	111
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	和田 智	112
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーb)	松原 裕	113
	スポーツ・レクリエーション(コーディネーショントレーニング)	松原 裕	114
	スポーツ・レクリエーション(スノースポーツ)	松原 裕	114
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニスb)	小山 さなえ	115
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニスb)	田中 茂宏	116
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニスb)	松原 裕	117
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフb)	山中 邦夫	118
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフb)	吉田 卓司	119
スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	榎山 康	120
スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	松本 光弘	121
スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズa)	スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズb)	梶野 克之	122
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールb)	池垣 功一	123
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールb)	太田 朝博	124
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールb)	萩野 元祐	125
スポーツ・レクリエーション(卓球a)	スポーツ・レクリエーション(卓球b)	奥野 忠枝	126
スポーツ・レクリエーション(卓球a)	スポーツ・レクリエーション(卓球b)	本田 稔祐	127
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)	勝瀬 武	128
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)	蓮柳 尚代	129
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa)	スポーツ・レクリエーション(バドミントンb)	太田 朝博	130
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa)	スポーツ・レクリエーション(バドミントンb)	梶野 克之	131
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa)	スポーツ・レクリエーション(バレーボールb)	小川 又八朗	132
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa)	スポーツ・レクリエーション(バレーボールb)	小山 さなえ	133
スポーツ・レクリエーション(フットサルa)	スポーツ・レクリエーション(フットサルb)	松原 裕	134
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	和田 智	135
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa)	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスb)	青柳 多恵子	136

【 外国語科目 】

英 語 科 目

◆必修科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
English 111a/112a	English 111b/112b	各担当教員	137
English 121a/122a (国関法学科用)	English 121b/122b (国関法学科用)	各担当教員	138
English 141a (独・仏学科用)	English 141b (独・仏学科用)	各担当教員	139
English 141a/142a (経済・法学部用)	English 141b/142b (経済・法学部用)	各担当教員	139
English 142a (独・仏学科用)	English 142b (独・仏学科用)	各担当教員	140
English 211a/212a	English 211b/212b	各担当教員	141
English 221a/222a (国関法学科用)	English 221b/222b (国関法学科用)	各担当教員	142
English 241a/242a (法学部用)	English 241b/242b (法学部用)	各担当教員	143

◆選択科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
English 110a	English 110b	保坂 華子	144
English 121a (独・仏学科用)	English 121b (独・仏学科用)	山本 英政	145
English 121a (独・仏学科用)	English 121b (独・仏学科用)	岡田 圭子	146
English 131a (独・仏学科、経済・法学部用)	English 131b (独・仏学科、経済・法学部用)	ER/ハウ	147
English 131a (独・仏学科用)	English 131b (独・仏学科用)	G.F.ロビン	148
English 131a (経済・法学部用)	English 131b (経済・法学部用)	G.G.コッホ	149
English 131a (経済・法学部用)	English 131b (経済・法学部用)	C.カーン	150
English 211a (経済学部用)	English 211b (経済学部用)	岡田 圭子	151
English 351	English 351	安井 美代子	152

英語以外の外国語科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
ドイツ語 I Aa	ドイツ語 I Ab	各担当教員	153
ドイツ語 I Ba	ドイツ語 I Bb	各担当教員	154
ドイツ語 I Ca	ドイツ語 I Cb	各担当教員	155
ドイツ語 II Aa	ドイツ語 II Ab	各担当教員	156
ドイツ語 II Ba	ドイツ語 II Bb	各担当教員	157
ドイツ語 II Ca	ドイツ語 II Cb	各担当教員	158
フランス語 I Aa	フランス語 I Ab	各担当教員	159
フランス語 I Ba	フランス語 I Bb	各担当教員	160
フランス語 I Ca	フランス語 I Cb	各担当教員	161
フランス語 II Aa	フランス語 II Ab	各担当教員	162
フランス語 II Ba	フランス語 II Bb	各担当教員	163
フランス語 II Ca	フランス語 II Cb	各担当教員	164
スペイン語 I Aa	スペイン語 I Ab	各担当教員	165
スペイン語 I Ba	スペイン語 I Bb	各担当教員	166
スペイン語 I Ca	スペイン語 I Cb	各担当教員	167
スペイン語 II Aa	スペイン語 II Ab	各担当教員	168
スペイン語 II Ba	スペイン語 II Bb	各担当教員	169
スペイン語 II Ca	スペイン語 II Cb	各担当教員	170
中国語 I Aa	中国語 I Ab	各担当教員	171
中国語 I Ba	中国語 I Bb	各担当教員	172
中国語 I Ca	中国語 I Cb	各担当教員	173
中国語 II Aa	中国語 II Ab	各担当教員	174
中国語 II Ba	中国語 II Bb	各担当教員	175
中国語 II Ca	中国語 II Cb	各担当教員	176
ポルトガル語 I a	ポルトガル語 I b	山本 麻美子	177
ポルトガル語 II a	ポルトガル語 II b	山本 麻美子	178
ロシア語 I Aa	ロシア語 I Ab	齊藤 毅	179
ロシア語 I Ba	ロシア語 I Bb	佐藤千登勢	180
ロシア語 II Aa	ロシア語 II Ab	佐藤千登勢	181
ロシア語 II Ba	ロシア語 II Bb	齊藤 毅	182
朝鮮語 I Aa	朝鮮語 I Ab	朴 勇俊	183
朝鮮語 I Ba	朝鮮語 I Bb	李 貞美	184
朝鮮語 II Aa	朝鮮語 II Ab	李 貞美	185
朝鮮語 II Ba	朝鮮語 II Bb	朴 勇俊	186
タイ語 I a	タイ語 I b	江藤 双恵	187
タイ語 II a	タイ語 II b	江藤 双恵	188
アラビア語 I a	アラビア語 I b	師岡 加-マ	189
アラビア語 II a	アラビア語 II b	師岡 加-マ	190
現代ヘブライ語 I a	現代ヘブライ語 I b	高橋 正男	191
現代ヘブライ語 II a	現代ヘブライ語 II b	高橋 正男	192

古典語科目

春学期科目名	秋学期科目名	担当教員	ページ
古典ギリシア語 I a	古典ギリシア語 I b	古川 堅治	193
古典ギリシア語 II a	古典ギリシア語 II b	桜井 悠美	193
ラテン語 I a	ラテン語 I b	古川 堅治	194
ラテン語 II a	ラテン語 II b	桜井 悠美	194
		松田 治	195
		松田 治	196

外国語学部共通科目

目次 (2002年度以前入学者)

「人文科学」部門

科目名	担当教員	ページ
哲学	谷口郁夫	19
心理学	杉山憲司	24
心理学	田口正徳	64
心理学	増田直樹	25
倫理学	市川達人	21
国語学	桂 千佳子	27
国語学	小島幸枝	28
国語表現	飯島一彦	95
国語表現	小島幸枝	96
国語表現	佐藤 毅	97
国語表現	千本健一郎	98
国語表現	福沢 健	100
国語表現	福沢 健	213
日本文学	佐藤 毅	29
日本文学	福沢 健	30
外国文学	野々山ミチコ	31
外国文学	宮谷尚実	32
歴史学 (日本史)	(春) 櫻井 彦 (秋) 新井孝重	33
歴史学 (日本史)	丸浜 昭	34
歴史学 (東洋史)	熊谷哲也	35
歴史学 (東洋史)	張 土陽	36
歴史学 (西洋史)	佐藤唯行	37
歴史学 (西洋史)	増谷英樹	39
人文科学特殊講義A (現代文化論)	柴崎信三	41
人文科学特殊講義A (日本近代史)	中村 粂	78
人文科学特殊講義A (西洋美術史)	前川久美子	79
人文科学特殊講義B (イタリア音楽史)	園田みどり	74
人文科学特殊講義B (イタリアの声楽曲)	園田みどり	75
人文科学特殊講義B (西洋哲学史)	谷口郁夫	65
人文科学特殊講義B (哲学思想史)	谷口郁夫	66
人文科学特殊講義B (通訳文化論)	永田小絵	68
人文科学特殊講義B (英語通訳の仕事)	福井星一	99

「社会科学」部門

経済学	片岡晴雄	43
経済学	浜本光紹	44
経済原論	阿部正治	211
政治学	志摩園子	49
日本国憲法	加藤一彦	214
教育法	小泉広子	85
国際法	廣部和也	48
国際関係論	阿部純一	81

科目名	担当教員	ページ
社会学	岡村圭子	50
社会思想史	市川達人	22
社会心理学	田口正徳	212
文化人類学	井上兼行	40
社会科学特殊講義A (女性学)	井上たか子	53
社会科学特殊講義A (現代英米社会研究)	有吉広介	82
社会科学特殊講義A (社会科学概論)	堅田 剛	83
社会科学特殊講義A (広告論)	川又祥平	84
社会科学特殊講義A (教育の現場：教師と語る)	川村 肇	102
社会科学特殊講義A (マスコミュニケーション論)	柴崎信三	86
社会科学特殊講義A (現代中国論)	辻 康吾	87
社会科学特殊講義A (生活に役立つ経理 (A))	橋口 徹	103
社会科学特殊講義A (生活に役立つ経理 (B))	橋口 徹	104
社会科学特殊講義A (イスラム (原理) 主義過激思想)	藤原和彦	89
社会科学特殊講義A (異文化との触れ合い)	水口 章	80
社会科学特殊講義B (日本事情とコミュニケーション教育)	小山慎治	71

「自然科学」部門

数学	福井尚生	54
物理学	東 孝博	55
地学	福井尚生	58
生物学A	(春) 和田浩志 (秋) 加藤僖重	57
自然科学概論	福井尚生	94
自然科学特殊講義A (自然環境と文化)	秋本弘章	51
自然科学特殊講義A (人間の自然認識)	東 孝博	91
自然科学特殊講義A (地球環境論)	鈴木 滋	92
自然科学特殊講義A (宇宙論)	福井尚生	93
自然科学特殊講義A (化学)	(春) 和田浩志 (秋) 加藤僖重	56

「情報科学」部門

コンピュータ入門	各担当教員	199
情報科学概論	呉 浩東	198
言語学	浅山佳郎	26
言語学	伊豆山敦子	62
情報科学各論 (初級—表計算入門)	各担当教員	200
情報科学各論 (初級—プレゼンテーション)	金井 満	201
情報科学各論 (初級—HTML 入門)	各担当教員	202
情報科学各論 (中級—表計算応用 1)	松山恵美子	203
情報科学各論 (中級—HTML 応用 1)	東 孝博	204
情報科学各論 (中級—HTML 応用 1)	金子憲一	205
情報科学各論 (中級—HTML 応用 1)	田中雅英	206
情報科学各論 (中級—HTML 応用 2)	東 孝博	207
情報科学各論 (中級—データベース 1)	松山恵美子	209
情報科学各論 (中級—データベース 1)	長崎 等	208
情報科学各論 (中級—データベース 2)	長崎 等	208
情報科学各論 (中級—プログラミング論 1)	呉 浩東	210
情報科学各論 (中級—プログラミング論 2)	呉 浩東	210

「日本語教育」部門

科目名	担当教員	ページ
日本語学概論	金田一秀穂	63
日本語教育概論	中西家栄子	67
日本語学特殊講義A	中西家栄子	215

「第三外国語」部門

基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	153
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	156
基礎フランス語Ⅰ	各担当教員	159
基礎フランス語Ⅱ	各担当教員	162
基礎スペイン語Ⅰ	各担当教員	165
基礎スペイン語Ⅱ	各担当教員	168
基礎中国語Ⅰ	各担当教員	171
基礎中国語Ⅱ	各担当教員	174
基礎ポルトガル語Ⅰ	山本麻美子	177
基礎ポルトガル語Ⅱ	山本麻美子	178
基礎ロシア語Ⅰ(総合)	斎藤 毅	179
基礎ロシア語Ⅰ(会話)	佐藤千登勢	180
基礎ロシア語Ⅱ(総合)	佐藤千登勢	181
基礎ロシア語Ⅱ(会話)	斎藤 毅	182
基礎朝鮮語Ⅰ(総合)	朴 勇俊	183
基礎朝鮮語Ⅰ(講読・会話)	李 貞美	184
基礎朝鮮語Ⅱ(総合)	李 貞美	185
基礎朝鮮語Ⅱ(講読・会話)	朴 勇俊	186
基礎タイ語Ⅰ	江藤双恵	187
基礎タイ語Ⅱ	江藤双恵	188
基礎アラビア語Ⅰ	師岡加・マ・エリカ	189
基礎アラビア語Ⅱ	師岡加・マ・エリカ	190
現代ヘブライ語Ⅰ	高橋正男	191
現代ヘブライ語Ⅱ	高橋正男	192
古典ギリシア語Ⅰ	(春) 古川堅治 (秋) 櫻井悠美	193
古典ギリシア語Ⅱ	(春) 古川堅治 (秋) 櫻井悠美	194
ラテン語Ⅰ	松田 治	195
ラテン語Ⅱ	松田 治	196

「総合」部門

総合講座B	若森栄樹	197
-------	------	-----

「保健体育」部門

体育Ⅰ・Ⅱ		
アウトドアレクリエーション(夏季集中:アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	和田 智	109
アウトドアレクリエーション(冬季集中:スケートトレーニング)	和田 智	110
アウトドアレクリエーション(夏季集中:アウトドア山岳)	青柳多恵子	111
インラインスケート	和田 智	112
インラインスケート・インラインホッケー	松原 裕	113
コーディネーショントレーニング(冬季集中:スノースポーツ)	松原 裕	114
硬式テニス	小山さなえ	115
硬式テニス	田中茂宏	116
硬式テニス	松原 裕	117

科目名	担当教員	ページ
ゴルフ	山中邦夫	118
ゴルフ	吉田卓司	119
サッカー	檜山 康	120
サッカー	松本光弘	121
スポーツエクササイズ	梶野克之	122
ソフトボール	池垣功一	123
ソフトボール	太田朝博	124
ソフトボール	萩野元祐	125
卓球	奥野忠枝	126
卓球	本田稔祐	127
バスケットボール	勝瀬 武	128
バスケットボール	蓬郷尚代	129
バドミントン	太田朝博	130
バドミントン	梶野克之	131
バレーボール	小川又八朗	132
バレーボール	小山さなえ	133
フットサル	松原 裕	134
フリスビー	和田 智	135
ボールルームダンス	青柳多恵子	136
保健体育講義	青柳多恵子	59
保健体育講義	梶野克之	60
保健体育講義	和田 智	61

全カリ	全学総合講座（現代世界論）	（秋学期）	担当者	有吉 広介
<p>◆講義目標</p> <p>21世紀の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。この講義では、経済学部の千代浦昌道教授と益山光央助教授、法学部の一之瀬孝博教授、および外国語学部言語文化学科の有吉広介・辻康吾・佐藤勘治の3教授の計6名が、オムニバス形式で、それぞれ異なる視点から現代世界の重要な諸現象について講義し、現代世界の多面的な理解をはかる。</p> <p>◆講義概要</p> <p>まず、益山教授が、外国為替に焦点を合わせて国際経済についての理解をはかり、併せて「バブル経済」と日本の変化とも言及する。次に、佐藤教授が、観光、組立産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコに焦点をあてて、古くて新しい問題である「南北問題」をみる。次いで、千代浦教授が、奴隷貿易、植民地支配、そして第2次世界大戦後は内戦や紛争に苦しむアフリカ人の歴史、そしてアフリカの政治・経済・社会の諸様相について論じる。さらに、一之瀬教授から、世界の環境問題について国際法的観点を含めて具体的な講義が行われる。続いて、辻教授が、現代中国にみられる経済発展を、その背後にある中国の歴史的・社会的諸比較文化特殊講義（英国人と日本人の生き方の比較a）条件と関連させて考察し、そしてまた現在の中国にある農業問題と社会諸問題をとらえたうえで、中国の将来を予測する。最後に、有吉教授によって、近代化・産業化に伴ってすべての国に人口の高齢化が起こるが、各国の高齢者の生活と意識は、各国の文化との関係でいかに大きく違ってくるかが、説明される。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>講義に注意を集中して、常に自分の考え・意見をまとめる努力をすること。各回の終わりに質問・意見を求める。</p> <p>◆評価方法</p> <p>各先生の講義の終了後、レポートが求められたり、テストが行われたりするが、それらが総合的に評価される。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の資料は適時配布される。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際経済と為替 ゲスト・スピーカー 益山経済学部助教授 2. 日本経済と外国為替市場 ゲスト・スピーカー 益山助教授 3. 先進国アメリカ合衆国と発展途上国メキシコとの文化交流の歴史 ゲスト・スピーカー 佐藤外国語学部教授 4. メキシコ北部地帯にみられるメキシコ人の生活 ゲスト・スピーカー 佐藤教授 5. 現代アフリカの経済と社会 ゲスト・スピーカー 千代浦経済学部教授 6. 現代アフリカの経済と社会 ゲスト・スピーカー 千代浦教授 7. 国際的な環境問題 ゲスト・スピーカー 一之瀬法学部教授 8. 世界の環境問題への国際法的アプローチ ゲスト・スピーカー 一之瀬教授 9. 現代中国にみられる伝統と社会主義の遺産 ゲスト・スピーカー 辻外国語学部教授 10. 現代中国にみられる農業問題と社会問題 ゲスト・スピーカー 辻教授 11. 高齢者の生活と意識の国際比較 コーディネータ 有吉広介本学名誉教授 12. 高齢者の生活と意識への文化の影響 コーディネータ 有吉名誉教授 		

全カリ	全学総合講座（日本文化を考える－ことばとところ） （春学期）	担当者	飯島一彦
<p>◆講義目標</p> <p>日本文化と言った時の「日本」とは一体何を、 どういう範囲を指して「日本」と言うのだろうか？ 「文化」とは何を意味しているのだろうか？実は分 かっていくようでよく分からないのだ。明治維新 後、civilisation の訳語として「文明開化」とい う語が使われ、それが明治末年からつづめられて 「文化」という語として使われるようになった。 しかし現在では「文化」とはある特定の間人集団 が重要視し、共通して持つ価値観や行動の結果の 総体として捉えることが当然となっている では我々は、我々自身の総体をどう捉えるのか？ そのような命題を根底において、様々な側面から 「日本」の「文化」を考え直してみる、というの が本講座の目的である。</p> <p>◆講義概要</p> <p>春学期は「ことばとところ」と題して、日本文化 の基本を形成する「日本語」が、日本文化の「こ ころ」をどう表現してきたかを中心に、具体例を 目前にして実感することをも設定して、日本語を 用いて生きる人間を多面的に捉えようとする試み である。</p> <p>国際化社会を迎えた我々が現実にそれと向き合 って直面するのは、「あなたの国の文化はどんな もの？」という問い掛けである。留学経験者でそ のような問い掛けを受けて返答に窮した日本人は 多い。これでは国際社会で日本人は対等に交際し ていくことは出来まい。しかしそのような状況を 「日本語は曖昧だから」とか「日本語は非論理的 な言語だから」と言って、日本語を特殊で世界に 通用しない言語だとおとしめることで納得してい ないだろうか？ そんなことはないのだ。それを明らかにする内 容で諸君に刺激を与えていく。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>世間に流布喧伝されている「日本文化」に対する 常識に感わされない心と、毎回の出席。好奇心を 持って毎回出席しないと学期末試験でよい成績が とれない。</p> <p>◆評価方法</p> <p>定期試験の成績。定期試験は各回のゲストスピー ーカーが採り上げた具体的なテーマをキーワードで示 し、それに対する論述で行う。誤字脱字、不真面 目な答案などは大幅な減点対象とする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各回のゲストスピーカーの指定があればあらかじめ 示す。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 本学教授 飯島一彦 「日本」とは何か？「文化」とは何か？ 2 日本語は特殊な言語か？ 本学教授 中西家栄子 語順・語法から見た世界の中の日本語 3 論理的な日本語、非論理的な日本語 本学教授 飯島一彦 何をどう表現するか、明晰さ、曖昧さ 文脈・環境への非依存性と依存性 「する言語」と「ある言語」の特性と使い方 「知」の表現と「情」の表現 4 日本語の表現の力Ⅰ 観世流シテ方能楽師 観世喜正 カタリ（能）の手法による表現① （日常表現・非日常表現） 5 日本語の表現の力Ⅱ 観世流シテ方能楽師 観世喜正 カタリ（能）の手法による表現② 6 日本語の表現の力Ⅲ 八重山古典民謡保存会主宰 大底朝要 ウタ（民謡）の表現 情（心）の表現の実際 7 日本語の表現の仕方Ⅳ 本学教授 松丸壽雄 論理的な表現とはどういう表現か？ 「知」の表現の実際 8 日本語の表現と中国語の表現 本学教授 辻 康吾 諺・標語から 9 日本語を教えるということ 本学教授 浅山佳郎 文化の衝突の中の日本語 10 日本語で考えるということ 本学教授 東 孝博 数学と日本語 11 歴史の中の日本語 山梨県立女子短期大学教授 二戸麻砂彦 日本語の今昔 12 まとめ 本学教授 飯島一彦 （題目の順番は前後する可能性があります） 	

全カリ	全学総合講座（日本文化を考える－行動と思索）（秋学期）	担当者	飯島一彦
-----	-----------------------------	-----	------

◆講義目標

日本文化と言った時の「日本」とは一体何を、どういう範囲を指して「日本」と言うのだろうか？「文化」とは何を意味しているのだろうか？実は分かっているようでよく分からないのだ。明治維新後、civilisationの訳語として「文明開化」という語が使われ、それが明治末年からつづめられて「文化」という語として使われるようになった。しかし現在では「文化」とはある特定の間人集団が重要視し、共通して持つ価値観や行動の結果の総体として捉えることが当然となっている。では我々は、我々自身の総体をどう捉えるのか？そのような命題を根底において、様々な側面から「日本」の「文化」を考え直してみる、というのが本講座の目的である。

◆講義概要

秋学期は「行動と思索」という観点から、「日本文化」の中に生きる人間がどう行動し思索してきたのか、それを多面的に具体的に捉えようとする試みである。

国際化社会を迎えた我々が現実にそれと向き合っ直面するのは、「あなたの国の文化はどんなもの？」という問い掛けである。留学経験者でそのような問い掛けを受けて返答に窮した日本人は多い。これでは国際社会で日本人は対等に交際していくことは出来まい。しかも、「日本人はエコノミックアニマルだ」とか「なんでも曖昧にしたがる国民性だから」と言ってお茶を濁せる時代は既に終わっている。

明治維新以来の自虐的な文化観を払拭し、「日本の文化とはこういう文化で、こういう風に行動し思索するのです」と具体的に、明確に発言することができるように、今みずから問い掛けをする材料を様々な側面から提供し、学生諸君に考えてもらう。

◆受講生への要望

世間に流布喧伝されている「日本文化」に対する常識に惑わされない心と、毎回の出席。好奇心を持って毎回出席しないと学期末試験でよい成績がとれない。

◆評価方法

定期試験の成績。定期試験は各回のゲストスピーカーが採り上げた具体的なテーマをキーワードで示し、それに対する論述で行う。誤字脱字、不真面目な答案などは大幅な減点対象とする。

◆テキスト、参考文献

各回のゲストスピーカーの指定があればあらかじめ示す。

◆授業計画

- 1 オリエンテーション・導入
本学教授 飯島一彦
「日本」とは何か？「文化」とは何か？
- 2 日本人はどう生きてきたか？
本学教授 飯島一彦
「文化」の中での振る舞い、考え方
異文化との接触によって生じる客観化
「文化」の伝承と創造
- 3 日本の教育史
本学助教授 川村 肇
教育とは何か
日本人はどのように教育してきたか
- 4 日英教育制度の比較
本学名誉教授 有吉広介
文化の差による教育制度の差
- 5 異文化と接触するということ
本学教授 浅山佳郎
日本とアジア、
- 6 日本文化と環境Ⅰ
本学教授 加藤倍重
照葉樹林帯文化ということ
- 7 日本文化と環境Ⅱ
本学教授 加藤倍重
照葉樹林帯と夏緑樹林帯
- 8 日本文化を守る
Building Bridge 代表 服部抄織
文化遺産としての身近な文化
民家保存の実態と意義
- 9 日本の食文化、中国の食文化Ⅰ
本学教授 辻 康吾
麺・小麦粉・米
- 10 日本の食文化、中国の食文化Ⅱ
本学教授 辻 康吾
ラーメン文化論
- 11 日本の広告・海外の広告
本学教授・学長 梶山 皓
広告から見る日本文化
- 12 まとめ
本学教授 飯島一彦
(題目の順番は前後する可能性があります)

全カリ	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	（春学期）	担当者	未定
<p>◆講義目標</p> <p>「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など、日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職・雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化が起きています。社会は広く深い教養基盤の上に専門を持った人材を求めています。一方ではせっかく就職したのに、3年以内に離職する若者が3割にも達するという結果がでています。その主な理由は学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生で最も重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容を問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあっ生き方をデザインし充実した学生生活をおくれるよう支援するものです。</p> <p>◆講義概要</p> <p>講義は、 がコーディネータを担当します。生きるためにはなにかの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標をもってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれません。キャンパスライフの目標を見つけるために、しんぼうして講義に出席しているとだんだんはつきりとしてくるでしょう。卒業時の明瞭な将来像が楽しみです。</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（10回以上出席のこと）を総合して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。</p> <p>講義の中で参考文献を紹介します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義の目的、進め方などの説明 担当：未定</p> <p>第2回 企業で働く（企業が学生に求めるもの） 担当：IBM 小室 晃</p> <p>第3回 公共部門（教員・公務員・公益法人・NPO）で働く 担当：未定</p> <p>第4回 男女共同参画社会（男女共同参画社会を推進する） 担当：未定</p> <p>第5回 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 担当：山越 徳（経済学部教授）</p> <p>第6回 ベンチャー企業を起業する（起業を意識して働く） 担当：上坂 卓郎（経済学部教授）</p> <p>第7回 正社員とフリーター 担当：小杉 礼子（労働政策研究・研修機構）</p> <p>第8回 仕事と適性（仕事をどのように選ぶか） 担当：木村 周（拓殖大学客員教授）</p> <p>第9回 自己理解・自己表現 担当：津久井 洋（時事通信社）</p> <p>第10回 トップは語る 担当：未定</p> <p>第11回 活躍するOB・OG 担当：未定</p> <p>第12回 キャンパスライフと仕事 パネルディスカッションによる授業を予定 担当：未定</p>		

全カリ	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	（秋学期）	担当者	未定
<p>◆講義目標</p> <p>「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など、日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職・雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化が起きています。社会は広く深い教養基盤の上に専門を持った人材を求めています。一方ではせっかく就職したのに、3年以内に離職する若者が3割にも達するという結果がでています。その主な理由は学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生で最も重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容を問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあっ生き方をデザインし充実した学生生活をおくれるよう支援するものです。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義の目的、進め方などの説明 担当：未定</p> <p>第2回 企業で働く（企業が学生に求めるもの） 担当：IBM 小室 晃</p> <p>第3回 公共部門（教員・公務員・公益法人・NPO）で働く 担当：未定</p> <p>第4回 男女共同参画社会（男女共同参画社会を推進する） 担当：未定</p> <p>第5回 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 担当：山越 徳（経済学部教授）</p> <p>第6回 ベンチャー企業を起業する（起業を意識して働く） 担当：上坂 卓郎（経済学部教授）</p> <p>第7回 正社員とフリーター 担当：小杉 礼子（労働政策研究・研修機構）</p> <p>第8回 仕事と適性（仕事をどのように選ぶか） 担当：木村 周（拓殖大学客員教授）</p> <p>第9回 自己理解・自己表現 担当：津久井 洋（時事通信社）</p> <p>第10回 トップは語る 担当：未定</p> <p>第11回 活躍するOB・OG 担当：未定</p> <p>第12回 キャンパスライフと仕事 パネルディスカッションによる授業を予定 担当：未定</p>		
<p>◆講義概要</p> <p>講義は、 がコーディネータを担当します。生きるためにはなにかの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標をもってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。</p>				
<p>◆受講生への要望</p> <p>将来どのように生きていくかイメージしてみましよう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれませんが。キャンパスライフの目標を見つけるために、しんぼうして講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時の明瞭な将来像が楽しみです。</p>				
<p>◆評価方法</p> <p>レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（10回以上出席のこと）を総合して評価します。</p>				
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。</p> <p>講義の中で参考文献を紹介します。</p>				

全カリ	全学総合講座（ 未 定 ）（秋学期）	担当者	岡村 圭子
<p>◆講義目標</p> <div data-bbox="108 219 746 645" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px;"> <p>シラバスは、 秋学期に配付します。</p> </div> <p>◆講義概要</p> <div data-bbox="108 721 746 1326" style="border: 1px solid black; height: 270px; margin: 5px;"></div> <p>◆受講生への要望</p> <div data-bbox="108 1370 746 1563" style="border: 1px solid black; height: 86px; margin: 5px;"></div> <p>◆評価方法</p> <div data-bbox="108 1594 746 1751" style="border: 1px solid black; height: 70px; margin: 5px;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div data-bbox="108 1796 746 2087" style="border: 1px solid black; height: 130px; margin: 5px;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div data-bbox="778 228 1455 2087" style="border: 1px solid black; height: 830px; margin: 5px;"></div>	

全カリ	全学総合講座（獨協学）	（春学期）	担当者 堅田 剛																																				
<p>◆講義目標</p> <p>「獨協学」とは、主として新入生の皆さんに獨協（大学・学園）の過去・現在・未来を考えてもらう授業です。縁あって獨協の一員となった皆さんと私たちとで、獨逸学協会の歴史や獨協大学の現状を共有し、獨協の近未来像を一緒にデザインしてみたいと思います。「獨協学」は全学共通授業科目の一環として、学部・学科を問わず全学的に開かれています。さらに学生諸君だけでなく、教職員はもとより、社会にも世界にも開かれた自由な授業をめざします。この授業を「ニュー獨協」の発信基地として共に育ててください。獨協を「共育」しましょう。</p> <p>私たちはなぜこの大学で学ぶのでしょうか。アイデンティティーを確認するための「獨協学」です。</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="815 255 847 282">1</td> <td data-bbox="887 255 1276 434">獨協の歴史を振り返る ミニ・シンポジウム 司会：堅田剛 パネリスト：酒井府 鳥谷部志乃惠 新宮讓治</td> <td data-bbox="1433 255 1485 282">4/15</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 465 847 492">2</td> <td data-bbox="887 465 1276 524">獨逸学協会と明治法制（その1） 担当：堅田剛</td> <td data-bbox="1433 465 1485 492">4/22</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 555 847 582">3</td> <td data-bbox="887 555 1276 613">獨逸学協会と明治法制（その2） 担当：堅田剛</td> <td data-bbox="1449 555 1485 582">5/6</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 645 847 672">4</td> <td data-bbox="887 645 1276 730">獨逸学協会と明治法制（その3） 担当：堅田剛 第1レポート課題</td> <td data-bbox="1433 645 1485 672">5/13</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 761 847 788">5</td> <td data-bbox="887 761 1276 819">戦争・平和・獨協（その1） 担当：新宮讓治</td> <td data-bbox="1433 761 1485 788">5/20</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 851 847 878">6</td> <td data-bbox="887 851 1276 909">戦争・平和・獨協（その2） 担当：新宮讓治</td> <td data-bbox="1433 851 1485 878">5/27</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 940 847 967">7</td> <td data-bbox="887 940 1276 1052">戦争・平和・獨協（その3） 担当：新宮讓治 第1レポート締切 第2レポート課題</td> <td data-bbox="1449 940 1485 967">6/3</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 1084 847 1111">8</td> <td data-bbox="887 1084 1276 1142">西田哲学と天野貞祐（その1） 担当：松丸壽雄</td> <td data-bbox="1433 1084 1485 1111">6/10</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 1173 847 1200">9</td> <td data-bbox="887 1173 1276 1232">西田哲学と天野貞祐（その2） 担当：松丸壽雄</td> <td data-bbox="1433 1173 1485 1200">6/17</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 1263 847 1290">10</td> <td data-bbox="887 1263 1276 1375">西田哲学と天野貞祐（その3） 担当：松丸壽雄 第2レポート締切 第3レポート課題</td> <td data-bbox="1433 1263 1485 1290">6/24</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 1406 847 1433">11</td> <td data-bbox="887 1406 1276 1491">特別講演 「獨協教師としてのミヒャエーリス」（仮題） 講師：中井晶夫氏（上智大学名誉教授）</td> <td data-bbox="1433 1406 1485 1433">7/1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="815 1523 847 1550">12</td> <td data-bbox="887 1523 1276 1671">獨協大学の近未来を探る ミニ・シンポジウム パネリスト：堅田剛 鳥谷部志乃惠 新宮讓治</td> <td data-bbox="1433 1523 1485 1550">7/8</td> </tr> </table> <p>※ 第4レポートおよび自由提出レポートの締切は、7月31日とする。</p>		1	獨協の歴史を振り返る ミニ・シンポジウム 司会：堅田剛 パネリスト：酒井府 鳥谷部志乃惠 新宮讓治	4/15	2	獨逸学協会と明治法制（その1） 担当：堅田剛	4/22	3	獨逸学協会と明治法制（その2） 担当：堅田剛	5/6	4	獨逸学協会と明治法制（その3） 担当：堅田剛 第1レポート課題	5/13	5	戦争・平和・獨協（その1） 担当：新宮讓治	5/20	6	戦争・平和・獨協（その2） 担当：新宮讓治	5/27	7	戦争・平和・獨協（その3） 担当：新宮讓治 第1レポート締切 第2レポート課題	6/3	8	西田哲学と天野貞祐（その1） 担当：松丸壽雄	6/10	9	西田哲学と天野貞祐（その2） 担当：松丸壽雄	6/17	10	西田哲学と天野貞祐（その3） 担当：松丸壽雄 第2レポート締切 第3レポート課題	6/24	11	特別講演 「獨協教師としてのミヒャエーリス」（仮題） 講師：中井晶夫氏（上智大学名誉教授）	7/1	12	獨協大学の近未来を探る ミニ・シンポジウム パネリスト：堅田剛 鳥谷部志乃惠 新宮讓治	7/8
1	獨協の歴史を振り返る ミニ・シンポジウム 司会：堅田剛 パネリスト：酒井府 鳥谷部志乃惠 新宮讓治	4/15																																					
2	獨逸学協会と明治法制（その1） 担当：堅田剛	4/22																																					
3	獨逸学協会と明治法制（その2） 担当：堅田剛	5/6																																					
4	獨逸学協会と明治法制（その3） 担当：堅田剛 第1レポート課題	5/13																																					
5	戦争・平和・獨協（その1） 担当：新宮讓治	5/20																																					
6	戦争・平和・獨協（その2） 担当：新宮讓治	5/27																																					
7	戦争・平和・獨協（その3） 担当：新宮讓治 第1レポート締切 第2レポート課題	6/3																																					
8	西田哲学と天野貞祐（その1） 担当：松丸壽雄	6/10																																					
9	西田哲学と天野貞祐（その2） 担当：松丸壽雄	6/17																																					
10	西田哲学と天野貞祐（その3） 担当：松丸壽雄 第2レポート締切 第3レポート課題	6/24																																					
11	特別講演 「獨協教師としてのミヒャエーリス」（仮題） 講師：中井晶夫氏（上智大学名誉教授）	7/1																																					
12	獨協大学の近未来を探る ミニ・シンポジウム パネリスト：堅田剛 鳥谷部志乃惠 新宮讓治	7/8																																					
<p>◆講義概要</p> <p>本年度は、堅田（法学部）がコーディネーターとなり、新宮讓治、松丸壽雄の両先生にご協力いただきます。また初回と最終回にミニ・シンポジウムをおこない、酒井府および鳥谷部志乃惠先生にも出席していただきます。さらに、上智大学名誉教授の中井晶夫先生には、特別講演会として、外部から見た獨協について語っていただきます。</p> <p>「独」りではなく「協」力してこそ獨協学です。昨年度は獨逸学協会学校が開設されてちょうど120年の節目になりました。また今年度はその後進である我が獨協大学の創立40周年に当たります。ちょうどいい機会ですので、講義では獨逸学協会や獨協中高や天野貞祐先生の事跡について、明治・大正・昭和の社会的背景とも絡めながら紹介していきます。獨協大学の歴史についても振り返って、大学のあまり遠くない将来像についても考えてみましょう。</p> <p>この授業では、単なる輪講形式ではなく、ミニ・シンポジウムやディスカッションなども採り入れながら、いわゆる参加型の授業を心がけます。</p>																																							
<p>◆受講生への要望</p> <p>「獨協学」は獨協の歴史を継承し、ニュー獨協を創っていくための授業です。教える・教えられるの関係を超えて、この授業を共に育てていきましょう。学生諸君の主体的な参加を強く望みます。質問・要望等は、メールでも受け付けます。 tkatada@dokkyo.ac.jp</p>																																							
<p>◆評価方法</p> <p>授業の進展と並行して4本以上のレポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。状況により、これに出席点を加味します。定期試験は実施しません。</p>																																							
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは用いません。参考文献は以下のとおり。</p> <p>①天野貞祐『学生に与ふる書』岩波新書、1939年 ②齊藤博『歴史の精神』学文社、1986年 ③中井晶夫『ドイツ人とスイス人の戦争と平和——ミヒャエーリスとニッポルト』南窓社、1995年 ④堅田剛『獨逸学協会と明治法制』木鐸社、1999年 ⑤瀧井一博『ドイツ国家学と明治国制——シュタイン国家学の軌跡』ミネルヴァ書房、1999年</p>																																							

全カリ	全学総合講座（教えるという仕事）（春学期・秋学期）	担当者	川村 肇
<p>◆講義目標</p> <p>教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期</p> <p>第1回 4月13日 導入（川村）／アンケート</p> <p>第2回 4月20日 中学校という職場1（会沢）</p> <p>第3回 4月27日 中学校という職場2（岡田）</p> <p>第4回 5月11日 現代の中学生1（田辺）</p> <p>第5回 5月18日 現代の中学生2（田辺）</p> <p>第6回 5月25日 ことばを教える1（高原）</p> <p>第7回 6月1日 ことばを教える2（高原）</p> <p>第8回 6月8日 社会の中の子ども1（笠原）</p> <p>第9回 6月15日 社会の中の子ども2（笠原）</p> <p>第10回 6月22日 教えるという仕事1（中村）</p> <p>第11回 6月29日 教えるという仕事2（中村）</p> <p>第12回 7月6日 まとめ（川村）</p> <p>秋学期</p> <p>第1回 9月28日 導入（川村）／アンケート</p> <p>第2回 10月5日 中学校という職場1（会沢）</p> <p>第3回 10月12日 中学校という職場2（岡田）</p> <p>第4回 10月19日 現代の中学生1（田辺）</p> <p>第5回 10月26日 現代の中学生2（田辺）</p> <p>第6回 11月9日 ことばを教える1（高原）</p> <p>第7回 11月16日 ことばを教える2（高原）</p> <p>第8回 11月30日 社会の中の子ども1（笠原）</p> <p>第9回 12月7日 社会の中の子ども2（笠原）</p> <p>第10回 12月14日 教えるという仕事1（中村）</p> <p>第11回 12月21日 教えるという仕事2（中村）</p> <p>第12回 1月11日 まとめ（川村）</p>	
<p>◆講義概要</p> <p>教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。お招きするのは、埼玉県の中学校の現役の先生方および、さいたま教育研究所の、下記の先生です。</p> <p>会沢 昭（草加市新田中学校教諭）</p> <p>岡田祥志（草加市瀬崎中学校教諭）</p> <p>田辺一馬（与野南中学校教諭）</p> <p>高原史朗（与野南中学校教諭）</p> <p>笠原昭男（岩槻市城北中学校教諭）</p> <p>中村悌一（さいたま教育研究所所員）</p> <p>それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています。みなさんの考える素材を提供する科目にしたいと考えています。</p>			
<p>◆受講生への要望</p> <p>教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎します。できれば討論の時間もとりたいと思っています。積極的、意欲的に参加してください。</p>			
<p>◆評価方法</p> <p>毎回の感想文提出をもって出席点とし、最終レポートと併せて評価する予定です。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>			

全カリ	全学総合講座(平和と人権——アジア地域の紛争と私たち) (春学期)	担当者	古関 彰一
<p>◆講義目標</p> <p>冷戦終結以降、戦争・紛争の形態は大きく変貌しました。従来、戦争・紛争はその多くが国家間あるいは国家対国内勢力で行われてきましたが、冷戦終結後は、その形態を変えつつあります。また、戦場は、アジア・アフリカの第三世界がほとんどです。</p> <p>本講座は、アジアで行われている紛争の現状を講義し、あわせて日本がこれらの紛争、そこに生きている人々とどのような関係にあるのか、平和構築のために何をなすべきなのかを考えることを目的としています。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって——この講座の意図と内容。成績評価の基準、事務的手続きなど。担当：古関 2 ビルマ民主化問題の背景と概略 担当：永井浩（ビルマ市民フォーラム代表、神田外国語大学教授） 3 在日ビルマ人難民申請の現状と課題 担当：渡辺彰悟（ビルマ市民フォーラム事務局長、弁護士） 4 対人地雷の現状（カンボジアを中心に） 担当：清水俊弘（日本国際ボランティアセンター事務局長） 5 対人地雷禁止条約の現状と課題 担当：清水俊弘（日本国際ボランティアセンター事務局長） 6 東チモールの歴史と独立 担当：井上礼子（アジア・太平洋資料センター共同代表） 7 東チモールの現状 担当：井上礼子（アジア・太平洋資料センター共同代表） 8 アフガニスタンの歴史とタリバン政権 担当：前田 朗（アフガニスタン国際民衆法廷共同代表、東京造形大学教授） 9 アフガン戦争と国際民衆法廷 担当：前田 朗（アフガニスタン国際民衆法廷共同代表、東京造形大学教授） 10 在日アジア人の人権問題の課題 担当：金 竜介（弁護士） 11 難民条約と日本の難民認定 担当：渡辺彰悟（弁護士） 12 閉講にあたって——日本から「平和と人権」のいまを考える。 担当：古関 	
<p>◆講義概要</p> <p>講師は、これら紛争地域の現状に詳しく、専門的に調査・研究してきた方々です。</p> <p>4つの紛争地域を取り上げ、6つのテーマでそれぞれの講師が講義します。</p>			
<p>◆受講生への要望</p> <p>外部の講師による講義です。多忙なかをお出でいただきます。出席だけを目的にして教室に入り、講師や他の受講生に迷惑になる行為は絶対にしないようにお願いします。</p>			
<p>◆評価方法</p> <p>出席を重視します。春学期の最後にレポートの提出を課します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講師が、授業で指示します。</p>			

全カリ	全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）（春学期）	担当者	斉藤 美彦
-----	-----------------------------------	-----	-------

◆講義目標

近年の働くことをめぐる話題としては、リストラや失業率の上昇、フリーター・パート労働者等の非正規労働者の増加など働く側からすると厳しいものが多い。弱い立場の労働者を守る労働組合もその組織率は低下し続けている。本講義では、労働問題の基礎を色々な切り口から検討することを通じて、私たちのくらしと労働がどのようにかかわっているかについて考えることとする。

◆講義概要

講義は、授業計画のとおり毎回多彩なゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係の講師が多くなっているが、経営者団体からも講師を招き、「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

◆受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、今何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。

◆評価方法

レポートによる。

◆テキスト、参考文献

各回の講義において指示する。

◆授業計画

1. 働くということの意味～労働観の変遷～
全労済理事長 鷺尾 悦也
2. 労働法の基礎知識（１）労働基準法
全労済理事長 鷺尾 悦也
3. 労働法の基礎知識（２）労働組合法
労働関係調整法
全労済理事長 鷺尾 悦也
4. 労働協約論
全労済理事長 鷺尾 悦也
5. 労使関係論（１）経営の立場から
日本経団連専務理事 矢野 弘典
6. 労使関係論（２）労働組合の立場から
連合事務局長 草野 忠義
7. 労働運動（１）労働運動の歴史（春闘の歴史）
全労済理事長 鷺尾 悦也
8. 労働運動（２）労働組合機能とあり方
全労済理事長 鷺尾 悦也
9. 賃金の基礎知識
全労済理事長 鷺尾 悦也
10. 国際労働運動とILO
連合総合国際局長・ILO理事 恒川 謙司
11. 社会保障制度のあり方
連合生活福祉局長 小島 茂
12. おわりに～くらしと労働～
全労済理事長 鷺尾 悦也

全カリ	全学総合講座（ものづくりの現場から）（春学期・秋学期）	担当者	高松 和幸
<p>◆講義目標</p> <p>この講座の特徴は、企業のトップマネジメント経験者による、企業という生きた教材を使った実践的な授業にあります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>I. 「ものをつくる」</p> <p>第1回（4/13） 売れる商品をどうつくるか 新車開発から販売戦略まで 「セフィーロ」開発の事例から 藤井 篤 元日産自動車取締役、武蔵工大非常勤講師</p> <p>第2回（4/20） 消費財メーカーのマーケティング 毎年最高益を更新する勝ち組、花王の強さの秘訣は何か 山田重生 元花王取締役、専修大学特別講座講師</p> <p>第3回（4/27） 技術開発のポイント F1レースを席巻する、世界のビッグ3ブリヂストンの強さは何処にあるか 原田忠和 元ブリヂストン副社長、拓殖大学公開講座講師</p> <p>II. 「ものを売る」</p> <p>第4回（5/11） 大型DIYチェーンの経営戦略 大型店舗を如何に成功させるか 東急ハンズの出店計画、品揃えその他 高久 繁 元東急ハンズ専務、横浜市大トップマネジメント講座講師</p> <p>第5回（5/18） レストラン出店の成功の鍵 7サビールのレストラン事業展開の事例 東 泰秀 元7サビール取締役、専修大学特別講座講師</p> <p>第6回（5/25） 総合商社の再構築 激変する総合商社の機能と役割、その苦悩と現状、打開策は何か 森本 浩 元トヨタ執行役員、多摩大学特別講座講師</p> <p>III. 「会社のしくみ」</p> <p>第7回（6/1） 会社のしくみ 企業活動の本質、組織・人事のあり方、意思決定の流れ、経営の責任 合田隆年 元宇部興産専務、横浜市大トップマネジメント講座講師</p> <p>第8回（6/8） コーポレートガバナンス 会社経営の理念、会社は誰のものか、誰のためにあるのか 広瀬駒雄 元オリックス専務、</p> <p>IV. 「ものを運ぶ」</p> <p>第9回（6/15） 眠れる巨大産業—ツリズム 複合産業「ツリズム産業」の実態と展望 ツリズム産業 “後進国” 日本の振興策は 山下光二 元全日空専務、拓殖大学客員教授、流通経済大学講師</p> <p>第10回（6/22） 日本の海運業界の進む道 一般貨物、原油、自動車運搬から豪華 客船まで海運のAtoZ と今後の展望 本郷公基 元大阪商船三井船舶監査役、鎌倉市生涯教育推進委員</p> <p>V. 「海外に展開する」</p> <p>第11回（6/29） 中国進出に学ぶもの 中国宝山製鉄所建設現場の経験から 日本企業の海外進出の難しさ 梅津善徳 元新日本製鉄中国協力本部員</p> <p>第12回（7/6） 東南アジアで成功するポイント 東レ/デュポンの合弁会社の東南アジア戦略から学んだもの 大久保弘明 元東レ理事、デュポン・アジアパシフィック副社長、拓殖大学客員教授</p>	
<p>◆講義概要</p> <p>講師陣は、日本を代表する企業の元取締役、海外現地法人の責任者などからなり、授業はオムニバス形式で行われます。受講者は教科書で学ぶことが出来ないビジネスの実際について、様々な視点から学ぶことが出来ます。今回は生産現場でのいくつかの事例を中核にして、流通、販売の実際や、海外での事業展開のポイント、更にはコーポレートガバナンスについて企業戦略の全貌を学ぶものです。</p>			
<p>◆受講生への要望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自由に明るくやってほしいが、講義中の私語、携帯電話、飲食は禁止する。 2. 服装は自由を原則とするが、大学の講義室に相応しい着衣とする。 3. 講中受講者の質問、相談は歓迎する。 (メールによるフォローアップを可能にする) 			
<p>◆評価方法</p> <p>出席状況（50%）、小レポート（40%）、その他質問・対話の状況（10%）</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>別途、講義時に参考文献等を紹介する。</p>			

全カリ	全学総合講座（21世紀を探るⅠ）	（春学期）	担当者	辻 康吾
<p>◆講義目標</p> <p>21世紀はグローバル化の時代と言われ、この時代を生きようとするものはこれまで以上に国際であることを求められている。とりわけ大学での専攻、専門にかかわらず実社会での活動も日に日に国際化の方向に向かっており、まったく国際的環境と関係のない分野、企業、職種を見つけることのほうが困難である。</p> <p>そうした時代に対応してゆく中で日本国内、あるいは特定の国との関係のみならず、広く世界の中で日本はいかなる国とされているかということを理解しておくことが一層必要になっている。そのため在日外国人記者を中心にそれぞれの見解を語ってもらい、諸君の参考としたい。</p> <p>◆講義概要</p> <p>各回とも在日外国人からそれぞれの日本観、あるいはそれぞれの専門を通じての日本の国際的位置、状況について考えを聞く。原則として日本語での講義を予定しているが、平易な英語による講義もある。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>この講義を通じて大学における他の学習に役立つ情報を獲得して欲しい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>毎回の小テスト、出席点で評価する。期末試験は行なわない。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>とくに指定しないが、毎日の新聞、ニュースに注意し、講義で言及される事件、状況について理解できるよう心がける。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>（2004年度春学期は“Japan in my eye”という副題で講義を進める。講師は主に駐日外国人特派員である。講師の多くは多忙のため講義順序は変動的である）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ANDREW HORVAT アジア財団日本代表 2 ROGER SCHREFLER WARD'S COMMUNICATION アジア特派員 3 HANS VAN DER LUGT NRC-HANDELSBLAD 特派員 元外国人記者協会会長 4 VASSILI GOLOVNIN ITAR-TASS 通信日本特派員 5 LEO LEWIS THE TIMES 日本特派員 6 JORGE FERRERAS NHK 国際局 7 8 9 10 11 12 		

全カリ	全学総合講座（21世紀を探るⅡ）	（秋学期）	担当者	辻 康吾
<p>◆講義目標</p> <p>シラバスは、 秋学期に配付します。</p>		<p>◆授業計画</p>		
<p>◆講義概要</p>				
<p>◆受講生への要望</p>				
<p>◆評価方法</p>				
<p>◆テキスト、参考文献</p>				

全カリ	全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家） （春学期・秋学期）	担当者	（春学期）古川堅治 （秋学期）佐藤勘治
◆講義目標 21世紀は様々な分野でグローバル化が進み、人・物・情報が国境を越えて自由に出入りするようになった。このような状況は、一方で、人々が国家という枠を越えた新しい集団単位を必要としていく動きを加速させると同時に、他方で、従来の国を単位として生活基盤を置いてきたわれわれの帰属意識を含めていろいろな影響を及ぼしてきている。本講座では、このようなグローバル化に伴って国家と国境がどのように変容しているのかを世界各地からいくつかの事例を取り出して考えていくことによって、人々の共存のあり方を探ることを目標としている。		◆授業計画 1 はじめに 問題提起、講座全体の概要、講義の進め方等 担当：古川堅治/佐藤勘治（外国語学部教授） 2 カリブ海地域の国家（1） ～背景としての特殊な歴史～ 担当：井上兼行（外国語学部教授） 3 カリブ海地域の国家（2） ～国家と民族～ 担当：井上兼行（同） 4 カリブ海地域の国家（3） ～国家と言語～ 担当：井上兼行（同） 5 朝鮮半島と日本（1） 担当：小倉紀蔵（東海大学助教授） 6 朝鮮半島と日本（2） 担当：小倉紀蔵（同） 7 現代中国の国家と国境（1） ～中華世界と中国国境～ 担当：辻 康吾（外国語学部教授） 8 現代中国の国家と国境（2） ～中国の国境問題～ 担当：辻 康吾（同） 9 多民族国家カナダ（1） ～カナダ国家概観（移民と迫害）～ 担当：桜井悠美（新潟大学非常勤講師） 10 多民族国家カナダ（2） ～次世代育成の人材確保をめざして（子育て支援の理念と実践）～ 担当：桜井悠美（同） 11 多民族国家カナダ（3） ～カナダから見た日本の現状～ 担当：桜井悠美（同） 12 おわりに ～まとめと展望～ 担当：古川堅治/佐藤勘治	
◆講義概要 講義は、古川（春学期）と佐藤（秋学期）がコーディネーターとなり、「はじめに」で問題提起と諸概念の説明、講座全体の概要を紹介したあと、具体的考察対象として、最初にカリブ海地域の国家をめぐる諸問題を三回にわたって扱う。この際、この地域の国家成立の特殊性などを中心とした整理がなされる。次に朝鮮半島と日本との政治的文化的関わり合いについて二回連続で扱い、続いて現代中国の国家意識と国境問題を二回にわたって取り上げ、東アジアの大国中国の抱える諸問題を提示する。最後に、カナダの子供たちを取り巻く環境から国家や国境と人権問題がどのように具体的に感じられているかを三回にわたって紹介し、最終回で全体の「まとめと展望」を試みる。			
◆受講生への要望 本講座で扱う内容はすぐれて現代的かつ重要な問題である。受講生諸君は、常日頃から新聞、テレビ等で世界情勢に目を向け、自分の考えをまとめつつ、授業に積極的・主体的に参加してもらいたい。			
◆評価方法 各担当教員ごとに小レポートあるいは小テストを実施し、それぞれの評価と併せ、かつ出席点を加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 統一的なテキストを使用することはない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。 なお、全体的な参考文献として以下のものを挙げておく。その他は、授業中に適宜紹介する予定。 ベネディクト・アンダーソン/白石さや・白石隆訳『増補 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』（NTT出版、2002）			

全カリ	全学総合講座（スポーツ・健康の世界）（春学期・秋学期）	担当者	松原 裕
<p>◆講義目標</p> <p>大学の起源を調べてみると、賢者の話を聞く所、という説があります。「スポーツ」も「健康」も耳慣れた言葉ですが、一人一人どんな人にも関係の深い世界です。今も持っているでしょうが、学校生活が終わると貴重な体育関係の時間もなくなり、全員がそれぞれの「スポーツの世界」「健康の世界」を持って生活することになります。縁あって獨協の一員となった皆さんが、生涯にわたって、スポーツ・健康を考える参考になる情報を提供するのがこの講義の目標です。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1～4 主に健康関連</p> <p>1 松原裕 授業ガイダンス・講師紹介 骨盤調整法の紹介</p> <p>2 音海紀一郎 誰でも出来る応急処置（理論）</p> <p>3 音海紀一郎 誰でも出来る応急処置（実技） *各自で三角巾を準備すること</p> <p>4 今野廣隆 健康生活の実践（総論）</p> <p>5～8 主にサッカー関連</p> <p>5 仲西駿策 サッカー事情</p> <p>6 田口禎則 プレーヤーとして</p> <p>7 永嶋正俊 レフェリーとして</p> <p>8 河本弘 スタッフとして</p> <p>9～12 主に社会学的な方面から</p> <p>9 中塚義実 社会学的なスポーツの見方・考え方</p> <p>10 吉田茂樹 取材の現場から①</p> <p>11 吉田茂樹 取材の現場から②</p> <p>12 今拓海 取材の現場から③</p> <p>注：取材の現場からは昨年度は 平和を考える（ヒッピー文化） 戦争を考える（パレスチナ）でした。</p>	
<p>◆講義概要</p> <p>講義は、松原（言語文化学科）がコーディネーターとなり、スポーツ・健康の世界でさまざまな経験を積んで来られた先輩の方々をゲストとしてお招きし、それぞれの角度からスポーツ・健康の世界に関わる話をしていただき、松原と受講生と一緒に勉強していくという形式で進めていきます。ゲストの先輩方はそれぞれ色々な経験をされてきていますので、初めて聞く話もあれば、同じ事柄に対してもわれわれ（松原と受講生）が思いもよらなかった解釈や示唆が飛び出す事でしょう。そういったものを引き出すのは聴衆の力ですので、受講生もまた主役のひとりです。</p>			
<p>◆受講生への要望</p> <p>良く聞き、良く考え、反芻した結果を言葉にし、文字にすることを心がける。自己の経験に左右されない自由な頭と感性をもって出席する。</p>			
<p>◆評価方法</p> <p>授業の各項目に即して3回レポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。これに出席点を加味します。定期試験は実施せず、平常点によって評価します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特定のテキストは用いません。必要に応じて資料を配布します。</p>			

全カリ	全学総合講座（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって） （春学期）	担当者	矢羽々 崇
<p>◆講義目標</p> <p>皆さんにとって、昔話・メルヒェンとはどのようなものでしょうか？ 子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？ これらの物語の形式は、その単純さのせいで軽視されたりもしますが、実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく、テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に、私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり、男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>詳しい講義内容については、4月第1週の授業で案内します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（矢羽々崇） 2. グリム童話の舞台（沖島博美先生） 3. 昔話の語り口・メッセージ（小澤俊夫先生） 4. 同 5. 昔話の国際比較（間宮史子先生） 6. 同 7. グリム童話の成立（矢羽々崇） 8. グリム童話の受容（渡部重美先生） 9. 同 10. 現代の昔話・メルヒェンの変容（宮谷尚実先生） 11. 同 12. パネル・ディスカッション （学生＋渡部・宮谷・矢羽々） 	
<p>◆講義概要</p> <p>この講座が目標とするのは、皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン、そして文学を意識し、できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である19世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた20世紀の様相。さらに今の私たちが生きる21世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら、21世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえば、この講座はその役割を果たすこととなります。講座は基本的に約1時間の講師による講義、残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。</p>			
<p>◆受講生への要望</p>			
<p>出席および学期末に行う試験によって決定します。欠席が4回以上は評価の対象としません。また試験では、講義内容を理解したかを確認する問題、そして特定のテーマに関する論述問題を出題する予定です。くわしくは第1回の講義にて説明します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第1回授業で指示します。</p>			

全カリ	全学総合講座（シラーの「歓喜に寄せて」とベートーヴェンの『第九交響曲』 その成立と受容）（秋学期）	担当者	矢羽々 崇
<p>◆講義目標</p> <p>毎年、年末になるとベートーヴェンの『第九交響曲』が日本中で演奏されます。また、『第九』は長野オリンピックの開会式など、さまざまな祝典で演奏されるようになり、かつ一般市民が参加するタイプの演奏会も増えています。</p> <p>この交響曲がどうしてできたのか（初演 1824 年）、そしてどのように受容されてきたのか、それを知ることがこの講座の 1 つのテーマです。</p> <p>もう 1 つのテーマは、作曲家ベートーヴェンと『第九』の歌詞を書いたシラーの生涯や作品、そして彼らの生きた時代と対比することで、現在の日本にいる自分たちを相対化して見るようになることがほしいと思います。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>外部にお願いする先生がまだ未確定なため、現段階では大枠だけを紹介します。</p> <p>学内の教員は、ドイツ語学科山路朝彦先生、渡部重美先生、矢羽々の 3 名です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回：導入 2. 『第九』の鑑賞 3. シラーとその時代 4. シラーの詩「歓喜に寄せて」 5. ベートーヴェンとその時代 6. 『第九』とその背景 7. 『第九』とその受容 8. 第 12 回：パネルディスカッション 	
<p>◆講義概要</p> <p>この講座では、シラー(1759～1805 年)とベートーヴェン(1770～1827 年)の生涯と作品、そして彼らの生きた時代を検討します。</p> <p>また、実際に『第九』を鑑賞したり、シラーのものと詩「歓喜に寄せて」をくわしく解釈します。今回の講座では、最近では日本でもあまり知られていないシラー（例えば太宰治の『走れメロス』はシラーの「人質」という詩をもとにしてます）にも、十分光をあてたいと思います。</p> <p>そして、シラー、あるいはベートーヴェンが後の時代にどう読まれ・聴かれ、どう偶像化され、かつ利用（悪用）されていったのか、その歴史を辿ります。</p>			
<p>◆受講生への要望</p>			
<p>◆評価方法</p> <p>出席と期末試験をもとに評価します。4 回以上欠席した場合には、評価の対象とはしませんので注意してください。詳しくは第 1 回授業で紹介します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは主に授業中にプリントとして配布します。</p> <p>参考文献については、第 1 回授業で紹介します。</p>			

全カリ	全学総合講座（環境学）	（秋学期）	担当者 湯田 雅夫
<p>◆講義目標</p> <p>「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」に関わる本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に生かしていくことも大切です。授業に参加するだけでなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。</p> <p>◆講義概要</p> <p>講義のコーディネーターは湯田（経済学部）が担当します。今年度は、数多くの環境諸課題を取り上げました。1回目は、「環境学」のオリエンテーションとして地球環境問題全般に触れます。3回目を除き、2回目から8回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。9回目から12回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>地球環境問題は、今日的テーマです。今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ1回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持ってください。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業のテーマをいくつかのグループに分類して、そのグループごとにひとつずつレポートを作成し、提出していただきます。提出されたレポートに出席状況を加えた総合評価です。定期試験は実施しません。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。なお、授業のとき、ときどき参考書の一覧を配ります。一覧に挙げられた書物は読むように努めてください。</p> <p>オリエンテーション時および毎回の授業のときに参考書を示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題 担当：北村必勝 損保ジャパン東郷青児美術館理事長 前（株）損保ジャパン常務 2. 自然保護 担当：犬井 正 経済学部教授 3. 環境NGO 担当：上村雄彦 ネットワーク『地球村』国際部国連担当 4. 環境資源について 担当：秋本弘章 経済学部専任講師 5. 生物の多様性 担当：加藤僖重 外国語学部教授 6. 化学物質と生活 担当：和田浩志 本学非常勤講師 東京理科大学教授 7. エコデザイン 担当：鈴木 隆 外国語学部教授 8. 環境リスク 担当：大内 功 (株) 損保ジャパン 主任コンサルタント 9. 環境法 担当：一之瀬高博 法学部教授 10. 環境と管理会計 担当：香取 徹 経済学部教授 11. 地方自治と環境 担当：伊藤為一郎 経済学部教授 12. 環境経済 担当：浜本光紹 経済学部助教授 	

全カリ 外共	哲学 a (哲学の諸問題) 哲学 (通年)	担当者	谷口 郁夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>哲学は哲学とは何かの問題になるというちょっと変わった学問です。ほとんどの学生にとって哲学は未知の学問でしょうから、この学期では、哲学では何が論じられているのかを紹介するとともに、それらの問題がわれわれにとって無縁のものではないということを皆さんに知っていただくことが第一の目標になります。したがって、それらについて自らの問題として考えていただかなければなりません。また、哲学ではまず読むこと、次に考えることが要求されますので、私も皆さんに読むことを要求することになります。最も易しい文献を選択しましたので、読んでみていただきたいと思います。主なテーマは愛、二元論、歴史、自由などです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プラトンのイデア論とエロス論を取り上げます。文献としては最もとつきやすい『饗宴』を読むことにします。 2. 前回の続き。 3. デカルトの『方法序説』を読みます。哲学には二元論的思考が頻繁に登場しますが、デカルトは典型的な二元論だと言えるでしょう。 4. 前回の続き。 5. カント『啓蒙とは何か』を取り上げます。この小論は時代背景が重要ですから、その点に留意する予定です。 6. 前回の続き。 7. ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げます。この講義から4回連続で、歴史哲学について考えます。 8. 前回の続き。 9. マルクス&エンゲルスの『共産党宣言』と『空想と科学』を取り上げます。 10. 前回の続き。 11. 二十世紀初頭から「実存主義」「実存哲学」と呼ばれる思想が流行しました。その思想の特徴、なぜ流行したのか、などについてサルトルの『実存主義とは何か』を読んで考えます。 12. 前回の続き。 	
◆ 評価方法			
受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。			
◆テキスト、参考文献			
http://village.infoweb.ne.jp/fwje1931/ から講義で使用する資料を配布します。			

全カリ 外共	哲学 b (死を哲学する) 哲学 (通年)	担当者	谷口 郁夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>モンテーニュは『エッセー』のなかで「哲学とは死を学ぶことである」と述べました。なぜそんなことを言ったのでしょうか。哲学では様々な問題が論じられますが、生と死は哲学では最も重要な問題です。世界や生をどのようにとらえるかは、裏返せば死をどのようにとらえるかを意味します。人間はすべて死ななければなりません、それだけではなく、死ななければならぬことを知ってもいます。だからこそ、哲学的営みが始まったのだとも言えるでしょう。ただ、この講義では「死の準備教育」や「ホスピス」、「生命倫理」などは取り上げませんので、ご注意ください。あくまでも哲学ですから、春学期同様、文献をじっくり読んで自分自身の問題として考えることが主要な課題となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学史には処刑された人物が登場します。その代表がソクラテスです。この学期を開始するに当り、まずソクラテスの裁判、死を前にした彼の態度、そして彼の死に方を見たいと思います。 2. 前回の続き。『ソクラテスの弁明』『クリトン』『パイドン』を読みます。 3. 前回の続き。 4. 新約聖書におけるイエスの死と復活。アウグスティヌスの『神の国』におけるキリスト教的な死について考えます。 5. 前回の続き。 6. パスカルの『パンセ』における人間の死の運命と、人間的な営みについて。 7. 前回の続き。 8. もっとも著名な悲観論の哲学者ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』『余禄と補遺』を取り上げます。彼の悲観論にはもちろん形而上学的な論拠がありますので、そこから考えて行きます。 9. 前回の続き。 10. エリアスの『死にゆく者の孤独』を取り上げます。 11. エルンスト・ベッカーの『死の否定』を取り上げます。彼は人間の行為は死を否定するためだと考えています。つまり、人間が進んで自己を犠牲にするような英雄的行為を行うのは自らの死を否定するためだと言うのです。 12. 前回の続き。 	
◆ 評価方法			
受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。			
◆テキスト、参考文献			
http://village.infoweb.ne.jp/fwje1931/ から講義で使用する資料を配布します。			

全カリ	哲学 a (愛について)	担当者	松丸 壽雄
◆講義目的、講義概要 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。 前期は愛が中心テーマになるが、恋愛だけでなく幅広く考えよう。 ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味ばかりでなく迷惑である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。		◆授業計画	
◆ 評価方法 討議への参加回数とレポート評価 (最低 2 回のディスカッション出席が単位取得必要条件)		1 概要説明と人数調整 2 グループ分け 3 愛についての諸見解の説明 4 小グループディスカッション 5 全体ディスカッション 6 愛にかかわるビデオ (1) と説明 7 小グループディスカッション 8 全体ディスカッション 9 愛にかかわるビデオ (2) と説明 10 小グループディスカッション 11 全体ディスカッション 12 調整日	
◆テキスト、参考文献 			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	倫理学 a (倫理の基本について考える) 倫理学 (通年)	担当者	市川 達人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。ところが、個人における生活様式の変化、社会構造の流動化、また未来への不安などが広がると、良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する別の良識が出てきたりして、あらためて倫理を「なぜ」と問う必要がうまれてくる。講義では、倫理についてのこの「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。その上で、倫理思想の歴史を簡単にたどり、現代倫理を代表する自由主義と功利主義をとりあげる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末の試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使わない。参考書は講義で指示。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)非倫理の時代 2)倫理の概念 3)規範としての倫理(1) 行為の分析と倫理的判断 4)規範としての倫理(2) 習俗と法と倫理 5)価値としての倫理(1) 事実と価値 6)価値としての倫理(2) 倫理的価値とは？ 7)価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値 8)倫理的問題状況と倫理学の歴史(1) 9)倫理的問題状況と倫理学の歴史(2) 10)功利主義 11)自由主義 12) まとめ 	

全カリ 外共	倫理学 b (環境と生命の倫理) 倫理学 (通年)	担当者	市川 達人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や倫理観を考え直していくこと。これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学とかいう新しい学問分野が活躍をはじめている。そこでの議論を踏まえての話になると思う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末の試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しない。参考書は講義で指示。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)倫理とは何か 2)健康ブームと医療化社会 3)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 4)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 5)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 6)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 7)ケアの倫理 8)土地倫理とディープ・エコロジー 9)動物の権利から樹木の権利へ 10)マルサス主義と環境的公正の倫理 11)風土の理論と環境倫理 12)まとめ 	

全カリ 外共	社会思想史 a (市民的社會像の黎明期) 社会思想史 (通年)	担当者	市川 達人
◆講義目的、講義概要 私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社會観をその生誕の時代にさかのぼって理解する。最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という觀念を改めて分析して、そこから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を扱う。キリスト教的な世界観の変容、またそれとの対決のなかで社会認識の新しい軸が形成される時である。社会や人間に関わる新たな概念はいまだ未形成であるが思想やエートスは着実に変化してきている。		◆授業計画 1)社会という觀念と概念 2)西欧的社會観の原型について 3)ルネッサンスと都市 4)マキャベリと『君主論』 5)ユートピア思想とは 6)トマス・モアと『ユートピア』 7)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8)ルターの改革運動と神学 9)ルターの經濟思想 10)カルヴィニズムの宗教思想 11)カルヴィニズムと近代的エートス 12)まとめ	
◆ 評価方法 学期末の試験によって評価			
◆テキスト、参考文献 テキスト 『社会思想の歴史』渋谷一郎編 八千代出版。 参考文献 講義中に指示。			

全カリ 外共	社会思想史 b (市民的社會像の確立期) 社会思想史 (通年)	担当者	市川 達人
◆講義目的、講義概要 西欧では17世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりにして社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置となる。同時に、その自然な人間の活動が経済というレベルで把握され、国家とは区別される市民社会という觀念が生まれてくる。このあたりの展開を、17世紀のホッブズから始めて19世紀のマルクスまでたどってみる。		◆授業計画 1)西欧自然法思想の流れ 2)ホッブズの人間観と自然権思想 3)ホッブズの国家論 4)ロックの市民社会論 5)ロックの所有権理論とリベラリズム 6)フランス啓蒙思想 (ヴォルテール、ディドロ) 7)ルソーの啓蒙批判と社会批判 8)アダム・スミスと經濟的自由主義 9)社会主義思想の諸潮流 10)マルクスの思想(1) 11)マルクスの思想(2) 12)まとめ	
◆ 評価方法 学期末の試験によって評価			
◆テキスト、参考文献 テキスト 『社会思想の歴史』渋谷一郎編 八千代出版。 参考文献 講義中に指示。			

全カリ 外共	心理学 a(人間の個性・多様性理解) 心理学 (通年)	担当者	杉山憲司
◆講義目的、講義概要 <p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見てみると、第1に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にスキル(心理学ではソーシャル・スキルと言います)を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域(所属する学科の学問)を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業(仕事)との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>前期であるaでは、認知、行動、モチベーションの3側面に焦点を当てる予定です。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマン・サイエンスとしての心理学：心理学への導入。歴史、研究対象と方法、動向など。 2. 感覚と知覚・認知(感じる/考える)：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴について。 3. 感覚と知覚・認知：顔や原因の認知(原因帰属)、認知や記憶の情報処理モデルなど。 4. 感覚と知覚・認知、技能知・技術知、環境心理学、工業デザインなどについて。 5. 行動と行動獲得・変容(動く/変わる)：学習の基礎、例えば、条件づけ、強化の随伴性、モデルを媒介とした観察学習。 6. 進化と人間行動。例えば、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 7. 教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習と大学における学習環境デザイン。熟達化とコーチングなどについて。 8. モチベーション(もえる/動かす)：動機づけの基礎概念、例えば、生理的ホメオスタシス、学習動機について。 9. 達成動機と対人社会性動機。対人行動/責任行動などについて。 10. 欲求不満、葛藤、ストレス。無気力(学習性無力感)。 11. 内発的動機づけと意欲を高める自己原因性と有能感などについて。 12. まとめと残された問題。 	
◆ 評価方法 <p>試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>杉山憲司・青柳肇(編)『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版(予定)</p>			

全カリ 外共	心理学 b(人間の行動・認知・感情の共通法則) 心理学 (通年)	担当者	杉山憲司
◆講義目的、講義概要 <p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見てみると、第1に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にスキル(心理学ではソーシャル・スキルと言います)を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域(所属する学科の学問)を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業(仕事)との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>後期であるbでは、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当てる予定です。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 後半の導入：前期のまとめと、後期の視点について。多様性とは。 2. パーソナリティ(きわだつ/できる)：性格検査から何が言えるのか、何故そう言えるのか。 3. パーソナリティ理論は多様な人間性のモデルである。 4. 知能とは。知能と創造性の違い、創造性を活性化する条件。対人関係を円滑にするソーシャル・スキルなどについて。 5. 発達(育つ/育てる)：ビッグネームの多様な発達理論。 6. 生育初期の重要性：やり取りや親子・仲間関係の大切さ(アタッチメント)。 7. 青年期のアイデンティティ。発達支援、世代間伝達などについて。 8. 高齢化社会。生き甲斐と有能感。well-beingとは何か。 9. 社会(かかわる/競う)：社会的自己、自己開示/自己提示。 10. 集団と個人、例えば、変革期のリーダーシップとは何か。 11. 態度と態度変化。説得的コミュニケーションなどについて。 12. まとめ：各人の違いを認めたくえで、1人ひとりが、精神的に健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、心理学から何が言えるか、どんな課題が残されているか。 	
◆ 評価方法 <p>試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>杉山憲司・青柳肇(編)『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版(予定)</p>			

全カリ 外共	心理学 a (知覚・認知) 心理学(通年)	担当者	増田 直衛
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部なのです。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義をします。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学 a (知覚・認知) のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 b (行動・個性) とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 心理学では心をどのように理解しようとしたか 2 個体と環境 心理学のものとのとらえ方 3 物理的世界と心理学的環境 4 感覚の世界 5 主観のものさし 6 まとまりのある知覚世界 (1) 7 まとまりのある知覚世界 (2) 8 認知的判断 9 判断と意志決定 10 態度の形成とダイナミクス 11 社会的現実の構築 12 まとめ 	

全カリ 外共	心理学 b (行動・個性) 心理学 (通年)	担当者	増田 直衛
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。</p> <p>ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか考える。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学 b (行動・個性) のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 a (知覚・認知) とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行動を理解するために 2 環境への適応様式 3 生得的行動・獲得的行動 4 遺伝的に規定された行動 5 行動の変容 (1) レスポンデント行動 6 行動の変容 (2) オペラント行動 7 行動分析学とその応用 8 個性をどのように理解するか 9 個性をいかに測定するか 10 パーソナリティのダイナミクス 11 個性はどのように発達するのか 12 まとめ 	

全カリ 外共	言語学 a (一般言語学) 言語学 (通年)	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語についてかんがえるための視点と方法を理解し、さまざまな言語事象をかんがえることを目的とする。生活のなかにある「ことば」を認識し、日常的には世界をおおう透明な膜でしかない「ことば」を対象としてとりあげ、それについてかんがえるトレーニングをおこなう。</p> <p>専門的に言語の学をまなぼうとする学生にとっては、言語を対象化する基礎訓練であり、そうでない学生にとっては、「ことば」で生きることを認識するためのヒントをつくりたいとかんがえる。教科書は、経験のなかの「ことば」を認識する訓練を目標とするものである。授業では、教科書にとりあげられる具体的な「問い」や「課題」を、自分の周囲の「ことば」の問題としてかんがえ、それに解答することをもとめる。</p> <p>よって履修者は、授業前の予習と授業中での発言が要求される。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「事物へのアプローチ」(テキスト p.6~p.17) ことばは何をあらわせるか、またはあらわせないか 2. 「レトリックによるアプローチ」(同 p.18~p.39) ことばはどのように工夫されうるか 3. 「意味へのアクセス」(同 p.40~p.61) ことばの意味というものはどういう意味か 4. 「テキストのいろいろ」(同 p.74~p.91) 説明文というのはどういう文の種類・タイプか 5. 「広告のことば」(同 p.92~103) ことばは何ができるか 6. 「事物と感覚」(同 p.104~p.113) ことばは何を創りだそうとするか 7. 「毎日のことば」(同 p.114~p.125) ことばでどうコミュニケーションしているか 8. 「数量のとらえ方」(同 p.126~139) ことばと思考はどのようにかかわるか 9. 「出来事の見方・とらえ方」(同 p.140~p.147) ことばと視点はどのようにかかわるか 10. 「過去のとらえ方」(同 p.148~155) ことばをつかうのか、ことばにつかわれるのか 11. 「判断の仕方」(同 p.156~p.167) ことばと主観はどのようにかかわるか 12. 「言い換える・引用する」(同 p.168~p.175) はなしはどのようにつくられるか 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>青木三郎(2002)『ことばのエクササイズ』ひつじ書房</p>			

全カリ 外共	言語学 b (一般言語学) 言語学 (通年)	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語学の基本的でかつ一般的な知識と方法論とを理解することを目的とする。</p> <p>この授業のテキストは、言語学の読書案内ともよべるものである。そこでは言語にかかわるさまざまな分野にわたって、入門として最適な書物がとりあげられるとともに、そこからそれぞれの分野の興味ぶかいトピックにかんする議論が紹介される。授業ではその議論およびとりあげられた書物で論じられる他の問題などをあつかうことによって、言語にかかわるさまざまな分野を概観する。</p> <p>履修者には、毎回、質問をふくむりアクションパーパーを書くことをもとめる。授業は、テキストに示されるトピックにかんする解説とともに、履修者からの質問への解答によってくみだられる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「言語調査」(テキスト p.~p.) 言語学がこころざすこと 2. 「音声学」・「音韻論」(同 p.~p.) 音というのはなにか 3. 「比較言語学」(同 p.~p.) 言語相互の関係と言語のはじまり 4. 「ピジンクレオール諸語」(同 p.~p.) 言語の接触と変化、言語がうまれること 5. 「文字論」(同 p.~p.) 漢字とはどのような文字か 6. 「解説」(同 p.~p.) どうやってよめるのか 7. 「社会言語学」(同 p.~p.) つかわれることばのさまざま 8. 「方言学」(同 p.~p.) 標準語ではなしているか 9. 「ユニバーサル」(同 p.~p.) 人間のことばであること 10. 「言語類型論」(同 p.~p.) どれだけのことばがあるのか 11. 「日本語の構造」(同 p.~p.) 日本語はどうなっているか 12. 「対照言語学」・「世界の言語」(同 p.~p. p.~p.) 日本語をくらべると 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>千野栄一(2002)『言語学 私のラブストーリー』三省堂</p>			

全カリ 外共	言語学 a (母語の修得と日本人) 国語学 (通年)		桂 千佳子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>無意識に使っている母語と向き合い、コトバの本質について考える。 また、日本語話者としての自分を見つめ、その特徴を客観的に捉えられるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コトバはなぜ通じるのか —表現と理解 2. コトバが通じるのは本能か —本能だ! 3. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション① 4. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション② 5. ソシユールの言語理論① 6. ソシユールの言語理論② 7. ソシユールの言語理論③ 8. 自分のコトバを見つめる —日本人の母語意識 9. コトバと文化① 10. コトバと文化② 11. コトバと文化③ 12. まとめと質疑応答 	
◆ 評価方法			
テストおよび出席率			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指示			

全カリ 外共	言語学 b (コトバの構造と文法観) 国語学 (通年)	担当者	桂 千佳子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>普段意識していない日本語のルールについて、自分なりの分析ができるようにする。 いくつかの方法論について、実際に例文を作って自分で検証していく。 一つ一つについて、文の意味、用いているルール、その文が発話された意図について考えられるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭の中の文法 —日本語学習者の誤用例から 2. 日本語の「時」の表現① —絶対テンス 3. 日本語の「時」の表現② —相対テンス 4. 日本語の文の構造① —文の構成 5. 日本語の文の構造② —コトとムード 6. 日本語の文の構造③ —文と句 7. 日本語の文の階層構造 —南不二男による4つの分類① 8. 日本語の文の階層構造 —南不二男による4つの分類② 9. 日本語の文の階層構造 —陳述論争 10. アスペクト 11. アスペクト 12. まとめと質疑応答 	
◆ 評価方法			
テストおよび出席率			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指示			

全カリ 言語学 a (日本語とはどのような言語か) 外共 国語学 (通年) (春学期完結)	担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語に関する基本的知識の修得を目的とする。</p> <p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか。国語学の分野を音声・音韻、文字、文法の領域に分けて講述する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の特徴 2 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学について 3 国語の音韻——音声と音韻 4 古代語と現代語のちがい 5 アクセント 6 文字・表記——漢字、国字、万葉仮名、カタカナ、ひらがな、反切 7 仮名遣い——定家仮名遣、歴史的仮名遣 8 百人一首の世界 9 ローマ字——外国人の日本語研究 10 文法——単語と品詞分類 11 文の構造と文の種類 12 文体——文章と文体 	

全カリ 言語学 b (辞書を読む) 外共 国語学 (通年) (春学期完結)	担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本語の辞書には、いわゆる国語辞書、対訳辞書(漢和辞典、英和辞典など)のほか古語辞典、時代別国語辞典、類語辞典、平仄辞典、アクセント辞典、外来語辞典、隠語辞典、逆引辞典等々、必要に応じて幾種類もの辞書が作られてきた。これらの辞書の特徴を知り、実際に利用して、その背景にどのような切り口で、日本語を説明しているかを学び、日本語の基本語、位相語などから日本語の特徴、及び日本人のものの考え方を読み取ってみたい。</p> <p>日本語の系統論についても言及したい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国語辞書の歴史——日本の辞書には意味が書かれていなかった。 2～3 辞書の種類 4 日ポ辞書——外国人の作った日本語辞書 5～7 節用集——日本人の生活が見える。 8 下学集を読む 9～10 和英語林集成——ヘボンの辞書 11 言海——初めての日本語普通辞書——大槻文彦という人物 12 日本語のルーツ 	

全カリ 外共	文学 a(恐怖の日本文学) 日本文学(通年)	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代文学のベストセラーを見てみるとスリラーやサイコパスと呼ばれる心理学的に問題のあるものを主題にしたものが主流となっている。また、その反面でやさしさを求めた癒しの文学も注目されている。双方とも現代社会の苦悩を反映したものである。春学期に「恐怖の日本文学」と題し、秋学期に「癒しの文学」と題して現代文学をブックレビュー的に紹介しながら、現代社会の複雑さとそこでの生き方や考え方を模索する時間とする。</p> <p>「恐怖の日本文学」では、①古典的な題材を含んだ作品、②超自然的現象の題材を含んだ作品、③心理学的な題材を含んだ作品、④社会派ミステリー、⑤スプラッター的ホラー、⑥パズラー的ミステリーの六分野から考察する。</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は必ず読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを味わってもらいたい</p>		<p>◆授業計画</p> <p>「恐怖の日本文学」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横溝正史「本陣殺人事件」ほか 2 荒俣宏「帝都物語」 3 坂東眞砂子「死国」「狗神」ほか 4 京極夏彦の世界 5 梅原克文「ソリトンの悪魔」ほか 6 瀬名秀明「パラサイト・イヴ」ほか 7 鈴木光司「リング」ほか 8 貴志祐介「黒い家」ほか 9 桐野夏生「OUT」ほか 10 宮部みゆきの世界 11 綾辻行人の世界 <p>まとめ</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度紹介する</p>			

全カリ 外共	文学 b(癒しの日本文学) 日本文学(通年)	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代文学のベストセラーを見てみるとスリラーやサイコパスと呼ばれる心理学的に問題のあるものを主題にしたものが主流となっている。また、その反面でやさしさを求めた癒しの文学も注目されている。双方とも現代社会の苦悩を反映したものである。春学期に「恐怖の日本文学」と題し、秋学期に「癒しの文学」と題して現代文学をブックレビュー的に紹介しながら、現代社会の複雑さとそこでの生き方や考え方を模索する時間とする。</p> <p>「癒しの日本文学」では、①やさしさを題材にした作品、②タイムスリップを題材にした作品、③仲間意識を題材にした作品、④子供の世界、⑤アニメの世界の五分野から考察する</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は必ず読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを味わってもらいたい。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>「癒しの日本文学」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近現代文学にみるやさしさの文学 2 宮本輝の世界 3 浅田次郎の世界① 4 浅田次郎の世界②ほか 5 重松清の世界① 6 重松清の世界②ほか 7 村上春樹の世界① 8 村上春樹の世界②ほか 9 児童文学の現状 10 宮崎駿の世界① 11 宮崎駿の世界② 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度紹介する</p>			

全カリ 外共	文学 a (日本文学 - 上代から中古前期) 日本文学 (通年)	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本文学史は、上代 (奈良)・中古 (平安)・中世 (鎌倉・室町) 近世 (明治・大正・昭和) に区分される。今年度の講義では、上代から中古前期までの代表的な文学テキストを取り上げ、そのテキストが生み出された時代とテキストの持つ意味について話していく。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生多数の場合、履修者を抽選で定める場合がある。</p> <p>講義概要 受講生がいわゆる日本古典文学に触れる機会は、高校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高校の古文の授業は評判がよくないのが実情である。しかし古典を受験洋の教材でなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力を改めて見出すことができるだろう。講義の形態は、2時間で1つのテキストを取り上げ、1時間目にそのテキストの抜粋を読み、次の時間に解説するというかたちとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 古事記① 3 古事記② 4 万葉集① 5 万葉集② 6 風土記① 7 風土記② 8 古今和歌集・土佐日記① 9 古今和歌集・土佐日記② 10 伊勢物語① 11 伊勢物語② 12 おわりに 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験。 出席 (随時行う)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
特に定めない。プリント配布。			

全カリ 外共	文学 a (日本文学 - 中古後期から現代) 日本文学 (通年)	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本文学史は、上代 (奈良)・中古 (平安)・中世 (鎌倉・室町) 近世 (明治・大正・昭和) に区分される。今年度の講義では、中古後期から中世までの代表的な文学テキストを取り上げ、そのテキストが生み出された時代とテキストの持つ意味について話していく。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生多数の場合、履修者を抽選で定める場合がある。</p> <p>講義概要 受講生がいわゆる日本古典文学に触れる機会は、高校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高校の古文の授業は評判がよくないのが実情である。しかし古典を受験洋の教材でなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力を改めて見出すことができるだろう。講義の形態は、2時間で1つのテキストを取り上げ、1時間目にそのテキストの抜粋を読み、次の時間に解説するというかたちとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 枕草子① 3 枕草子② 4 源氏物語① 5 源氏物語② 6 大鏡① 7 大鏡② 8 平家物語① 9 平家物語② 10 徒然草① 11 徒然草② 12 おわりに 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験。 出席 (随時行う)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
特に定めない。プリント配布。			

全カリ 文学a (スペイン文学)
外共 外国文学 (通年)

担当者 野々山 ミチコ

◆講義目的、講義概要

古冊から現代まで幅広くスペイン文学
を鑑賞する。
各作品のレポートを提出して読む。また
文学の読み方をトレーニング
を行う。

◆評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

野々山真輝帆 編 「いっしょの埋葬」 彩流社
セルバンテス 「ドン・キホーテ」 岩波文庫

◆授業計画

いっしょの埋葬

ドン・キホーテ

ガルシア・マルカ

詩
ジゴニー 歌集
三大悲劇

全カリ 文学b (ラテンアメリカ文学)
外共 外国文学 (通年)

担当者 野々山 ミチコ

◆講義目的、講義概要

19世紀モダニズムの文学と、世界的に
有名になった 20世紀マジック・リアリズムの
文学の主要作品を鑑賞する。

各作品のレポートを提出して読む。また
文学の読み方をトレーニングを行う。

◆評価方法

出席、レポート、試験による

◆テキスト、参考文献

野々山真輝帆 編 「ラテンアメリカ短篇集」
(彩流社)
ボルヘス 短篇集 「八岐園」 岩波文庫

◆授業計画

モダニズムの文学

ルベン・ダリオ、オラシオ・キローガ 等

マジック・リアリズムの文学

ボルヘス、カルペンティエル、コクタール 等。

全カリ 外共	文学 a (メディアとしてのテキスト) 外国文学 (通年)	担当者	宮谷 尚実
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 「文学」はどう読んで楽しめばいいでしょう？ 本講義では、「語り」「活字」「画像」「翻訳」「映像」、この5つの側面から文学とのより多いつきあい方を体得してもらえればと思います。</p> <p>講義概要 サンプルとして扱うテキストは、文学でも特に19世紀以来ジャンルとして確立し、上記5つのメディアを通して現代でも広く親しまれている〈メルヒェン〉です。 前期は、後半で「白雪姫」に焦点をあて、一編のメルヒェンがいかにさまざまな表情を見せるか、メディア毎の比較をしてみましょう。また、同じメディアを用いても異なった作品が生まれるのは何故でしょうか？ひとつひとつを自分の眼で確かめ、頭で考えながら、テキストとメディアとの関係を検討していきましょう。 あらゆる学問の基礎となる、テキストやデータと向き合う方法や基本姿勢を、「文学」を素材に身につけることが本講義の目指すところです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 「外国文学」とは何か？ 2 文学ジャンルとしてのメルヒェン その成立と「グリム童話」概論 3 「語り」とテキスト エーレンベルク稿 4 「活字」のテキスト 「グリム童話」初版から第7版まで 5 「画像」とテキスト ミュンヘン一枚絵 6 「翻訳」とテキスト(1) KHM 53 白雪姫 7 「翻訳」とテキスト(2) 明治期日本における白雪姫の各種翻訳 8 「映像」とテキスト(1) ディズニー版「白雪姫と7人のこびとたち」 9 「映像」とテキスト(2) コーン版「スノー・ホワイト」 10 「映像」とテキスト(3) トンプソン版「スノー・ホワイト」 11 時代とテキスト 現代における「白雪姫」の受容 ジェンダー論等をふまえて 12 まとめ 時代のメディアとメルヒェン 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験(筆記)を基本とし、出席、授業参加度、授業時間内の小レポートを合わせて評価します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>「グリム童話」(岩波文庫・ちくま文庫・他) プリントを随時配布</p>			

全カリ 外共	文学 b (現代日本でメルヒェンを「読む」) 外国文学 (通年)	担当者	宮谷 尚実
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 今まで「何となく知っている」程度のメルヒェンを、徹底的に「読み」直します。本講義では映像を多用しますが、活字離れを推奨するのでは全くなく、むしろ映像を手がかりに「文学」を「読む」おもしろさを見いだすことが目的です。</p> <p>講義概要 グリムのテキスト(本講義では翻訳を用いますが)にあたることはもちろん、一つのメルヒェンにいくつもある類話と比較し、それぞれの特徴を丁寧に確認します。また、活字だけでなく映像メディアである映画とテキストとの比較によって、メルヒェンの持つメッセージ性と現代におけるその可能性について考えます。 履修者数によっては、扱う作品について調べたことを発表形式で報告してもらう予定です。</p> <p>前期科目「文学 a」の履修は義務づけませんが、継続して履修するとメディアと文学との関わりについてより深い理解ができるのでお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 外国文学と狭義のメルヒェン(復習) 2 身近なメルヒェン(1) KHM 50 「いばら姫」とその類話(1) 3 身近なメルヒェン(2) KHM 50 「いばら姫」とその類話(2) 4 身近なメルヒェン(3) ディズニー版「眠れる森の美女」 5 メルヒェンの「読み」の多様性(1) KHM 21 「灰かぶり」とその類話 6 メルヒェンの「読み」の多様性(2) 明治期日本における「灰かぶり」の受容 7 メルヒェンの「読み」の多様性(3) ディズニー版「シンデレラ」 8 メルヒェンの「読み」の多様性(4) 映画「エヴァー・アフター」(1) 9 メルヒェンの「読み」の多様性(5) 映画「エヴァー・アフター」(2) 10 メルヒェンの「読み」の多様性(6) ディズニー版「シンデレラ II」 11 現代日本におけるメルヒェンの「読み」 「いばら姫」・「灰かぶり」 12 まとめ 現代における外国文学とメルヒェン 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験(筆記)を基本とし、出席、授業参加度、授業時間内の小レポートを合わせて評価します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>「グリム童話」(岩波文庫・ちくま文庫・他) プリントを随時配布</p>			

全カリ 外共	歴史学 a (日本中世社会における「悪党」) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	櫻井 彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>歴史学を学ぶ際には、様々な史料を利用し、その記載内容を検討することが基礎的な作業となる。そこで本講座では、中世史を研究する際に用いられる諸史料を具体的に紹介して、それらの利用方法を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 前提 2 紙以外の史料 3 古記録 1 4 古記録 2 5 二次史料 6 写本の形成 7 写本の諸相 8 絵画資料 1 9 絵画資料 2 10 古文書 1 11 古文書 2 12 総括 	
◆ 評価方法			
出席・試験			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて、講義中に指示する。			

全カリ 外共	歴史学 b (中世「悪党」の諸相) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	新井 孝重
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◎ 建武政権の特質を論ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建武政権の人々 (楠本正成、名和長年、千種忠顕など) ・ 建武政権の問題点 ・ 後醍醐天皇の政治手法 ・ 室町幕府足利政権との対比 		<ol style="list-style-type: none"> 1 王家内部の争い (1) 2 王家内部の争い (2) 3 深まる天皇制の危機 4 討幕の計画、元弘挙兵 5 楠本正成、道祐、伊賀兼光 6 後醍醐天皇の政治手法 7 綸旨の効用、乱発される綸旨、令旨 8 建武政権の政策、官職私領状態の否定 9 上層貴族の人事異動、実務官僚化 10 北畠顕家の諫奏 11 「権威」の無力化 12 崩壊、武士の動向、足利政権 	
◆ 評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じてプリント配布			

全カリ 外共	歴史学 a(「15年戦争」をどうとらえるか) 歴史学(日本史)(通年)		丸浜 昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>1945年8月15日に終わった戦争のことを、日本人は普通なんと呼ぶだろうか。ここでは「15年戦争」と表現したが、他に「太平洋戦争」「アジア・太平洋戦争」「第二次世界大戦」そして「大東亜戦争」などがあがるだろう。戦争の呼称は、その戦争を基本的にどういう性格のものにとらえているかということと結びついている。いくつかの呼称は、この戦争が多様に認識されていることを示す。そこにどういう問題があるだろうか。</p> <p>戦後60年になろうとしているが、この戦争をどうとらえるかは現代日本社会の中で一つの争点であり、底流で日本社会のあり方を規定しているように思える。この戦争をさまざまな角度からとらえなおし、それを通して日本人の戦争認識のあり方を考えてみたい。</p> <p>なお、適宜、ビデオを使用する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 「15年戦争」の全体像をめぐって① 「15年戦争」の全体像をめぐって② 被害の認識①—空襲 被害の認識②—原爆 沖縄戦の体験から学ぶ 事実をどう認識するか①—731部隊 事実をどう認識するか②—南京事件 事実をどう認識するか③—強制連行と従軍慰安婦 兵士と民衆①—日本の軍隊 兵士と民衆②—満州・太平洋の島々で 兵士と民衆③—総動員体制下で 再び「15年戦争」の全体像をめぐって 	
◆ 評価方法			
論述試験を実施			
◆テキスト、参考文献			
講義の中で紹介			

全カリ 外共	歴史学 b(戦後史の中の「15年戦争」) 歴史学(日本史)(通年)		丸浜 昭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「15年戦争」は、戦後60年に近づいた今日にでも、日本の社会に大きな影響を与えている。そして、そこには戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中で15年戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がある。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今日でも中国や韓国の人々から戦後補償の要求が噴出している背景には、この戦後の歴史がある。日本の民衆の戦争認識がどのように形成され、どのような課題をもっているかも考えてみたい。</p> <p>こうした「戦後史の中の15年戦争」を取りあげていくことで、現在の日本と「15年戦争」との関わりを考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 戦争の終わり方と一億総ざんげ論 民主化と戦争責任論議 東京裁判をめぐって サンフランシスコ講和のもった問題 軍人恩給と日本遺族会 東南アジア諸国への賠償をめぐって 高度経済成長と日韓条約 ベトナム戦争の中で 日中国交回復への道のり アジア民衆からの戦後補償要求 戦後50年の国会決議をめぐって 現代の戦争と過去の戦争 	
◆ 評価方法			
論述試験を実施			
◆テキスト、参考文献			
講義の中で紹介する			

全カリ 外共	歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 (講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。		◆授業計画 1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。 4 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12 同 その2	
◆ 評価方法 毎回出席をとる。期末にレポート。			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。授業で指示する。			

全カリ 外共	歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 (講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。		◆授業計画 1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえんについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 まとめをおこなう	
◆ 評価方法 毎回出席をとる。期末にレポート。			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。授業で指示する。			

全カリ 外共	歴史学 a (中国近代史概説 - 清朝国家の黄昏) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	張 士陽
◆講義目的、講義概要 現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		◆授業計画 1 清代の国家と社会 2 18世紀中国の負の遺産 3 アヘン戦争 4 冊封・朝貢体制の動揺 5 太平天国 6 体制の反撃 7 洋務運動 8 中体西用の諸相 9 開港場の社会と経済 10 農村社会の変容 11 周辺地域宗主権の喪失 12 まとめ	
◆ 評価方法 試験による。			
◆テキスト、参考文献 並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。			

全カリ 外共	歴史学 b (中国近代史概説 - 変革の諸相) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	張 士陽
◆講義目的、講義概要 現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		◆授業計画 1 光緒親政 2 日清戦争 3 変法改革 4 戊戌の政変 5 義和団の蜂起 6 革命派の台頭 7 地方自治の試み 8 王朝体制の崩壊 9 民国の混迷 10 五四運動 11 未完の革命 12 まとめ	
◆ 評価方法 試験による。			
◆テキスト、参考文献 並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。			

全カリ 歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)
 外共 歴史学(西洋史) (通年)

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

世界で最も典型的な多民族・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。
 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。
 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。

下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。

◆評価方法

評価は前後期各 1 回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。

◆テキスト、参考文献

『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行 (2000 年 集英社新書 680 円)
 『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行 (2001 年 ダイヤモンド社 1700 円)

◆授業計画

- 1 アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脉ネットワークと資金力
- 2 ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業
- 3 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業
- 4 業界シェアの過半を占めた伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業
- 5 ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人
- 6 なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い
- 7 ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどのような様子が結びあがるのか
- 8 アメリカにおける反ユダヤ主義の特色
- 9 アメリカ南部における反ユダヤ主義；レオ・フラング事件
- 10 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト
- 11 自動車王 ハンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン
- 12 更生の儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義

全カリ 歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)
 外共 歴史学(西洋史) (通年)

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

世界で最も典型的な多民族・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。
 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。
 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。

黒人、ヒスパニック、アジア系、ネイティブ・アメリカン(インディアン)のエスニック・ヒストリーを中心に毎回、完全に文章化されたレジュメを添付する。

◆評価方法

前期と同じ

◆テキスト、参考文献

『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行 (2000 年 集英社新書)

◆授業計画

1. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥
2. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史
3. 黒人の反ユダヤ主義
4. 差別体制下の黒人指導者、B.T.ワシントン、W.E.B.デューボイス、M.ガーベイ
5. 黒人回教団とマルコム X
6. 公民権闘争とブラック・ナショナリズムの台頭
7. ハワイにおける多民族・多民族社会の形成史
8. 日系アメリカ人の歴史と現状
9. 先住民(インディアン)と白人の関係史 2の1
10. = = 2の2
11. ヒスパニック・アメリカンの歴史と現状 2の1
12. = = 2の2

全カリ 歴史学 a (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(1)) 外共 歴史学(西洋史)(通年)	担当者	増谷 英樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ユダヤの歴史は3千年の歴史といわれる。しかし、その歴史は大きく分けて3つの時代に分類することができる。第1期はユダヤ教の成立からローマの時代までの歴史であり、第2期はローマの時代から第二次世界大戦の終了までの歴史、第3期はそれ以降の歴史である。本講義では、そのなかでユダヤ教徒が最も迫害を受けた時代である第2期を見ていくことによって、何故ユダヤ教徒がまさにヨーロッパで迫害されたのかを明らかにしていく。そのことは同時にヨーロッパの歴史とその本質をさぐることに結びつく。</p> <p>◆評価方法</p> <p>試験もしくはレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の際に紹介する</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) はじめに 「ユダヤ」「ユダヤ教徒」「ユダヤ人」 2) ローマ時代のユダヤ教徒の歴史と生活 3) アシケナジーとセファルディウム 4) 十字軍と反ユダヤ運動 5) ベストの流行と反ユダヤ運動 6) 追放と迫害の定式化 ゲットーの成立 7) 都市からの追放と東方への移動 8) 宗教改革・農民戦争とユダヤ教徒 	

全カリ 歴史学 b (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(2)) 外共 歴史学(西洋史)(通年)	担当者	増谷 英樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(1)に同じ</p> <p>◆評価方法</p> <p>(1)に同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1)に同じ</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前期の復習 2) 啓蒙主義とユダヤ教徒の解放思想 3) フランス革命とユダヤ教徒の解放 4) ヨーロッパ近代のなかのユダヤ教徒 5) 人種主義と反セム主義主義の成立 6) 反セム主義主義とシオニズム運動の成立 7) 第一次世界大戦と東方ユダヤの「発見」 9) ナチスによるホロコーストへの道 	

全カリ 外共	文化人類学 a (未開文化の理解へ) 文化人類学 (通年)	担当者	井上兼行
◆講義目的、講義概要 文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。aにおいては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを概括的に学ぶ。		◆授業計画 1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 前史 (1) 4 前史 (2) 5 前史 (3) 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念 (1) 8 対象としての「文化」の概念 (2) 9 初期の視点——歴史的視点 10 視点の転換——現在の視点へ 11 方法としての実地調査 (1) 12 方法としての実地調査 (2)	
◆ 評価方法 定期試験期間中の試験による。			
◆テキスト、参考文献 テキストはなし。参考文献は随時紹介する。			

全カリ 外共	文化人類学 b (未開文化の理解へ) 文化人類学 (通年)	担当者	井上兼行
◆講義目的、講義概要 aで学んだ事柄を基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化にも検討を加えることを学ぶ。		◆授業計画 事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。	
◆ 評価方法 定期試験期間中の試験による。			
◆テキスト、参考文献 テキストはなし。参考文献は随時紹介する。			

全カリ 外共	現代文化論 a(グローバル化を巡って) 人文科学特殊講義 A(現代文化論)(通年)	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要 私たちは何気なく「文化」ということばを使うが、その指し示す領域は広く深い。固有の言葉や習慣、衣食住といった個人の暮らしに直接かかわるものから、芸術や思想、宗教といった人間の内面を動かす抽象的な価値にとどまらず、例えば企業や社会を支えるルールや価値観なども、それぞれの地域や民族、歴史など空間的、時間的な制約の下で異なった現れ方みせる。現代社会は米国などが主導する「文化」の世界的な統合と共通化が広がる一方で、地域や民族、伝統、宗教など固有の価値が対立や葛藤を繰り返す時代である。 ジョセフ・ナイは軍事力に代わって冷戦後の世界を主導する文化の力を「ソフトパワー」と呼んだ。春学期の授業では世界秩序をリードする「新しい帝国」として米国が繰り返すグローバル化の波を巡って、その文化的な統合と反発のかたちをさまざまな領域に探り、日本を含めた世界が直面する問題を考える。政治や経済、ビジネスから社会システムやモラルのありかたにも踏み込んで考察をすすみたい。		◆授業計画 1 はじめに イラク戦争と世界 2 米国という鏡 その成り立ち 3 米国という鏡 大量生産 4 米国という鏡 民主主義 5 米国という鏡 戦争と覇権 6 冷戦後の世界 国際関係 7 冷戦後の世界 ビジネス 8 冷戦後の世界 人種と国家 9 冷戦後の世界 消費 10 冷戦後の世界 大衆文化 11 冷戦後の世界 ルールと価値 12 まとめ	
◆ 評価方法 期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況やレポートの実績を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 特に指定しない。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』(ちくま新書)を参考文献とする。			

全カリ 外共	現代文化論 b(日本の表象と世界) 人文科学特殊講義 A(現代文化論)(通年)	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要 秋学期の授業では近代以降の「日本」を一つの文化モデルと考え、社会制度や人々の価値観の変容や、ビジネスのルールから大衆文化に至るその表象を通して「日本型システム」と呼ばれるしくみがもたらした文化的な意味とその功罪を、グローバル化の流れのなかで考える。 近代の日本は「脱亜入欧」をスローガンに欧米モデルの近代化を急いできたが、その結果として敗戦による国家の破綻とその後の経済大国としての成功を経験した。そこでは日本型システムと呼ばれる固有の社会の仕組みや人々の価値観が、時に高いパフォーマンスをもたらす、時に手痛いダメージにつながった。 授業ではこの「日本」というモデルを政策決定や競争システム、底流をなす人々の価値観や芸術表現の推移など、異なった角度からとらえ直し、構造改革などで現在日本が直面する問題の在処を探りながら、文化の特殊性と普遍性という二重化された構造を学んで行きたい。映像や文学作品なども理解の助けとしてとりあげてゆく。		◆授業計画 1 はじめに 日本問題とは何か 2 日本システム 起源 3 日本システム 展開と挫折 4 日本システム 再構造化 5 日本システム 成功 6 日本システム 破綻と再生 7 日本の表象と世界 脱亜入欧 8 日本の表象と世界 集団主義・天皇制 9 日本の表象と世界 トヨタ・SONY 10 日本の表象と世界 礼賛・バッシング 11 日本の表象と世界 消費・家族・表現 12 まとめ	
◆ 評価方法 期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 特に指定しないが、参考文献として夏目漱石の『三四郎』など文芸作品をよむことを課す。			

全カリ	比較文化論 a (東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 (講義の目的) 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は、「西洋」の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 (講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		◆授業計画 1 A ; キリスト教の広がり と アジア世界。その1 2 同 その2 3 同 その3 4 B ; イスラム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その1 5 同 その2 6 同 その3 7 C ; 十字軍・レコンキスタとその時代。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 D ; 2つの旅行記 (マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ) と 当時の世界。その1 11 同 その2 12 同 その3	
◆ 評価方法 レポートによる			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する			

全カリ	比較文化論 b (東西文化と近代化)	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 (講義の目的) 比較文化論Aと同じ。Bではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 (講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		◆授業計画 1 E ; 大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。その1 2 同 その2 3 同 その3 4 F ; 西アジアにおけるさまざまな近代化。その1 5 同 その2 6 同 その3 7 G ; 帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 H ; 旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。その1 11 同 その2 12 まとめ	
◆ 評価方法 レポートによる			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する			

全カリ 外共	経済学 a (理論経済学の基礎的理解) 経済学 (通年)	担当者	片岡 晴雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済学の目的と役割 2 近代経済学誕生までの経済学の流れ 3 市場と価格 4 需要と供給の基礎理論 5 家計の行動 6 企業行動の理論 7 完全競争市場と経済効率 8 所得分配 9 市場機構の限界 10 不完全競争の理論Ⅰ 11 不完全競争の理論Ⅱ 12 ミクロ経済学の応用 	

全カリ 外共	経済学 b (理論経済学の基礎的理解) 経済学 (通年)	担当者	片岡 晴雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価、利子率、国際収支、雇用量等々である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済循環 2 経済学の危機とケインズ革命 3 国民所得の決定 4 投資乗数の理論 5 投資の決定 6 政府活動と国民所得 7 貨幣市場 8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 9 経済のマクロ的一般均衡体系 10 インフレーション 11 経済の変動と成長 12 開放体系のマクロ経済学 	

全カリ 外共	経済学 a(国民所得の概念と決定メカニズム) 経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の関係について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費・貯蓄行動 4 企業の投資行動 5 企業の資金調達と株価市場 6 貨幣と経済活動 7 マクロ経済モデル 	
◆ 評価方法			
定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣			

全カリ 外共	経済学 b(経済政策の基礎理論と課題) 経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果について解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和・公共政策・環境政策の効果について講義を行なう。</p> <p>学生は、経済学 a を既習のうえで受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済政策 2 労働市場と失業 3 為替レートと経常収支 4 ミクロ経済学の課題について 5 需要曲線と供給曲線 6 社会的余剰の考え方 7 競争市場と独占 8 市場の失敗と公共政策 9 環境政策の理論と実際 	
◆ 評価方法			
定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学については適宜指示する。			

全カリ	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	大藤 紀子
◆講義目的、講義概要 半期の授業なので、扱える内容は限られているが、教科書に基づき、日本国憲法の概要を講義することを目標とする。 人権と統治機構の問題をそれぞれ教科書から拾う形で話したい。 教科書をよく読み、また日ごろから、関連の新聞記事等にも興味をもってほしい。 予習・復習を通じて、ノートをよく整理すること		◆授業計画 1. 生命・自由・幸福追求権 2. 法の下での平等 3. 思想・良心の自由 4. 表現の自由 5. 生存権 6. 人身の自由と刑事手続上の人権 7. 子どもの権利 8. マイノリティーの権利 9. 国民主権 10. 国会と内閣 11. 裁判所と違憲審査権 12. 平和的生存権	
◆ 評価方法 試験期間中の論述試験の結果による評価。			
◆テキスト、参考文献 大津浩他『憲法四重奏』（有信堂高文社、2002年） 山内敏弘篇『新現代憲法入門』（法律文化社、2004年4月刊行予定）			

全カリ	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	大藤 紀子
◆講義目的、講義概要 春学期と同様		◆授業計画 春学期と同様	
◆ 評価方法 春学期と同様			
◆テキスト、参考文献 春学期と同様			

全カリ	日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本国憲法の人権論を概観する。 毎回判例を取り上げながら、日本の人権状況を受講者とともに考えていきたい。</p> <p>講義概要 限られた講義回数なので、人権だけを取り上げる。各人の人権センスを磨くことが大切である。</p> <p>受講生への要望 必ず六法をもってくること。 この説明は第1回目の講義にて行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 六法の引き方 3. 法の下での平等 4. 信教の自由 5. 学問の自由 6. 表現の自由とプライバシー権 7. 報道の自由 8. 職業選択の自由 9. 人身の自由 10. 社会権 11. 教育権 	
◆ 評価方法			
定期試験による。			
◆テキスト、参考文献			
加藤・植村編『現代憲法入門講義』（北樹出版） 吉田編『憲法重要判例集』（敬文堂）			

全カリ	日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
◆ 評価方法			
春学期に同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期に同じ			

全カリ 外共	国際法 a (国際社会と私たち) 国際法(通年)	担当者	広部和也
◆講義目的、講義概要 【講義目的】 国際社会の法である国際法の基礎的知識を学び、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 【講義概要】 国際法の基本に当るテキストの第 I 部「国際法の特質と国際社会における法の支配」、及び、国際社会における行為者について説明する第 II 部「国際法における行為主体」を学ぶ。法律の基本的知識が必要な場合には、説明を加える。 【受講生への要望】 国際社会の現象に関心がありかつ法律に興味のある者が選択すると良いと思われる。予習をすることを薦めたい		◆授業計画 1. 講義全般に関する説明・国際法の意義 2. 国際法の歴史 (国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか) 3. 国際法の法源 (国際法はどのような形式で存在するか、どのように形成されるのか) 4. 国際法と国内法 (両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか) 5. 国家の成立 (国際法上、国家はどのように定義され、如何にして国際法上の存在となるのか) 6. 国家の基本権 (国際法上、国家はどのような権利を持つのか、特にその基本となる主権とはどのような権利か) 7. 外交使節 (国家の対外関係はどのように維持されるのか、外交官および領事の地位・職務) 8. 国家責任 (国家も違法行為を侵せば責任をとらなければならない) 9. 国際組織 (国際組織はどのように形成されるか、どのような役割を果たしているのか) 10. 個人の地位 (国際関係において国家と個人はどのように関連づけられているか) 11. 人権の国際的保護 (国際社会において人権はどのように保護されているか) 12. 国際犯罪 (個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引き渡し制度)	
◆ 評価方法 試験による。出席等平常点も考慮する。			
◆テキスト、参考文献 「導入対話による国際法講義」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 解説条約集・第 10 版 (石本泰雄・小田滋編) 三省堂			

全カリ 外共	国際法 b (国際紛争を考える) 国際法 (通年)	担当者	広部和也
◆講義目的、講義概要 【講義目的】 国際社会の法である国際法の基本的知識、及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ 【講義概要】 国際法の基本的部分である領域に関するテキストの第 III 部「知的管轄権の配分」、及び国際社会に生じる紛争の解決を扱う第 IV 部「国際紛争」を対象とする。 【受講生への要望】 国際社会に関心のある者 予習をすること。		◆授業計画 1. 国家領域 (国家が支配する領域の法的地位はどのようなものか) 2. 日本の領土問題 (北方領土、尖閣諸島、竹島) 3. 海洋の国際法制度 (海洋法の成立と発展過程) 4. 領海制度 (国家が支配する沿岸海域の法的地位と船舶の通航) 5. 公海制度 (いずれの国の支配にも服しない海域の法的地位と船舶の地位・通航) 6. 海洋の資源 1 (排他的経済水域の法的地位) 7. 海洋の資源 2 (大陸棚・深海底) 8. 領空・航空機の地位 9. 宇宙法 (宇宙の法的地位・人工衛星) 10. 国際環境法 (環境の国際的保護に関する法制度はどうなっているか) 11. 国際紛争の平和的解決 (国際紛争の解決方法・国際裁判) 12. 国際安全保障制度	
◆ 評価方法 試験による。出席等平常点も考慮の予定。			
◆テキスト、参考文献 「導入対話による国際法講義」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 「解説条約集・第 10 版」(石本泰雄・小田滋編) 三省堂			

全カリ 外共	政治学 a(身近な政治学) 政治学(通年)	担当者	志摩 園子
-----------	--------------------------	-----	-------

◆講義目的、講義概要

複雑多岐な様相を見せる現代社会に生きるわれわれは、そこでおきている混沌とした政治の動きや政治現象を理解し、自分なりの判断を下すことが必要となってくる。そのためには、政治とは何かを考えられるような手がかりを知ること重要である。

本講義は、身近なことから政治の話題を取り上げることとする。新聞やテレビで取り上げられるようなニュースを題材に、政治学の理解へと進めることを目指す。身近な題材から、政治学の専門用語や基本的概念の整理、確認をし、「なぜ」という自分自身の考察の土台作りを促したい。学生の発言、そこから発展した議論などできるだけ学生参加型の授業としたい。

◆ 評価方法

出席点、平常点、レポートの総合点

◆テキスト、参考文献

テキスト：真淵勝、久米郁男、北山俊哉『はじめて出会う政治学 -わかる楽しさ まなぶ喜び』有斐閣アルマ

◆授業計画

以下のような内容から、政治学を身近なものとしよう。

- ① 組織された集団
- ② 官と民の関係
- ③ 企業と政治：影の支配者を捜せ
- ④ 選挙と政治
- ⑤ 地方分権
- ⑥ マスコミと政治
- ⑦ 国会
- ⑧ 内閣と総理大臣
- ⑨ 官僚
- ⑩ 冷戦の終わり
- ⑪ 経済交渉
- ⑫ 国境を越える政治

全カリ 外共	政治学 b(参加する政治学) 政治学(通年)	担当者	志摩 園子
-----------	---------------------------	-----	-------

◆講義目的、講義概要

われわれ一人一人がその一員である現代社会で、そこに参加していることを自覚することは大事である。学生自らの関心や疑問を政治学への手がかりとして、各自「なぜ」を出発点にそれぞれの関心テーマを見つけ出すことから授業を進めたい。各自の発表の機会を設け、参加学生による議論を促したい。そのためにも、政治学に対するある程度の知識の共有を前提としたいので、前期の政治学(身近な政治学)を受講していることができれば望ましい。ただし、参加する学生の数によって、授業の進行方法は流動的なものとなる。

◆ 評価方法

出席点、平常点、レポートの総合点

◆テキスト、参考文献

適宜、参考文献を示す。

◆授業計画

政治学にかかわるテーマを各自見つけて、発表形式で進める。参加する学生の関心によって、内容、進行方法を決定する。

全カリ 外共	社会学 a (他者と自己) 社会学 (通年)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で理解し、他者、自己、そして社会について、社会的な視点から考えたい。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業のなかで指示する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史 (1) 3. 社会学の歴史 (2) 4. 社会の種類 (1) ——コミュニティとアソシエーション 5. 社会の種類 (2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 6. 社会の種類 (3) ——タテ社会とヨコ社会 7. アイデンティティ形成と社会 ——社会的役割について 8. 文化と社会 (1) ——シンボルと価値体系 9. 文化と社会 (2) ——意味とコミュニケーション 10. 社会問題を考える (1) 11. 社会問題を考える (2) 12. まとめ 	

全カリ 外共	社会学 b (現代社会の諸問題とリスク・マネジメント) 社会学 (通年)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>人間関係に悩んだとき、私たちは相手の言動をどう解釈するだろうか？ なんらかの決断を下すとき、私たちは何を基準にするだろうか？ 誰かに相談する、科学的なデータをかき集める、ハウツー本を熟読する、エンピツを転がす、占う…など、とにかくいろいろと試行錯誤してみるにちがいない。現代社会は、大小を問わずさまざまな問題を抱えている。しかし私たちは、そういった問題を単に眺めているだけではなく、なんとかして(ある程度のリスクを覚悟したうえで)解決しようと試みるだろう。</p> <p>まず本講義の前半では、現代社会が生み出した諸問題を社会的に分析する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、社会的な問題の解決方法がそれぞれの社会(文化)によってどのように異なるのかを見てゆく。</p> <p>なお、本講義は春学期「社会学 a」を基礎にしているので、できれば通年で履修してほしい。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業のなかで指示する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的な視点から見た「社会問題」 3. 社会構造の変化と文化変容 4. ボーダーレス社会とリスク 5. 現代社会の諸問題 (1) ——科学と宗教、死生観 6. 現代社会の諸問題 (2) ——移民の雇用 7. 現代社会の諸問題 (3) ——無国籍児童の保健 8. 現代社会の諸問題 (4) ——未定 9. 異文化間におけるリスク処理 (1) 10. 異文化間におけるリスク処理 (2) 11. 異文化間におけるリスク処理 (3) 12. まとめ 	

全カリ 外共	地理学 a (自然環境と文化) 自然科学特殊講義 A (自然環境と文化) (通年)	担当者	秋本 弘章
-----------	--	-----	-------

◆講義目的、講義概要

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。
まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。

◆ 評価方法

定期試験および出席状況

◆テキスト、参考文献

山本正三 (他) 著『自然環境と文化』大明堂
参考文献は授業中に示す

◆授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 自然と人間とのかかわり
- 3 環境の諸要素 (1)
- 4 環境の諸要素 (2)
- 5 環境の諸要素 (3)
- 6 熱帯地域 (1) — 自然的特質と伝統的農業
- 7 熱帯地域 (2) — アジアの稲作
- 8 熱帯地域 (3) — 熱帯の開発と問題 (1)
- 9 熱帯地域 (4) — 熱帯の開発と問題 (2)
- 10 砂漠地域 (1) — 自然的特質とイスラム
- 11 砂漠地域 (2) — 石油資源と近代化
- 12 前期のまとめ

全カリ 外共	地理学 b (自然環境と文化) 自然科学特殊講義 A (自然環境と文化) (通年)	担当者	秋本 弘章
-----------	--	-----	-------

◆講義目的、講義概要

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。
まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。

◆ 評価方法

定期試験および出席状況

◆テキスト、参考文献

山本正三 (他) 著『自然環境と文化』大明堂
参考文献は授業中に示す

◆授業計画

- 1 温帯地域 (1) 自然的特質
- 2 温帯地域 (2) 地中海森林地域
- 3 温帯地域 (3) 温帯混交林地帯 (ヨーロッパ)
- 4 温帯地域 (4) 温帯混交林地帯 (アジア)
- 5 温帯地域 (5) 新大陸
- 6 冷帯地域
- 7 冷帯地域・寒帯地域
- 8 山地地域
- 9 世界の環境問題 (1) 人口
- 10 世界の環境問題 (2) 食料
- 11 世界の環境問題 (3) 温暖化と砂漠化
- 12 まとめ

全カリ	地理学 a (世界の自然環境と文化)	担当者	犬井 正
◆講義目的、講義概要 地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、日常生活している環境とは大きく異なる地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 オリエンテーションー地理学とはどのような学問か 2 環境の諸要素(1)地形環境 3 環境の諸要素(2)気候環境 4 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 5 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 6 沙漠地域(1) 自然的特色と伝統的経済活動、沙漠と世界宗教の起源地 7 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 8 亜寒帯森林地域、タイガの中の生活 9 ツンドラ地域と氷雪地域 10 山地地域の自然環境 11 山地地域の生活様式 12 自然環境と文化のまとめ	
◆テキスト、参考文献 テキスト：なし 参考文献：山本正三他著『自然環境と文化』(大明堂)			

全カリ	地理学 b (里山と二次林文化)	担当者	犬井 正
◆講義目的、講義概要 近年、全国で「里山保全運動」が広がっている。里山は高度経済成長期前まで、農業や農村生活の再生産を維持し、人と自然の共生関係を育んできた。身近な自然である全国の里山に目を注ぎながら、そのかわりの履歴を読み解いていく。各地の里山で展開してきた二次林文化を明らかにし、里山の豊かさが時空を超えて存在してきたことを明らかにし、「身近な自然を守る」ということとはどのような意味をもつのか、里山での文化を、持続可能な社会システムを作る原理として現代の人々が何を学び取るべきかなどを考えていく。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 里山とは何か 2 里山と雑木林 3 里山の自然史ー氷期以降の自然 4 里山と生物の多様性(1) 5 里山と生物の多様性(2) 6 里山と農村生活 7 里山と農業 8 里山の諸相 9 里山と二次林文化ー循環型社会の原像 10 里山の開発ー東洋のアルカディアの崩壊 11 里山保全ー身近な自然を守るとは 12 まとめー市民による里山保全活動	
◆テキスト、参考文献 テキスト：犬井 正『里山と人の履歴』(新思索社)			

全カリ 外共	女性学 a (女性学と女性の歴史) 社会科学特殊講義 A (女性学)(通年)	担当者	井上たか子
-----------	---	-----	-------

◆講義目的、講義概要

日本で女性学が市民権を得たのは四半世紀前の1978年である。女性学はどのようにして誕生したのだろうか。また、その前後で女性の状況はどのように変化したのだろうか。

女性学とは、簡単に言えば、社会が女性についてかたちづけているイメージや社会において女性が占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていくための妨げになっているものを明らかにして、社会の変革をめざす学問である。

したがって、女性学は机上の空論ではなく、個人の具体的な生き方に密接に関係する。一人ひとりが自分で自分の生き方や男女の関係について考えなければ意味がない。

登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを発表してもらいながら、進めたい。

毎回の授業の流れについては、1回目の授業で説明する。

◆ 評価方法

毎回提出してもらった短い感想と学期末のテストによる。

◆テキスト、参考文献

毎回資料を配布する。また、適宜、ビデオを使用する。参考文献は、その都度指示する。

◆授業計画

前期

1. はじめに
2. ジェンダーとはなにか
3. 女性運動／女性学の誕生と歴史 (1)
4. 女性運動／女性学の誕生と歴史 (2)
5. 女性運動／女性学の誕生と歴史 (3)
6. 女性の政治参画 (1)
7. 女性の政治参画 (2)
8. 女性の政治参画 (3)
9. 女性と労働 (1)
10. 女性と労働 (2)
11. 女性と労働 (3)
12. まとめ

全カリ 外共	女性学 b (女性学と女性の現状) 社会科学特殊講義 A (女性学)(通年)	担当者	井上たか子
-----------	---	-----	-------

◆講義目的、講義概要

女性学とは、簡単に言えば、社会が女性についてかたちづけているイメージや社会において女性が占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていくための妨げになっているものを明らかにして、社会の変革をめざす学問である。

その意味で、女性の現状を知ることは重要である。身近な問題点を検証し、これからの社会のあり方を自分の問題として考えてもらいたい。

女性と社会の関係が変われば、必然的に男性と社会の関係も変わるので、男性にとっても無関係ではありえない。

登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを発表してもらいながら、進めたい。

毎回の授業の流れについては、1回目の授業で説明する。

◆ 評価方法

毎回提出してもらった短い感想と学期末のテストによる。

◆テキスト、参考文献

毎回資料を配布する。また、適宜、ビデオを使用する。参考文献は、その都度指示する。

◆授業計画

後期

1. はじめに
2. 女性と家族 (1)
3. 女性と家族 (2)
4. 女性と家族 (3)
5. 女性と身体 (1)
6. 女性と身体 (2)
7. 女性への暴力 (1)
8. 女性への暴力 (2)
9. 女性への暴力 (3)
10. 世界の女性たち (1)
11. 世界の女性たち (2)
12. まとめ

全学共通授業科目 外国語学部共通科目	数学 a (微分学) 数学 (通年)	担当者	福井 尚生
-----------------------	-----------------------	-----	-------

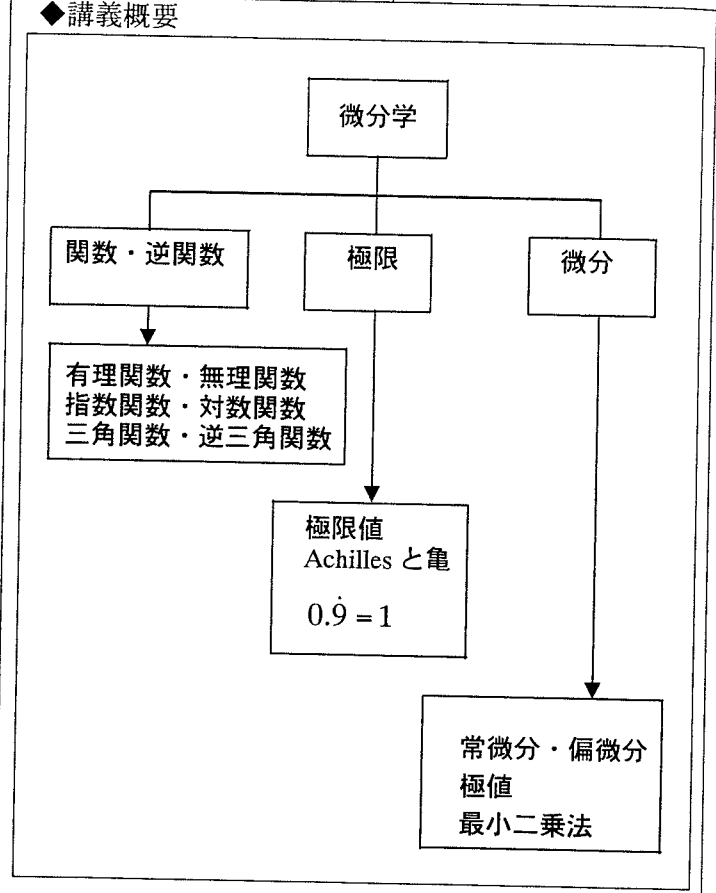
◆講義目的

- 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。
- 『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する微分学を学びます。「微分学」は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底を扱うのが得意です。
- 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から身近な現象の変化の様子を逆に探ります。
- 微分学を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。
- 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、自らの頭で先を考える努力をして下さい。

○ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう**演習用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

○ テキスト/配布するプリント、参考文献/
『数学読本』松坂和夫 著・岩波書店



全学共通授業科目 外国語学部共通科目	数学 b (積分学) 数学 (通年)	担当者	福井 尚生
-----------------------	-----------------------	-----	-------

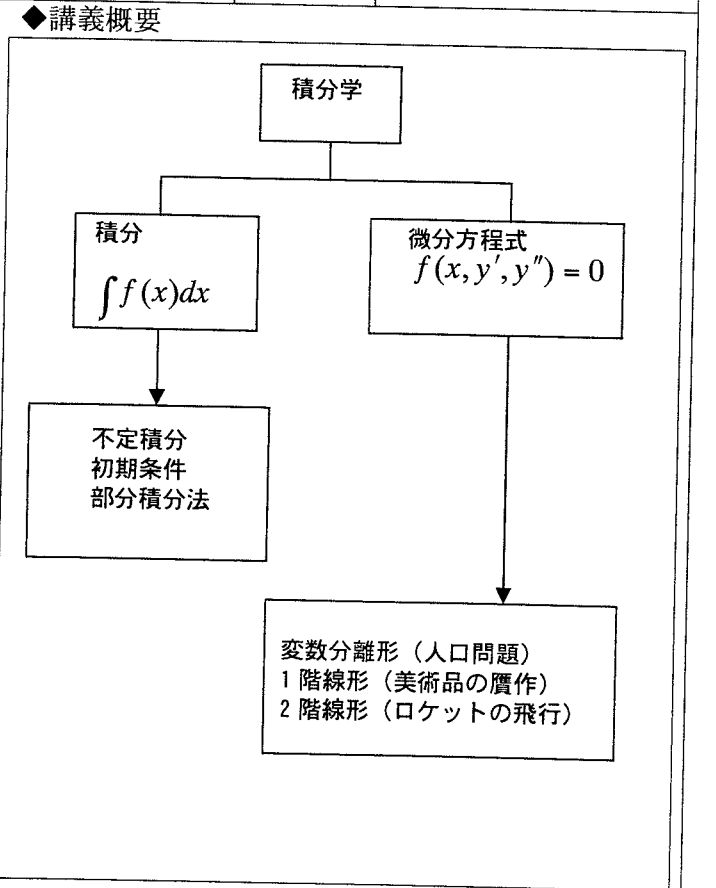
◆講義目的

- § 全学共通授業科目としての『数学 b』は『数学 a』の単位を修得した学生が履修することを希望します。
- § 『数学 b』では、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分・微分方程式」を学びます。
- § 身近な現象の数学モデルに現れる変数の発展を辿り、具体的な行動・未来予測などに挑戦します。
- § 微分方程式を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。
- § 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、自らの頭で先を考える努力をして下さい。

§ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう**演習用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

§ テキスト/配布プリント、参考文献/『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田高夫、大町比佐栄 訳・日本評論社



全カリ 外共	物理学 a (特殊相対論の世界) 物理学 (通年)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要 現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>「物理学 a」(春学期)では、特殊相対論の内容である光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等を取りあげる。</p> <p>注意 1限の授業ですが、遅刻は他の人の迷惑となりますので厳禁です。 「授業レポートシステム」「講義支援システム」を利用して、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加してください。</p> <p>◆評価方法 日常の授業への参加態度、毎回かまたは3～4回の「授業レポート」で評価をつける予定。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 相対性原理 3 電磁気と光速度 4 光速一定の原理 5 「光とアインシュタイン」 6 同時概念の相対性 7 時間概念の相対性 8 空間概念の相対性 9 「時を刻む」 10 浦島効果と双子のパラドックス 11 ローレンツ変換 12 4次元不変量 	

全カリ 外共	物理学 b (一般相対論の世界) 物理学 (通年)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要 現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>「物理学 b」(秋学期)では、一般相対論の内容である等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等を取りあげる。</p> <p>注意 1限の授業ですが、遅刻は他の人の迷惑となりますので厳禁です。 「授業レポートシステム」「講義支援システム」を利用して、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加してください。</p> <p>物理学 a 成績不可の者は物理学 b 登録不可。</p> <p>◆評価方法 日常の授業への参加態度、毎回かまたは3～4回の「授業レポート」で評価をつける予定。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 等価原理 2 一般相対性原理 3 重力の幾何学化 4 Einstein 方程式 5 時空の歪み 6 Schwarzschild 解 7 「ブラックホールを探る」 8 Friedmann 解 9 宇宙の空間的・時間的広がり 10 ビッグバン宇宙 11 宇宙論上の諸問題 12 地球外文明 	

全カリ 外共	化学 a (生命と健康の化学) 自然科学特殊講義 A (化学) (通年)	担当者	和田 浩志
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義目的】 人間の体に直接関係するさまざまな物質について、その役割や有用性、有害性を正しく理解するとともに、日常生活に役立てる方法を探る。</p> <p>【講義概要】 栄養物、味、香り、色等に関する物質、医薬品、毒物など健康に関する物質について、構造式を含めた特徴と共通性、特殊性を講義する。</p> <p>また、新聞や雑誌などで話題になっている物質についても適宜取り上げる。 化学 b とはお互い補う部分もあるので、化学 b も受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：講義内容と受講上の注意 2. 栄養の化学 (1)：糖質 3. 栄養の化学 (2)：脂質とタンパク質 4. 味の化学 (1)：天然甘味物質 5. 味の化学 (2)：人工甘味料、味覚変革物質、苦味物質など 6. 香料・香辛料の化学 7. お茶とポリフェノールの化学 8. 着色料の化学 9. 毒と薬の化学 (1)：天然毒と人工毒 10. 毒と薬の化学 (2)：麻薬、覚せい剤、幻覚剤など 11. 毒と薬の化学 (3)：漢方薬と合成薬 12. まとめ：化学的なものの見方 	
◆ 評価方法			
出席回数、各種レポート、受講態度、定期試験の結果を総合して判断する。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト：プリントを適宜配付する。			

全カリ 外共	化学 b (生命と健康の化学) 自然と科学特殊講義 A(化学)(通年)	担当者	加藤 僖重
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義目的】 身近な諸現象を化学の面から理解し、解決法を探すことを目標とする</p> <p>【講義概要】 身近な化学物質を新聞記事等に確かめながら、物質の持つ特徴と共通性を知る。</p> <p>【受講生への要望】 毎日のニュースに関心を持ってほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の説明と受講上の注意 2 物は何から出来ているか 3 分子と原子物 4 周期律表 5 水俣病と有機水銀 6 イタイイタイ病とカドミウム 7 農薬と塩素 8 毒ガスと有機リン 9 大気汚染と酸性雨 10 地球温暖化とオゾン層破壊 11 環境ホルモンとは 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
出席回数、レポート、試験を総合的に判断する。			
◆テキスト、参考文献			
講義中にプリントを配布する。			

全カリ 外共	生物学 a (植物の特性と自然の仕組み) 生物学 A (通年)	担当者	和田 浩志
◆講義目的、講義概要 【講義目的】 植物を通して自然に対する認識を深めるとともに、自然保護の意義を再認識する。 【講義概要】 身近にある植物や日本の代表的な植物に接しながら、植物の特性や自然の仕組みについて講義する。 また、新聞や雑誌などで話題になっている事柄についても適宜取り上げ、その意味について考察する。 生物学 b とも関連するので、両者を履修することが望ましい。		◆授業計画 1. はじめに：講義の内容と受講上の注意 2. 植物の自然界における役割 3. 生物の多様性と共進化 4. 植物の形態 (1)：茎と葉 5. 植物の形態 (2)：花 6. 植物の形態 (3)：根と根茎 7. 植物の形態 (4)：果実と種子 8. 植物の生態 (1)：日本の代表的な植物 9. 植物の生態 (2)：固有植物 10. 植物の生態 (3)：世界の植物と帰化植物 11. 森林破壊とその原因 12. まとめ：植物と自然の見方	
◆ 評価方法 各種レポート、試験、出席回数、受講態度などを総合して評価する。詳細は講義中で。			
◆テキスト、参考文献 資料を講義時に適宜配付する。			

全カリ 外共	生物学 b (植物の分布) 生物学 A (通年)	担当者	加藤 僊重
◆講義目的、講義概要 登録に先立っての注意 ・生物学には A と B があるが、同年度はもちろん年度を異にしてもどちらか片方しか履修できない。 講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることが目標とする。 講義概要 日本には特異的な固有種が 40% を占めるが、その理由を知るために、主として北半球の自然環境を学ぶ。 受講生への要望 ・例年勉強する気持のない学生が多いことに悩まされている。生物学に関心のある学生であること。 ・身近な動植物名を各々 100 種以上認識できること。 ・毎日、新聞を読むこと。		◆授業計画 1 はじめに：産業革命の影響 リンネの弟子たちの活躍 2 ヨーロッパと日本の植生：三木茂の研究 3 北米と日本の植生：ペリー艦隊が蒐集した植物標本 4 固有種とは：見なれた種類でも貴重品 5 温量指数と乾湿指数：吉良龍夫の研究 6 古赤道分布説と植物の進化 1：前川文夫の研究 7 古赤道分布説と植物の進化 2：日本とアンデス 8 プラントハンター：シーボルトの役割 9 日本の植物 1：北方系の植物と南方系の植物 10 日本の植物 2：日本海型植物と太平洋型植物 11 植物と動物の共進化：植物あつての動物 12 まとめ	
◆ 評価方法 出欠、レポート、試験による。			
◆テキスト、参考文献 特になし。			

全学共通授業科目 外国語学部共通科目	地球科学 a (恒星天文学) 地学 (通年)	担当者 福井 尚生
-----------------------	---------------------------	--------------

◆講義目的

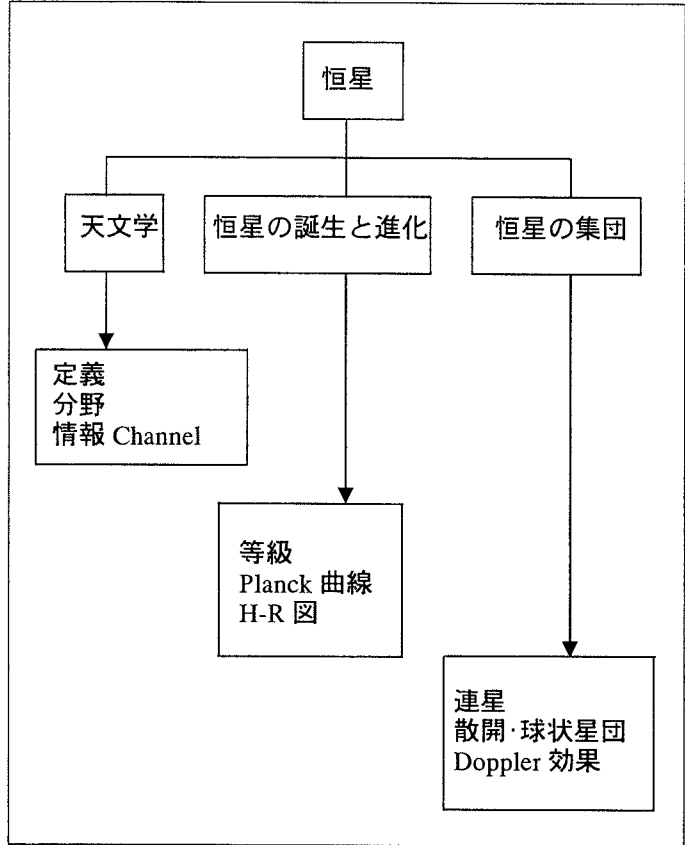
- ★『天文』とは「天」から届く「文」のことです。『天文学』とは宇宙から届く手紙を解読する学問です。
- ★『地球科学 a』は「恒星」についての『天文学』です。天文屋は地球上で見つけた自然法則が太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に広い宇宙の自然法則が地球にも及んでいることを知りました。
- ★地球は特別な天体ではなく、**宇宙の一員であることを実感**してもらえればと思います。
- ★視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ★主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員であることの自覚の上に、自らの頭で先を考える努力をして下さい。

★主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、**課題用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

★テキスト/配布プリント、参考文献/
『天文学への招待』岡村定矩 編・朝倉書店

◆講義概要



全学共通授業科目 外国語学部共通科目	地球科学 b (銀河天文学) 地学 (通年)	担当者 福井 尚生
-----------------------	---------------------------	--------------

◆講義目的

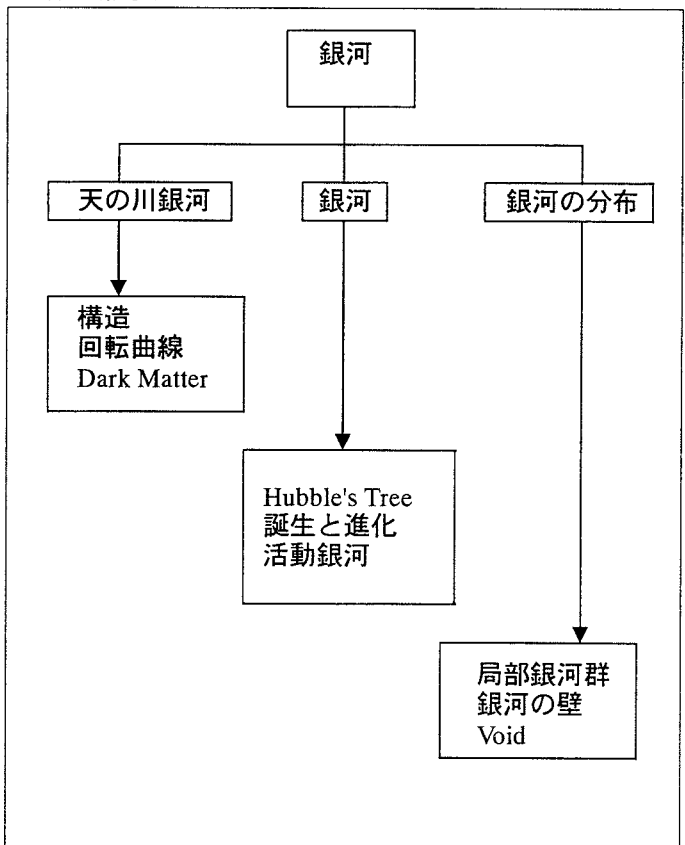
- ★全学共通授業科目としての『地球科学 b』は『地球科学 a』の単位を修得した学生が履修することを希望します。
- ★『地球科学 b』は「銀河」についての『天文学』です。天文屋は「恒星」までの考察で発見した自然法則を用いて天の川銀河・銀河にまで考察を広げ、自然法則の統一・普遍化に努めています。
- ★現有知識で未知の世界を探り、**独自の世界を未来に向かって開く場**になればと思います。
- ★視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ★主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員であることの自覚の上に、自らの頭で先を考える努力をして下さい。

★主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、**課題用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

★テキスト/配布プリント、参考文献/
『教養のための天文学講義』米山忠興 著・丸善

◆講義概要



全カリ 外共	健康科学 a (東洋の健康哲学) 保健体育講義 (半期)	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的 近代文明の予想を超える発展と人の健康意識の大きなズレ、科学の発達による人間社会の変革と利便化された生活による、疾病の変質、地球環境の劣悪化、生とは・死とは・科学とは、人間としての真の健康をどのように捉え、生物が健やかに生きるこの意味と、現代科学の善と悪が、人と生物の健康と将来に関して、どのような意味と、関係を持つかを検証する必要がある。</p> <p>概要 時代と健康問題の推移・文明の発達と健康の意識の変化、科学の発達と地球環境の変化が意味すること。社会構造と地球構造の目に見えない変化と近年特に著しいストレス・難病の増加を検証して個人の健康な生涯を設計する上に役立て、特に古来より東洋に継承されてきた健康哲学を基に考える。</p>		<p>1 : ガイダンス 2 : 健康問題の歴史的変遷 3 : 4 : 近代からの疾病の変遷の意味すること 5 : 6 : 東洋の身体観 (生・病・老・死) について 7 : 東洋の健康観 (気の哲学と心身一体論) 8 : 西洋と東洋の (医術・疾病・治療) 観の相違 9 : 現代科学の発達と個人の健康意識 10 : 生活習慣病の意味するところ 食・薬・医・DNA 11 : 気功・ヨーガ・エアロビクス理論 12 : 現代生活と健康意識</p>	
◆ 評価方法			
出席を重視・レポート・テスト			
◆テキスト、参考文献			
プリントを必要に応じて配布			

全カリ 外共	健康科学 b (東洋の健康哲学) 保健体育講義 (半期)	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的 文化・地域・思考の異なる人間が複雑に絡み合い共生を強いられる現代社会において、意思の疎通を図ることは難しい。そこで人間行動にかかわる問題を明確に提示し、人間を解明していくことは時代とともに、必要不可欠のことといえる。人間生活の諸問題を多角的・有機的に結びつけて考えることを研究する。</p> <p>概要 能力の発達段階 (幼児)・就学前後に現れる様々な問題や課題、家庭・学校・企業といった様々な組織と個人の問題と、固有の課題、大人と子供・健康者と生涯を持つ人・男と女、コーナと雇用者というその時々の人間の状態とそこに現れる人間行動をテーマにオムニバス方式で講師が担当する</p>		<p>1 : ガイダンス・コミュニケーション能力の発達 青柳 (1~6) 人間関係と言語 組織におけるコミュニケーション 21世紀の抱える問題点 共時性・自己性・理解・誤解 東洋思想におけるコミュニケーション 安井 (7~12) (学校教育におけるコミュニケーションの機能とその課題) (民主主義教育の成立自治的活動の発展) (学力重視の教育と教師-生徒関係の変化) (学校教育の荒れと教育改革の課題) (新教育課程下における課題・・・ゆとり) (総合的学習と新しい学びの創造) 梶野 (13~17) (スポーツ人類学から見たコミュニケーション) (近代スポーツの成立とコミュニケーション) (フットボールの伝播とコミュニケーション) (現代スポーツ現象とコミュニケーション) (競技種目の特性とコミュニケーション) 松原 (18~23) (ハンネ シュナイダ-の映像) (トニ ザイラの映像) (日本とオーストリアの指導法の比較) (ワールドカップサッカーの映像) (UEFA カップサッカーの映像) (Jリーグとヨーロッパチャンピオンズリーグの比較) 青柳 1</p>	
◆ 評価方法			
出席状況・レポート 担当者毎の評価の総合による			
◆テキスト、参考文献			
担当教員より提示・配布			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション学 a (身体運動と生体の生理的変化) 保健体育講義 (半期)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要 生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。 スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。		◆授業計画 1 講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて 2 体育的な立場から見た発達の意義と、形態面および機能・運動能力の発達について 3 運動と呼吸について、換気量・酸素摂取量および運動とエネルギー代謝率について 4 運動と呼吸について、酸素負債量、トレーニングと呼吸機能について 5 運動と循環のうち、心拍数・拍出量、およびスポーツ心臓について 6 運動と筋肉について、その種類と構造、および筋収縮のエネルギー源について 7 運動と筋肉のうち、筋の機能と筋力トレーニングについて 8 運動と神経系について、伝導路・反射・反応時間について 9 体力について、その概念・意味・内容について 10 体力とトレーニングのうち、ウエイト・トレーニングについて 11 体力とトレーニングのうち、サーキット・トレーニングについて 12 体力とトレーニングのうち、インターバル・トレーニングについて	
◆ 評価方法 出席回数、授業参加態度、提出物の内容を加味して決定する。			
◆テキスト、参考文献 宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウスHD			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション学 b (トレーニングの科学的基礎) 保健体育講義 (半期)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要 春学期に同じ		◆授業計画 1 講義内容の全般的な説明 トレーニングの定義 トレーニングの効果を決定する要因 2 トレーニング効果が生じる条件 競技成績とトレーニングについて 3 成長段階に応じたトレーニングと基本の動作を身につける必要性について 4 最大酸素摂取量の発達について 年齢に応じたトレーニングについて 5 筋肉の構造と活動のメカニズムおよび運動を引き起こす力について 6 筋活動の様式と力の大きさ 関節角度と発揮される力について 7 筋肉の活動をもたらす興奮・収縮関連 運動神経の筋線維支配について 8 運動神経を興奮させる大脳 筋肉の活動のためのエネルギーについて 9 筋線維の種類と筋繊維組成について 筋線維組成とスポーツ種目について 10 速筋線維の動員について 運動の種類と筋線維の動員について 11 筋線維の代謝について 運動強度と酸素摂取量について 12 最大酸素摂取量と呼吸機能について	
◆ 評価方法 春学期に同じ			
◆テキスト、参考文献 大学保健体育研究会編『大学生の保健と体育』 道和書院			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション学 a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう) 保健体育講義(半期)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要 健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。		◆授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 自由時間とは その1 第3回 自由時間とは その2 第4回 生活時間の構成と自由時間の現状 第5回 現代における自由時間の意味 その1 第6回 現代における自由時間の意味 その2 第7回 自由時間を過ごす能力の開発 第8回 古典的解釈から知るレジャー その1 第9回 古典的解釈から知るレジャー その2 第10回 クオリティオブライフについて考える 第11回 あなたのライフデザイン 第12回 まとめ	
◆ 評価方法 出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)			
◆テキスト、参考文献 中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒヤエル・エンデ、「モモ」、岩波書店			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション学 b (最近のスポーツ、健康に関する話題を正しく知ろう) 保健体育講義(半期)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要 健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 秋学期は、健康づくりやトレーニングについて具体的に科学的視点から学んでもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。		◆授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率 第3回 身体計測の結果から 第4回 肥満 第5回 運動しない現代生活 第6回 運動と栄養 ダイエット・サプリメント 第7回 運動と栄養 いろいろな健康法 第8回 トレーニングの基本 第9回 エアロビクストレーニングについて その1 第10回 エアロビクストレーニングについて その2 第11回 筋力トレーニング 第12回 まとめ	
◆ 評価方法 出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)			
◆テキスト、参考文献 特になし			

全カリ 外共	ことばと思想 (I I I) (言語音の構造 a) 言語学 (通年)	担当者	伊豆山 敦子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>人間の思考を形成する言語の、音声面を考察する講義である。 人間の言語音にはどのようなものがあるか。それらは、どのような構造をなしているか。その調音機構を考察し、調音・聴取の訓練をする。そして、その表記法を習得する。 人間の音声認識の仕組みを考えることは、言語による思考形成を考える基礎である。 第一言語は、各自無意識のうちに習得するのだが、その音声面に対する客観的な認識を習得し、その上で、第二言語の学習、教育や、言語の研究に役立てることを目標にする。 国際音声字母表を用いながら説明する。それを理解し、使用できるようになることが求められる。 受講者の人数にもよるが、音声学的訓練を主としたい。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音声学とは。 2. 調音器官 3. 有声・無声。鼻腔・口腔。 4. 母音 5. 摩擦音と閉鎖音 6. 両唇閉鎖音 7. 両唇摩擦音 8. 唇歯音 9. 歯・歯茎閉鎖音 10. 歯・歯茎摩擦音 11. 破擦音 12. 復習 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への積極的参加。授業中随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>小泉保『音声学入門』(1996)大学書林。ジェフェリ-K プラム他『世界音声記号辞典』(2003)三省堂</p>	

全カリ 外共	ことばと思想 (I I I) (言語音の構造 b) 言語学 (通年)	担当者	伊豆山敦子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ。 特別な事情が無い限り、前期「言語音の構造 a」を履修しておくことが望ましい。 言語音も体系をなしているので、後期になり全体像が見え始めると、一層理解が深まると期待される。 言語音の単位がどのような体系で、どんな構造をもっているかを理解する。 大学で習得する外国語の音声面に関する理解を深める。 さらに、音声単位が各言語で果たしている機能にも触れ、音韻論への道を垣間見る。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期講義内容の概要 2. 硬口蓋音 3. 軟口蓋音 4. 口蓋垂音 5. 側面音 6. ふるえ音・はじき音 7. 接近音 8. 副次調音 9. 鼻母音 10. 日本語の音素 11. 日本語の音素 12. 復習 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業内容への積極的参加。随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>小泉保『音声学入門』(1996)大学書林。ジェフェリ-K プラム他『世界音声記号辞典』(2003)三省堂</p>	

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅲ)(思想を形づくるもの) 日本語学概論(通年)	担当	金田一 秀穂
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>私たちの考えは、多く、日本語に依っている。 日本語の形を知ること、思想の形にせまりたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語句の領域 2. 音声から見た日本語 3. 音声から見た日本語 4. 音声と語彙 5. 語彙論の方法 6. 語彙の分類 7. 借用語 8. 語彙の構成 9. 語彙の生成 10. 語彙と文法 11. 文の形 12. 文の分類 	
◆ 評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅲ)(思想を伝えるもの) 日本語学概論(通年)	担当者	金田一 秀穂
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>思想を伝えるときの言葉は、どのようなものがあるのか。意味は、どのように伝えられているのか。 言葉から考えを作るとして、その限界と可能性を探りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味の種類 2. 音声と意味 3. 表記と意味 4. 文体的意味 5. 状況の意味 6. 辞書の意味 7. 認知的意味.分類 8. 認知的意味.比喩 9. 発話の意味 10.思考と言葉 11.言語行動へ 12.まとめ 	
◆ 評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (科学としての心理学とこころの世界) 心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
-----------	---	-----	-------

◆講義目的、講義概要

こころのはたらきについて興味関心を持っている人は多いと思う。心理学では「こころ」をいかにとらえ、理解しようとしてきたのだろうか？本講義では、科学としての心理学における「こころ」のとらえ方について、まず概説する。さらに、最近の心理学の研究成果について身近な話題を取り上げて論じていきたい。

◆ 評価方法

出席と学期末の試験により評価をおこなう。

◆テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。

◆授業計画

1. オリエンテーション：授業内容の説明
2. 「こころ」を理解するとは①
3. 「こころ」を理解するとは②
4. 「こころ」を理解する方法
5. 性格の理解
6. 性格の形成
7. 環境と性格
8. 環境の認知と行動①
9. 環境の認知と行動②
10. 環境の認知と行動③
11. 現代社会とこころの痛み
12. 現代社会とこころの揺らぎ

全カリ 外共	ことばと思想 (Ⅳ) (心理検査法とこころの健康) 心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
-----------	---------------------------------------	-----	-------

◆講義目的、講義概要

基本的には春学期の授業内容を踏まえ、秋学期では受講者に心理検査や心理学実験などを実践してもらい、さらに、その結果をレポートにまとめてもらう。こうした活動を通して心理検査の実際や心理学実験の方法を体得してもらう。

◆ 評価方法

出席とレポートにより評価をおこなう。

◆テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。

◆授業計画

1. オリエンテーション：授業内容の説明
2. 心理検査法
3. 自己の性格理解
4. 自己の適性
5. 作業検査
6. 家族関係の認知①
7. 家族関係の認知②
8. 認知・行動の測定①
9. 認知・行動の測定②
10. 認知・行動の測定③
11. ストレス
12. 「こころ」の健康

全カリ 外共	ことばと思想 (III) (悪の思想史) 人文科学特殊講義 B (西洋哲学史)	担当者	谷口 郁夫
-----------	--	-----	-------

◆講義目的、講義概要

私たちは日常的に「善・悪」の判断をしています。また、具体例として「どのような行為が悪なのか」という問いに答えることのできない人はまずいないでしょう。ところが、「悪とは何か」という問いに答えるのはそれほどやさしくありません。現に悪とされる行為は、時代や文化によって異なっています。具体的内容は異なっていようと、「悪」という判断そのものは存在するのです。この講義は「悪」の普遍的定義の試みです。もうひとつ、「悪」にはある種の魅力が存在します。それはなぜなのかについても考えて行きます。日本語を読むのが苦手な学生が多くなっているような感想を持っていますので、できるだけ多くの文献を読んでいただくようにする予定です。

◆ 評価方法

受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。

◆テキスト、参考文献

<http://village.infoweb.ne.jp/fwje1931/>から講義で使用する資料を配布します。

◆授業計画

1. 「悪」の思想全般に関する問題点
2. ユダヤ・キリスト教的「悪」の思想
3. 西洋思想における性善説と性悪説 (ホブス・ロック・ヒューム・ルソーを取り上げます)
4. 前回の続き
5. アダム・スミスの『道徳感情論』を読みます。
6. カント『人間愛からなら嘘をついてもよいという誤った権利に関して』を読みます
7. 前回の続き
8. エーリッヒ・フロム『悪について』1
9. エーリッヒ・フロム『悪について』2、同『破壊』を併読予定
10. 関係性としての人間、関係性の破壊としての悪について
11. 関係性としての人間、閉鎖性としての悪について
12. これまで展開してきた議論が現実に対して適用可能であるかどうかについて考察します

		担当者	
--	--	-----	--

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ 外共	ことばと思想 (III) (ニヒリズムの克服と生きる意味) 人文科学特殊講義 B (哲学思想史)	担当者	谷口 郁夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>生きることに意味はあるのか、これはつねにわれわれが突きつけられる問いです。ニーチェは「神の死」とともに、20世紀はニヒリズムの世紀になると予言しました。その予言は的中したと言わざるをえないでしょう。また、ご存知のように、日本は自殺大国です。最近では、毎年、交通事故死の四倍近い三万人以上の人々が自殺します。春学期同様、文学者、心理学者、思想家などの著作を取り上げながら考察を進めますが、その過程のなかで、受講者に自分自身について考えていただくことが、この講義の目的です。資料を多く準備していますが、まず自分で考えるという姿勢で臨んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生きることの意味について一般論として論じます 2. 「ニヒリズム」という言葉をニーチェはどのような意味で用いたのかを時代背景とともに考察します 3. ドストエフスキーの『悪霊』の登場人物、特にキリロフの思想を取り上げます 4. 前回の続き 5. カミュ『シーシュポスの神話』を取り上げます 6. フロム『自由からの逃走』を手がかりに、現代社会について考えます 7. ニーチェにおける「神の死」の宣告 8. ニーチェにおける「運命愛」の思想 9. フランクルの『夜と霧』を取り上げます。フランクルは精神病理学者ですが、ナチの強制収容所の生存者で、「生きる意味」、「ニヒリズムの克服」が現代の課題だと考えた人です。 10. フランクルの『時代精神の病理学』を取り上げます。 11. アドラー『人生の意味の心理学』を取り上げます。今学期のまとめ 	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。</p> </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>http://village.infoweb.ne.jp/fwje1931/から講義で使用する資料を配布します。</p> </div>			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育) 日本語教育概論	担当者	中西家栄子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではない。日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 外国人に日本語を教えるとは？ 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー日本語教育の現場を見る (ビデオ) 2. 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違いについて 3. 日本語教育の歴史 4. 『やさしい日本語のしくみ』日本語の音と形 5. 同じ 6. 『やさしい日本語のしくみ』日本語の文法 7. 同じ 8. 同じ 9. 『やさしい日本語のしくみ』日本語らしい表現 10. 同じ 11. 同じ 12. 同じ 	
◆ 評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト 2. 宿題提出 3. 出席率 (欠席4回以上はFとする)			
◆テキスト、参考文献			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 庵功雄、他『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 2. プリント配布 			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅲ)(通訳論) 人文科学特殊講義 B(通訳文化論)	担当者	永田 小絵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>通訳・翻訳の理論について理解を深めることを目的とします。 通訳・翻訳に関する研究について、さまざまな角度から概観します。</p> <p>受講生への要望 テキストがないので、授業には必ず出て講義を聴いてください。 また、レポートの書式と提出期限は厳守してください</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 通訳通訳はどのように研究されてきたのか 3. 初期の通訳論 4. 通訳者による体験的な通訳論について 5. 日本における通訳の歴史とノルムの変遷 6. 現代の通訳研究とその課題 7. 通訳は教えられるのか 8. 通訳研究の歩み 9. 通訳を歴史的な角度から研究する 10. 「仕事としての通訳」に関する研究 11. 通訳教育とその方法 12. 応用言語学・認知言語学からの通訳研究 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席率と期末レポートによって評価します。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">インターネット上に講義資料をダウンロードできるサイトを開設します。 URL は最初の授業で知らせます。</div>			

全カリ	ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 a）	担当者	福井 嘉彦
◆講義目的、講義概要 アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。		◆授業計画 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄堕ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。	
◆ 評価方法 出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。			
◆テキスト、参考文献 テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。			

全カリ	ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 b）	担当者	福井 嘉彦
◆講義目的、講義概要 春学期に準じる。		◆授業計画 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代から現代まで 以上の各項を述べる予定。	
◆ 評価方法 春学期に準じる。			
◆テキスト、参考文献 春学期と同じ。			

全カリ	歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史 a)		川村 肇
◆講義目的、講義概要 1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する(a)。近世の思想についての概略を理解する(b)。 3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。日本語を母語としない学生は、少なくとも「 <u>上級日本語Ⅱ</u> 」の単位を取得していること。かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。		◆授業計画 1 講義の進め方の説明 2 思想史の考え方について(丸山眞男を手掛かりに) 3 思想と経済的社会構成体について 4 日本の近代化について(竹内好を手掛かりに) 5 ヨーロッパから見た日本の伝統(加藤周一を手掛かりに) / レポート(日本の近代化について) 6 古代の思想(古事記の世界 / 仏教の伝来) 7 古代の思想(平安仏教) 8 中世の思想(鎌倉仏教1) 9 中世の思想(鎌倉仏教2) 10 中世から近世へ(キリスト教の伝来) 11 歴史意識の「古層」について(丸山眞男を読む) 12 歴史意識の「古層」について(子安宣邦を読む)	
◆ 評価方法 最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。			
◆テキスト、参考文献 配布プリント類による / 参考文献は、適宜紹介する。			

全カリ	歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史 b)	担当者	川村 肇
◆講義目的、講義概要 春学期の「日本思想史 a」を履修していることを条件とする。		◆授業計画 1 儒学について 2 朱子学について 3 近世思想史概観 / 見取り図作成 4 近世の思想(貝原益軒『大疑録』を読む1) 5 近世の思想(貝原益軒『大疑録』を読む2) / 気 の思想についてレポート 6 近世の思想(本居宣長と『古事記』) 7 近世の思想(武士道について1) 8 近世の思想(武士道について2) 9 幕末維新期の思想(水戸学について) 10 幕末維新期の思想(民衆の思想) 11 近世から近代へ 12 近代思想史概観	
◆ 評価方法 最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。			
◆テキスト、参考文献 配布プリント類による / 参考文献は、適宜紹介する。			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ 外共	歴史と文化 (III) (日本事情とコミュニケーション教育) 社会科学特殊講義 B (日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	小山 慎治
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本文化や時事問題について調べ発表する活動を通し、日本社会における諸問題に関する常識的な知識を獲得することが主たる目的である。授業を通して、幅広く問題意識を持ち、積極的に知識を獲得しようとする態度を身に付けることが期待される。</p> <p>授業ではまずコミュニケーション論の枠組みおよび効果的なプレゼンテーションの手法を提示した上で、日本社会に関するテーマの発表を課す。受講者による発表と発表内容に関する質疑応答、発表方法に関するコメントを軸に授業を進める。日本社会に関する問題意識を持つことと同時に、知識を他者と共有するプロセスへの関心も高められるよう配慮していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・発表者および発表テーマ調整 2 コミュニケーションの概念と構成要素 3 情報提供を目的とするプレゼンテーションの手法 4 発表 (1) 言語・非言語コミュニケーション 5 発表 (2) 日本人の生活 6 発表 (3) 外国人と日本社会 7 発表 (4) 外国人と日本社会 8 発表 (5) 個人と社会 9 発表 (6) 社会と性差 10 発表 (7) 高度成長と社会の変化 11 発表 (8) 高度成長と社会の変化 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テキスト：佐々木瑞枝、門倉正美著『日本社会再考 (第2版)』北星堂 1998 年</p> <p>参考文献：水谷修他 (編)『日本事情ハンドブック』大修館 1995 年</p> </div>			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ	歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	担当者	鈴木 隆
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>木の文化に対して石の文化とも言われるように、ヨーロッパでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は建築の歴史を通してヨーロッパの文化を知ることが目的とする。</p> <p>ヨーロッパの建築の歴史は、過去の文化として歴史の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通してより直接的に体験することができる。本講義では、古代から中世もしくはルネサンスまでのヨーロッパの建築の様式を、その意味を考えながら見てゆく。</p> <p>OHPなどを使用する都合もあり、受講生が100名を超える場合は人数を制限することもあります</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 古代ギリシャの建築 2 古代ギリシャの建築 (続) 3 古代ローマの建築 4 古代ローマの建築 (続) 5 初期キリスト教建築 6 中世ロマネスクの建築 7 中世ロマネスクの建築 (続) 8 中世ゴシックの建築 9 中世ゴシックの建築 (続) 10 ルネサンスの建築 11 ルネサンスの建築 (続) 12 まとめ <p>以上の計画には多少の変更があります。</p>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">試験の結果によって評価する。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">テキストは用いない。参考文献は必要に応じて紹介する。</div>			

全カリ	歴史と文化Ⅲ（能楽における中世武士の諸像 a）	担当者	瀬尾 菊次
◆講義目的、講義概要 <p>中世に誕生した「能楽」は、21世紀世界遺産に指定され世界の文化と認められましたが、遺産として遺されたものではなく、舞台芸術として現代に生きております。しかしながらとかく古典芸能と難しく捉えられがちです。この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明し、また他の芸能にどのような影響を与えていったかを考察します。</p> <p>平安時代末期に現れ、悲劇のヒーローとして膾炙されている源義経の、生涯・時代背景を読み解き、その義経を主人公とした能「安宅」を題材にして、作品の鑑賞、さらに能が他の芸能(歌舞伎・映画)にどのように取り入れられドラマ化されたか、ビデオで鑑賞しながら比較します。</p> <p>前期は能楽の知識が主となり、後期は作品鑑賞が中心となるが、単なる能の紹介、作品鑑賞にとどまらず、「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。</p>		◆授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ①能楽の紹介 ②能楽の概説 ③能楽の流れ ④能楽を演じる各役 ⑤能舞台について ⑥能の演目の種類 ⑦夢幻能と現在能 ⑧夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞Ⅰ ⑨夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞Ⅱ ⑩能と現代演劇のかかわり ⑪能の作品と誕生ゆかりの地 ⑫まとめ 	
◆ 評価方法 課題レポート・能楽鑑賞レポート			
◆テキスト、参考文献 関連資料をコピー配布			

全カリ	歴史と文化Ⅲ(能楽における中世武士の諸像 b)	担当者	瀬尾 菊次
◆講義目的、講義概要		◆授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ①源義経の生涯と時代背景Ⅰ ②源義経の生涯と時代背景Ⅱ ③義経の能 ④能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅰ ⑤能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅱ ⑥能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅲ ⑦歌舞伎「勸進帳」の鑑賞Ⅰ ⑧歌舞伎「勸進帳」の鑑賞Ⅱ ⑨黒澤明監督作品における「安宅」 ⑩「安宅」と「勸進帳」の比較Ⅰ ⑪「安宅」と「勸進帳」の比較Ⅱ ⑫まとめ 	
◆ 評価方法 課題レポート・能楽鑑賞レポート			
◆テキスト、参考文献 関連資料をコピー配布			

全カリ 外共	歴史と文化（III）（イタリアの音楽史） 人文科学特殊講義B（イタリア音楽史）	担当者	園田みどり
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>イタリアの音楽史を概観します。なお、オペラについては後期でまとめて扱うので、原則として除外します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>テストによります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 16世紀までのイタリア音楽 2 16世紀の世俗歌曲「マドリガーレ」（その1） 3 16世紀の世俗歌曲「マドリガーレ」（その2） 4 モンテヴェルディとマドリガーレ 5 ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 6 ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 7 ヴィヴァルディとヴェネツィア 8 パガニーニとロマン派の音楽 9 ヴェルディとイタリア国家統一運動 10 プッチーニとオリエンタリズム 11 プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に 12 イタリアの映画音楽 	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ 外共	歴史と文化（III）（イタリアの声楽曲） 人文科学特殊講義B（イタリアの声楽曲）	担当者	園田みどり
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2 オペラ誕生：初期の試み 3 バロック・オペラの台本 4 バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 5 バロック・オペラと劇場 6 ロッシーニの世界 7 ロマン派のイタリア・オペラ：ベッリーニとドニゼッティ 8 ロマン派のイタリア・オペラ：ヴェルディ登場 9 イタリア・オペラの形式：独唱と二重唱の場合 10 イタリア・オペラの形式：フィナーレの場合 11 新しい形式：ヴェルディ晩年のオペラ 12 ヴェリズモ・オペラとプッチーニ 	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テストによります。</p> </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テキストは特に選定しません。参考文献については、授業中に指示します。</p> </div>			

全カリ	歴史と文化（Ⅲ）（おもしろまじめな芝居のミカタ a）	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品も取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品（邦題）：</p> <p>『オセロ』、『トップ・ガールズ』、『ドリー・ウェストの台所』、『アンネの日記』、『エクウス（馬）』、『すべて世は事もなし』、『ミュージカル・ヘドウィック』、『パレードを待ちながら』、『ミュージカル・森の中に』、『ミュージカル・ミス・サイゴン』、『イニシュマン島のびっこ』、『請願』、『マツモト・シスターズ』、『ハウイー・ザ・ルーキー』、『パパ、アイ・ラヴ・ユー』、『コミック・ポテンシャル』、『コリオレイナス』、歌舞伎など。</p>	
<p>観劇レポート（800字）2編で76%、授業で24%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

全カリ	歴史と文化（Ⅲ）（おもしろまじめな芝居のミカタ b）	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品も取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品（邦題）：</p> <p>『テラ・ノヴァ』、『スポイルズ・オブ・ウォー』、『怒りを込めて振り返れ』、『バッファローの月』、『ルーム・サービス』、『アザー・ピープル』、『クリスマス・キャロル』、『丘の上のイエッペ』、その他、シェイクスピア作品や歌舞伎など。</p>	
<p>観劇レポート（800字）2編で76%、授業で24%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

全カリ	歴史と文化(Ⅲ)(イギリスの詩の楽しみ方)	担当者	園部 明彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英詩の楽しさを味わってもらうことを主眼とする。詩を味わうには、ひとの解説を受動的に聞くだけでなく、自ら積極的に動くことが要求される。そこで、毎回、受講者全員に与えられた何篇かの作品についてその場でレポートを作成してもらい、翌週、優れたものを紹介する。毎時間この作業を通して、各自、詩をどのように読むかを会得してもらえれば幸いである。毎回、授業の始めにその日の狙いを説明するので、遅刻は絶対に認めない。第一回の授業の際に詩について解説するので、この日は必ず出席して欲しい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>成績は、毎回のレポートを10点満点とし、12回分の120点の6掛け、72点が合格のボーダーとなる。そのため、欠席は非常に不利になる</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはプリントを使用。 参考文献 <i>The Tenth Muse</i> (Harvard), <i>Roots of Lyric</i> (Princeton), <i>Language as Symbolic Action</i> (California)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. T. S. Eliot 2. W. B. Yeats 3. W. Shakespeare 4. W. Wordsworth 5. A. E. Houseman 6. J. Joyce 7. E. B. Browning 8. C. Rossetti 9. E. Brontë 10. E.E. Cummings 11. E. Dickinson 12. D. Thomas <p>上記の詩人は飽くまで予定であって、受講者の反応を見ながら、多少の入れ替え、変更があり得る。</p>	

全カリ	歴史と文化(Ⅲ)(アメリカの詩の楽しみ方)	担当者	原 成吉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 アメリカ先住民の口承詩(うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート(ワープロで4,000字程度の作品論)で評価します。欠席が授業回数の1/4を越えた場合は、単位を認定しません</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはプリントを使用。 参考文献 Jay Parini ed., <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia UP, 1993) 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫) D・W・ライト編『アメリカ現代詩101人集』(思潮社)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アメリカの大地の声—Native American の歌を聴く 2 Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3 デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4 ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson の世界 5 モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋の詩学 (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” —詩に描かれた現代人の苦悩 7 (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8 (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9 ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” を読む 10 (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface”を読む 11 (3) Sylvia Plath の “Daddy” を読む 12 (4) Robert Creeley の “The Whip”を読む 	

全カリ 外共	歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争—その歴史と遺産 a) 人文科学特殊講義A (日本近代史)(通年)	担当者	中村 粂																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義概要 歴史教科書や靖國神社参拝で事毎に内政干渉してくる国があるが、国が違えば歴史観が異なるのは当然で、それを不快とするのは自らの独善偏狭を告白するに等しい。これに対して我国がひたすら弁解・謝罪に終始してきたのは独自の歴史観なきが故である。本講は日本人としての立場と論理で近代日本の対外行動、特に大東亜戦争の深い歴史的背景と諸原因並びにその歴史的意味、更にはそれがアジアに残した正負の遺産について講述する。学生諸君の歴史観形成に寄与する所あらば幸いである。但し一部の外国人学生にとっては相当聞きづらい講義であることを予め承知されたい。a(前期)は日清・日露戦争から満州事変までを扱う。 受講者への希望 始業時には大きな声で挨拶すること。真剣に授業に臨み、授業中の私語飲食等厳禁。茶髪・金髪は感心しない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平素の勤怠、受講態度、レポート、定期試験。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>中村 粂『大東亜戦争への道』(展転社)及び『「韓国併合」とは何だったのか』(日本政策研究センター)</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>序論 歴史と戦争 平和の条件 東京裁判の錯誤</td></tr> <tr><td>2</td><td>日清戦争 近代 vs 古代遺制 三国干渉の愚策</td></tr> <tr><td>3</td><td>列強の支那蚕食 義和団事変 江東六十四屯事件</td></tr> <tr><td>4</td><td>露国の満洲占領 日英同盟 対露交渉</td></tr> <tr><td>5</td><td>日露戦争 日本の武士道 ポーツマス条約</td></tr> <tr><td>6</td><td>日本の勝利に歓呼したアジア 「支那」「中国」の呼称について</td></tr> <tr><td>7</td><td>日米抗争の源流 満洲の鉄道争覇戦</td></tr> <tr><td>8</td><td>韓国 保護から併合へ 併合正当不当論</td></tr> <tr><td>9</td><td>第一次大戦と日本 「二十一ヶ条」問題 シベリア出兵 尼港事件</td></tr> <tr><td>10</td><td>ワシントン会議 九国条約 日英同盟廃棄</td></tr> <tr><td>11</td><td>我国の国際協調努力</td></tr> <tr><td>12</td><td>国際協調の幻想 排日移民法 支那の赤化と革命外交</td></tr> </table>		1	序論 歴史と戦争 平和の条件 東京裁判の錯誤	2	日清戦争 近代 vs 古代遺制 三国干渉の愚策	3	列強の支那蚕食 義和団事変 江東六十四屯事件	4	露国の満洲占領 日英同盟 対露交渉	5	日露戦争 日本の武士道 ポーツマス条約	6	日本の勝利に歓呼したアジア 「支那」「中国」の呼称について	7	日米抗争の源流 満洲の鉄道争覇戦	8	韓国 保護から併合へ 併合正当不当論	9	第一次大戦と日本 「二十一ヶ条」問題 シベリア出兵 尼港事件	10	ワシントン会議 九国条約 日英同盟廃棄	11	我国の国際協調努力	12	国際協調の幻想 排日移民法 支那の赤化と革命外交
1	序論 歴史と戦争 平和の条件 東京裁判の錯誤																										
2	日清戦争 近代 vs 古代遺制 三国干渉の愚策																										
3	列強の支那蚕食 義和団事変 江東六十四屯事件																										
4	露国の満洲占領 日英同盟 対露交渉																										
5	日露戦争 日本の武士道 ポーツマス条約																										
6	日本の勝利に歓呼したアジア 「支那」「中国」の呼称について																										
7	日米抗争の源流 満洲の鉄道争覇戦																										
8	韓国 保護から併合へ 併合正当不当論																										
9	第一次大戦と日本 「二十一ヶ条」問題 シベリア出兵 尼港事件																										
10	ワシントン会議 九国条約 日英同盟廃棄																										
11	我国の国際協調努力																										
12	国際協調の幻想 排日移民法 支那の赤化と革命外交																										

全カリ 外共	歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争—その歴史と遺産 b) 人文科学特殊講義A(日本近代史)(通年)	担当者	中村 粂																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義概要 本講義はa(前期)を履修(単位習得)した者にもみ受講を認める。講義の目的と趣旨はaを参照のこと。 今期は前期に引続いて、満洲建国から蘆溝橋事件、支那事変を経て大東亜戦争に至る歴史の歩みを辿りつつ、我国の和平努力が不調に終わった原因を考究し、戦争と平和の分岐点の所在を明らかにしたい。時間が許せば南京事件、慰安婦問題、朝鮮統治にも触れ、大東亜戦争を含む近代日本の対外政策がアジアに残した遺産について考えてゆく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期に同じ。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期に同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>満洲事変の背景と原因 鉄道攻戦 土地商租権問題</td></tr> <tr><td>2</td><td>満洲建国 満蒙の独立志向 東陵破壊陵辱事件</td></tr> <tr><td>3</td><td>満洲は誰のものか(歴史的に。近代中国指導者の意識に於て)</td></tr> <tr><td>4</td><td>熱河作戦 塘沽停戦協定 動揺する北支 冀東・冀察両政権</td></tr> <tr><td>5</td><td>コミンテルンと中国共産党の謀略 西安事件の真相</td></tr> <tr><td>6</td><td>蘆溝橋事件 犯人は誰か 拡大を策した者 我が不拡大方針 歴史の歪曲</td></tr> <tr><td>7</td><td>通州事件 天津事件 中国側資料の語るもの</td></tr> <tr><td>8</td><td>日本の和平努力 大山海軍中尉惨殺事件 トラウトマン工作 防共戦としての支那事変</td></tr> <tr><td>9</td><td>「国民政府を相手とせず」 汪精衛 日米関係の悪化</td></tr> <tr><td>10</td><td>日米交渉 譲歩に次ぐ譲歩 ハルノート 真珠湾は奇襲か</td></tr> <tr><td>11</td><td>大東亜戦争 東南アジアの独立 大東亜会議 敗因を衝く</td></tr> <tr><td>12</td><td>朝鮮統治の功罪 アジアに残した正負の遺産</td></tr> </table>		1	満洲事変の背景と原因 鉄道攻戦 土地商租権問題	2	満洲建国 満蒙の独立志向 東陵破壊陵辱事件	3	満洲は誰のものか(歴史的に。近代中国指導者の意識に於て)	4	熱河作戦 塘沽停戦協定 動揺する北支 冀東・冀察両政権	5	コミンテルンと中国共産党の謀略 西安事件の真相	6	蘆溝橋事件 犯人は誰か 拡大を策した者 我が不拡大方針 歴史の歪曲	7	通州事件 天津事件 中国側資料の語るもの	8	日本の和平努力 大山海軍中尉惨殺事件 トラウトマン工作 防共戦としての支那事変	9	「国民政府を相手とせず」 汪精衛 日米関係の悪化	10	日米交渉 譲歩に次ぐ譲歩 ハルノート 真珠湾は奇襲か	11	大東亜戦争 東南アジアの独立 大東亜会議 敗因を衝く	12	朝鮮統治の功罪 アジアに残した正負の遺産
1	満洲事変の背景と原因 鉄道攻戦 土地商租権問題																										
2	満洲建国 満蒙の独立志向 東陵破壊陵辱事件																										
3	満洲は誰のものか(歴史的に。近代中国指導者の意識に於て)																										
4	熱河作戦 塘沽停戦協定 動揺する北支 冀東・冀察両政権																										
5	コミンテルンと中国共産党の謀略 西安事件の真相																										
6	蘆溝橋事件 犯人は誰か 拡大を策した者 我が不拡大方針 歴史の歪曲																										
7	通州事件 天津事件 中国側資料の語るもの																										
8	日本の和平努力 大山海軍中尉惨殺事件 トラウトマン工作 防共戦としての支那事変																										
9	「国民政府を相手とせず」 汪精衛 日米関係の悪化																										
10	日米交渉 譲歩に次ぐ譲歩 ハルノート 真珠湾は奇襲か																										
11	大東亜戦争 東南アジアの独立 大東亜会議 敗因を衝く																										
12	朝鮮統治の功罪 アジアに残した正負の遺産																										

全カリ 外共	歴史と文化(III)(西洋美術史 a) 人文科学特殊講義 A(西洋美術史)(通年)	担当者	前川久美子
◆講義目的、講義概要 <p>ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、それを中心にさまざまな美術の見方を学びながら、中世から 19 世紀までの西洋美術史を概観します。</p> <p>授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。</p> <p>講義概要や勉強の仕方などは、第一回の授業時間(イントロダクション)にお話します。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 ルーヴルの歴史と現在 3 ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』 4 ヴァン・エイク『ロランの聖母』 5 ダ・ヴィンチ『モナリザ』 6 プッサン『四季図』 7 ルーベンス『メディチ・サイクル』 8 ボージャン『チェスチェス盤のある静物』 9 ワトー『シテール島への船出』 10 アングル『ホメロス礼賛』 11 ドラクロワ『民衆を率いる自由』 12 (予備) 	
◆ 評価方法 <p>テストによる。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>参考文献は授業中に指示します。</p>			

全カリ 外共	歴史と文化(III)(西洋美術史 b) 人文科学特殊講義 A(西洋美術史)(通年)	担当者	前川久美子
◆講義目的、講義概要 <p>15 世紀のイタリアとフランドルの絵画について学びながら、さまざまな美術史上の問題について考えます。</p> <p>授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係付けて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。</p> <p>講義概要や勉強の仕方などは、第一回の授業時間(イントロダクション)にお話します。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 15 世紀の美術 3 15 世紀のフィレンツェ美術 4 マザッチオ作サンタ・マリア・デル・カルミ聖堂ブランカッチ礼拝堂壁画 5 遠近法 6 パトロンと芸術家 7 パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8 15 世紀のフランドル美術 9 ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10 偽装のシンボリズム 11 絵画に包含された鑑賞者 12 (予備) 	
◆ 評価方法 <p>テストによる。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>参考文献は授業中に指示します。</p>			

全カリ 外共	歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラムー公と私) 社会科学特殊講義 A(異文化との触れ合い)(通年)	担当者	水口 章
◆講義目的、講義概要 本講義では、グローバル化が進む国際社会において、13億の人口を有するイスラム世界が、どのような文化変容を迎えているのかを、歴史的過程を踏まえて考える。そのことで、各地域の伝統文化と国際秩序、特に「公」と「私」のあり方について考える一助としたい。		◆授業計画 1 異文化接触と文化変容 2 イスラム社会の誕生 3 イスラム社会の発展とギリシア思想 4 イスラム世界とキリスト教世界 5 ムスリムの西欧についての知識 6 西洋の衝撃と中東 7 イスラムと世俗主義 8 イスラム主義の台頭 9 イスラムにおける平等と不平等 10 中国思想における公と私 11 西欧思想における公と私 12 イスラム思想における公と私	
◆評価方法 出席とレポートを4：6の割合で評価する。			
◆テキスト、参考文献 参考文献：『公と私の思想史』東京大学出版会、『イスラム世界はなぜ没落したか?』日本評論社			

全カリ 外共	歴史と文化(Ⅲ) (移民・交易に見る文化変容) 社会科学特殊講義 A(異文化との触れ合い)(通年)	担当者	水口 章
◆講義目的、講義概要 本講義では、交易や民族移動、移民等の人や物の移動を通して生じる異文化接触によって、相互にどのような文化変容が起き、「国民国家」内でどのような問題が内在化されたかを考えたい。		◆授業計画 1 古代交易 2 紀元前 200～紀元 1000 年の交易 3 1000～1500 年の交易 4 アジア海上交易と西欧諸国 5 スパイスロード 6 仏像の道 7 巡礼の道 8 歴史に見る民族移動 9 アフリカの移民 10 ラテンアメリカの移民 11 アメリカの移民 12 中国の移民	
◆評価方法 出席とレポートを4：6の割合で評価する。			
◆テキスト、参考文献 参考文献：『異文化間交易の世界史』NTT 出版、『移民の運命』藤原書店			

全カリ 外共	現代社会 (III) (東アジア国際関係の史的展開) 国際関係論 (通年)	担当者	阿部 純一
-----------	--	-----	-------

◆講義目的、講義概要

現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。

講義では、第2次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。

筆記試験 (論述)

◆テキスト、参考文献

なし

◆授業計画

- 1 東アジア国際関係の特質
- 2 冷戦の起源と東アジア
- 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦
- 4 中ソ対立とベトナム戦争
- 5 米中和解の衝撃
- 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理
- 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代
- 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊
- 9 ポスト冷戦の世界
- 10 東アジア地域の台頭
- 11 アメリカ単独覇権の時代
- 12 (予備日)

全カリ 外共	現代社会 (III) (東アジア国際関係の現状と展望) 国際関係論 (通年)	担当者	阿部 純一
-----------	---	-----	-------

◆講義目的、講義概要

現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。

冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中韓という大国の利害が交錯し、かつ ASEAN という地域協力体や APEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。

筆記試験 (論述)

◆テキスト、参考文献

なし

◆授業計画

- 1 21世紀の超大国・中国：建国50年の紆余曲折
- 2 21世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷
- 3 21世紀の超大国・中国：将来への模索
- 4 台湾：蒋介石・蔣経国の権威主義時代
- 5 台湾：李登輝の民主化路線
- 6 台湾：陳水扁と米中台関係
- 7 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展
- 8 韓国：強権政治から民主体制への転換
- 9 北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際関係
- 10 東南アジア世界の統合：拡大 ASEAN と FTA
- 11 総括：現代東アジア国際関係の課題
- 12 (予備日)

全カリ 外共	現代社会（Ⅲ）（英国人は階級問題抜きで語れない） 社会科学特殊講義A（現代英米社会研究）	担当者	有吉 広介
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英国人の生活は常に階級がらみで語られる。現代英国人の社会生活および文化を、階級と関連させて社会学的な分析を通して理解する。</p> <p>世界の工場といわれた近代英国の資本主義社会を築いた歴史的主体は、そのブルジョア階級であれ、ジェントルマン階級と結びついた都市の金融資本家であれ、階級的性格を帯びていた。かれらは、この国の伝統と革新を独特な方法で調和させて、近代英国社会を作り出した。またこの国のダイナミックな発展は、それらの階級と労働階級との対立関係において起こった。19世紀末における経営者革命や官僚組織の発達に起源を置く経営者層、中間管理者層、専門・技術者層および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級との関係で、は現代社会の英国人の生活と文化とを読み取ることが主眼とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末に求めるレポートの評価による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、講義の要点に関するプリントを渡す。参考文献は適時紹介</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業革命前の階級関係 2. 産業革命後の階級関係 3. ジェントルマンの勤め 4. 19世紀末から20世紀にかけての階級関係 5. 20世紀におけるミドルクラスの日常生活 6. 5の補足および20世紀の上流階級 7. ホワイトカラー階級の発達 8. 下層ホワイトカラー 9. 管理者および専門職階層：サービス階級とプチ・ブルジョア階級 10. 労働者階級 11. 英国の教育制度と階級再生産 12. 階級と家庭における子どもの教育 	

全カリ 外共	現代社会（Ⅲ）（少子・高齢社会を生きる） 社会科学特殊講義A（現代英米社会研究）（通年）	担当者	有吉 広介
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本では人口の少子化と高齢化が急激に進んでいる。21世紀の半ばには、総人口が今より約2割減少するとともに、国民の3人に1人が65歳以上になる。今後人口減少と少子高齢化が同時に進むという、今までに経験したことのない時代を迎えるが、これは、個人や家族の生活のありかたから、わが国の経済・政治の社会まで深刻な影響をおよぼす。世の中がどのように変化するか、そこに一体どんな問題が起こるのかを、考えたい。</p> <p>少子・高齢社会が起こる原因をまず明らかにして、次に少子化の社会的・経済的影響を調べ、ついで少子化を起こす要因にどのように対処すればいいのかを簡潔にとらえる。その後、現代の家族の形態・機能および家族観の変化を概観し、そこから現代の男女あるいは夫婦の関係を、そして家庭生活の現状を考える。さらに、少子化の問題の解決には地域や職場の環境の整備が必要であることにふれる。次に、高齢者が現在暮らしている家庭の特徴、老親の扶養問題、高齢者の介護問題、定年のあるサラリーマンにとっての高齢期の生活、高齢者にとっての社会参加の意義を論じる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学年末にレポートを書いてもらい、これを評価する</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、講義の要点および資料に関するプリントを配布する。参考文献は適時紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化社会の到来 2. 少子化への対応 3. 家族集団および家族観の変化 4. 結婚および夫婦生活の現実 5. 地域生活の変化 6. 職場および企業の問題 7. 大衆長寿時代 8. 老親の扶養 9. 高齢者の介護 10. サラリーマン老人の生活 11. 高齢者と社会参加 12. まとめ 	

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a) 社会科学特殊講義A(社会科学概論)(通年)	担当者	堅田 剛
-----------	--	-----	------

◆講義目的、講義概要

社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。要するに、この世のあらゆる出来事が「社会科学」の対象となるのです。法や政治や経済を完成した制度としてでなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましよう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。

春学期は、テキストとして小浜逸郎氏の『人はなぜ働かなくてはならないのか』を用います。同氏は、家族論、学校論、思想、哲学などを幅広く論じている気鋭の社会批評家です。本書でも「死」「労働」「愛」「権力」をキーワードに、現代社会の多様な問題が扱われています。

講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの考え方・生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。覚えるのではなく考える授業です。

◆ 評価方法

中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

◆テキスト、参考文献

小浜逸郎『人はなぜ働かなくてはならないのか——新しい生の哲学のために——』洋泉社新書y、2002年

◆授業計画

- 1 社会科学とは何か
- 2 思想や倫理は何のためにあるのか(人間身体のエロスの領域と社会的領域、倫理と道德の関係、etc)
- 3 人間にとって生死とは何か(人間は「不幸の意識」を逃れられない、自然科学的生死観の欠陥、etc)
- 4 「本当の自分」なんてあるのか(抽象的な「自分探し」はむなし、人間は「生まれながらに自由な個人」などではない、etc)
- 5 人はなぜ働かなくてはならないのか(そもそも「食うため」とはどういうことか、「好きな仕事に就く=人生の充実」という答えでは十分ではない、etc)
- 6 なぜ学校に通う必要があるのか(豊かな社会が招いた学校教育の理念と現実のギャップ、一律平等に高度な学習内容を学ばせることの無意味さ、etc)
- 7 なぜ人は恋をするのか(恋愛は結婚に結びつかない?、性欲は果たして本能なのか、etc)
- 8 なぜ人は結婚するのか(結婚は性愛の排他性を社会的に承認してもらう制度である、結婚制度・家族制度は永続し得るのか、etc)
- 9 なぜ「普通」に生きることはつらいのか(経済不況は不幸感情の決定要因か、近代政治と近代科学では個人の感情をフォローしきれない、etc)
- 10 国家はなぜ必要か(戦後日本人にはなぜ国家意識が希薄なのか、国家は理性と情緒の複合体である、etc)
- 11 戦争は悪か(世界市民主義者たちの粗雑な反体制意識、「侵略戦争」と「自衛のための戦争」の区別はできるか、etc)
- 12 予備

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b) 社会科学特殊講義A(社会科学概論)(通年)	担当者	堅田 剛
-----------	--	-----	------

◆講義目的、講義概要

社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。要するに、この世のあらゆる出来事が「社会科学」の対象となるのです。法や政治や経済を完成した制度としてでなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましよう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。

秋学期は、テキストとして橋爪大三郎氏の『人間にとって法とは何か』を用います。同書の帯には「ロースクール誕生に先駆け、法感覚を磨こう!!」とありますが、同氏は社会学者であっても法学者ではありませんから、ここにはある種の毒が隠されているとみるべきです。

講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの考え方・生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。覚えるのではなく考える授業です。

◆ 評価方法

中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

◆テキスト、参考文献

橋爪大三郎『人間にとって法とは何か』PHP新書、2003年

◆授業計画

- 1 法とは何か(法とは強制を伴ったルールである、法の強制説 vs 法のルール説、法の理性説)
- 2 ハートの法理論(H・L・A・ハート、言語ゲームとしての法、審判のいるゲーム)
- 3 近代法の原則とは何か(罪刑法定主義、契約自由の原則、憲法)
- 4 ユダヤ教と法(神との契約、厳密ルール主義、律法と註釈の体系)
- 5 キリスト教と法(個人救済の愛の律法、世俗法と教会法、政教分離と近代国家)
- 6 イスラム教とイスラム法(『クルアーン』と法源、イスラム法共同体、イスラム主義・保守派と改革派)
- 7 仏教と法(サンガのルール、中国仏教と法、日本仏教と法)
- 8 儒教と法(徳治主義と法治主義、官僚制と律令制)
- 9 日本社会と法(律令法から中世法・近世法へ、一揆と村八分、法の支配と空気の支配)
- 10 明治国家と法(幕藩法と近代法、明治憲法と法、法をめぐる日本人の誤解)
- 11 民主主義とリパタリアニズム(リパタリアニズムとは何か、自由の根拠——身体と財産、公共性とは何か)
- 12 国際社会と法(国際社会とは何か、国際法は法なのか、日本をとりまく国際法の問題)

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(広告論 a) 社会科学特殊講義 A (広告論) (通年)	担当者	川又 祥平
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。(ここでは事業者向け広告をひとまず別において考える)</p> <p>この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション～広告を学ぶ意義 2 マーケティングの新しい潮流と広告 3 マーケティング・プランニングにおける意思決定と、そのためのデータベース活用 4 広告の発展の歴史、広告の概念の変化、日本の広告費 5 広告の社会的・経済的機能、広告の種類 6 広告会社の役割と広告組織 広告業の起源とあゆみ、広告ビジネスの企業群の変化 7 広告主と広告会社のビジネスの実際 8 広告管理のしくみ、広告目標と予算 9 広告のプランニング～ターゲティングとポジショニング 「広告で伝えるべきこと」をどう決めていくか。 10 消費者インサイトの発見とマーケティング調査の歴史と展望 11 広告作品の制作～良いクリエイティブとは、表現アイデアの発見、時代の人気広告事例 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、八巻俊雄・梶山皓著、読本シリーズ「広告読本」(第2版)、東洋経済新報社 1995年</p>	

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(広告論 b) 社会科学特殊講義 A (広告論) (通年)	担当者	川又 祥平
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。</p> <p>この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報環境の変化とメディア・オーディエンスの捉え方 2 消費者の購買行動と意志決定プロセス、その中で の広告の効果 3 マス媒体の特徴とメディアプランニング 4 SP、インタラクティブ・メディアの特徴と 媒体計画 5 イベント、コンパニオンが変える広告コミュニケーション 6 広告表現の評価、広告効果の把握 7 コミュニケーション過程と広告効果①～理論編 8 コミュニケーション過程と広告キャンペーン 効果②～事例編 新製品広告キャンペーンのケース 既存製品の販売促進キャンペーンのケース 9 ブランド構築の重要性と広告の役割、 ブランド・コミュニケーションの方法論 10 ブランド・コミュニケーション～事例 11 グローバル広告の可能性 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、八巻俊雄・梶山皓著、読本シリーズ「広告読本」(第2版)、東洋経済新報社 1995年</p>	

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(教育法 a) 教育法(通年)	担当者	小泉広子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「教育法」とは、教育ないし教育制度に固有な法 ないし法的なしくみをいい、「教育法学」とは、教 育にとって望ましいそうした法のありかたを研究 する学問である。講義では、主に 1980 年代以降の 「子どもの人権裁判」を素材に、現代教育の問題 点を教育法的に分析し、教育法の体系的理解を目 標とする。</p> <p>前期は、現在の教育法の中心的課題となってい る「子どもの人権裁判」を体罰裁判、いじめ裁判、 校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分 類して、論点と課題を検討する。</p> <p>後期は、教育法形成に重要な影響を及ぼした基 本判例を素材に、教育法の基本概念である教育人 権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法とは何か 教育法の機能的三種別 2. 体罰って何? 水戸五中事件 3. 障害児に体罰は許されるか 障害児体罰事件 4. 児童福祉施設における体罰 恩籠園体罰事件 5. いじめについて学校はどのような責任を負うか? いわきいじめ自殺事件 中野富士見中事件 6. 現代型いじめの特徴 津久井いじめ自殺事件 7. 丸刈り校則裁判 制服校則裁判 8. バイク3ない校則裁判 パーマ禁止校則裁判 9. 学校教育において生徒の信教の自由はどこまで認 められるのか エホバの証人生徒退学事件 10. 障害を理由とした高校入学拒否は許されるか 市 立尼崎高校事件 11. いじめで子どもを亡くした親は学校に情報を求め ることができるか 町田いじめ作文開示請求訴訟 12. まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>前期 レポート (不提出の場合は後期受験不可) 後期 試験 なお講義中に小テストも課す</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト『教育小六法』学陽書房 参考文献『ホーンブック教育法』北樹出版 1995 年</p>			

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(教育法 b) 教育法(通年)	担当者	小泉広子
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの学習権(1) 能力別学級編成は子どもの学 習権に適うものか? 2. 子どもの学習権(2) 3. 親の教育権(1) 親に公立小・中学校選択権はある か 4. 親の教育権(2) 日曜日訴訟 5. 教師の教育権(1) 伝習館事件 6. 教師の教育権(2) 担任はずし 7. 教育人権と国家(1) 最高裁学テ裁判 8. 教育人権と国家(2) 教科書裁判 9. 教育人権と国家(3) 日の丸・君が代裁判 10. 子どもの権利条約(1) 考え方と審査のしくみ 11. 子どもの権利条約(2) 12. まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

全カリ 外共	現代社会（Ⅲ）（歴史の中のメディア） 社会科学特殊講義A（マスコミュニケーション論）（通年）	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マスメディアは現代のわれわれの社会と人々の意識を動かす、きわめて大きな要因である。政治や国際関係、企業活動から芸術や娯楽にいたるまで、その影響のメカニズムを解き明かすために、春学期の授業ではメディアの歴史的な成り立ちと発展のプロセスを、活字や映像の資料を通して考察する。</p> <p>活字から映像、通信、テレビ、ネットへと技術革新に伴ってメディアの伝達手段が多様化するとともに、その経営も巨大な複合体となって、社会への影響力は20世紀になってから飛躍的に増大した。内外の政策や外交、戦争、ビジネスなどを動かす世論の形成と、社会の意思決定に及ぼす固有の役割がどのように形成されてきたのか。</p> <p>対話など対面的コミュニケーションにはじまるメディアの歴史を溯ってその発展の過程をたどりながら、われわれがメディアの単なる「受け手」としてだけでなく、主体的にこの社会的機能にどのようにかかわり、どう動かして行くべきなのかを、この講義を通じて考えてゆきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 活字印刷という革命 3 ピュリツァーと新聞 4 ロイターの軌跡 5 視覚の20世紀 6 複製技術とアウラ 7 プロパガンダとメディア 8 戦争報道と経済情報 9 テレポリティックス 10 メガメディアの時代 11 コンテンツの支配と報道 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況やレポートの実績を加味して評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。</p>			

全カリ 外共	現代社会（Ⅲ）（メディアと現代社会） 社会科学特殊講義A（マスコミュニケーション論）（通年）	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マスメディアとわれわれを取り巻く環境は、その巨大化とビジネス化によってこれまで社会のなかで機能してきた「公共圏」というよりどころを変質させた。これに加えてインターネットなど、技術革新によって新たに登場したメディアの追い上げで、その役割は大きな曲がり角にある。</p> <p>メガメディアと呼ばれる巨大化やグローバル化とエンターテインメントの優位や、大衆迎合主義の広がりによる世論指導性の衰退といった現象は言論性やジャーナリズムとしての機能の相対的低下を招く一方、メディアが社会によって立つ倫理的基盤を揺さぶっている。</p> <p>秋学期の授業では民主主義社会を支えてきたマスメディアが直面するこうした現状を踏まえ、政治権力や国際政治への関与の変化や「知る権利」と人権の問題など、メディアを介した「国家」や「公」と「私」の関係を考えたい。あわせて日常やりとりされる政治や経済、生活や娯楽などの情報がどのような構造のもとで生まれ、社会に働きかけてゆくのか。そのプロセスを検証する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「公共圏」とメディア 3 通信と放送の融合 4 「9/11」「イラク戦争」とメディア 5 知的財産権とメディア 6 政治の衰弱とメディア 7 企業報道とメディア 8 メディアの日本的構造 9 客観報道とセンセーショナルリズム 10 ハリウッドの支配 11 「知る権利」と人権 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況やレポートの実績を加えて判断する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>原寿雄『ジャーナリズムの思想』を参考文献とし、他は随時紹介する。</p>			

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(中国を考える a) 社会科学特殊講義 A(現代中国論)(通年)	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>中国の経済発展には目を見張るものがある。また中国は国際政治、軍事面においても世界の大国の仲間入りをしようとしている。また 1972 年の国交正常化以来、日中関係は気密化を深め、とくに経済面で中国は日本にとって最大の貿易相手国、大規模援助国となった。しかし冷戦後の国際情勢の変動の中で両国の政治、軍事関係はなお安定せず、相互に新たな関係が摸索されている。</p> <p>本科目は我々の日常生活の中でも次第に比重を高めつつある現代中国への理解を深めようとするものであり、とくにその歴史的な位置付けを試みるものである。最後の王朝が崩壊して約 100 年、中華人民共和国が成立して約 50 年、そして現在の近代化路線への転換がおこなわれてから約 20 年一激動を続ける中国、とくに日本とのかかわりについて考え、また中国が直面している諸矛盾・課題について見当する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中華帝国 大一統世界とその崩壊 2 帝国の危機 ウェスタン・イマパクト 3 救国への試行錯誤 日本の登場 4 革命未だならず 内戦と侵略 5 惨勝と社会主義へ 冷戦期の中国 6 反右派闘争と独裁化への道 7 大躍進・餓死事件 ユートピアの悲劇 8 緊張する中ソ関係と社会主義圏の崩壊 9 文化大革命 毛沢東の幻想 10 文化大革命 流血の悲劇 11 日中国交正常化と国際関係 12 前期まとめ 中国基礎データ 	
◆ 評価方法			
出席点、期間中小リポート、期末試験			
◆テキスト、参考文献			
<p>【教材】 岩波新書『中国近現代史』 岩波新書『中華人民共和国史』</p> <p>【参考図書】 岩波書店『現代中国事典』 岩波書店『原典中国現代史』</p>			

全カリ 外共	現代社会(Ⅲ)(中国を考える b) 社会科学特殊講義 A(現代中国論)(通年)	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 鄧小平登場 3中全会 四つの現代化 2 農業生産責任制 経済特区 人民公社解体 4 改革迷走 天安門事件 南巡講話 5 白猫黒猫 先富論の功罪 向銭看 6 課題 1 人口問題—民以食为天— 7 課題 2 環境問題—環境を犠牲に— 8 課題 3 三農問題 失業問題 9 課題 4 政治体制改革 10 課題 5 日中関係 隣のドラゴン？ 11 課題 6 21世紀の中国 LA化問題 12 前後期まとめ 	
◆ 評価方法			
春学期と同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ			

全カリ	現代社会（Ⅲ）（法学 a）	担当者	中空壽雅
-----	---------------	-----	------

◆講義目的、講義概要

この講義では、現代社会において法がどのような場面でどのように重要な役割を果たしているのかを検討・分析していくことを通じて、法的な処理方法・法的思考方法の特色の理解を目指します。

日頃意識していない生活場面がどのように法と関係しているのか、日常の生活場面で法的思考方法が問題解決にどのように役立っているのかをこの講義を通して理解してもらいたいと考えています。

現代社会（Ⅲ）（法学 b）と併せて受講することが望ましい指定の教科書を利用して、法が人間の誕生から死までのそれぞれのライフステージで、どのように関わっていくかを、トピックとなる出来事を取りあげながら見ていきます。

現代社会（Ⅲ）（法学 a）では、人の誕生から大学に至るまでのライフステージでの法的諸問題を取りあげます

毎回必ず六法を持参して講義に出席すること。

毎回、次の講義で取りあげる項目を指示しますので、教科書の該当ページに目を通して講義に出席すること。

受動的に講義を聴くのではなく、自分であったらどのように解決するかを考えて下さい

◆ 評価方法

定期テストとレポートによって評価します。

◆テキスト、参考文献

テキスト：竜崎喜助『生の法律学』尚学社
参考文献は、講義で適宜指示します。

◆授業計画

1. 法とは何か、法的紛争処理の特色はどのようなものか。
2. 生殖医療と代理母をめぐる問題
3. 胎児の生まれ出る意思－胎児は人か
4. 幼児の地位－児童虐待防止法
5. 小学生の地位－義務教育費と事故
6. 中学生の苦悩－ダイヤルQ2 と校内暴力
7. いじめをめぐる法的問題
8. 校則をめぐる攻防－自己決定と規則
9. 少年犯罪－少年法の改正
10. 少年犯罪－更正の可能性
11. 大学生の自由と責任－一気のみと単位
12. 採用内定の取り消し

全カリ	現代社会（Ⅲ）（法学 b）	担当者	中空壽雅
-----	---------------	-----	------

◆講義目的、講義概要

この講義では、現代社会において法がどのような場面でどのように重要な役割を果たしているのかを検討・分析していくことを通じて、法的な処理方法・法的思考方法の特色の理解を目指します。

日頃意識していない生活場面がどのように法と関係しているのか、日常の生活場面で法的思考方法が問題解決にどのように役立っているのかをこの講義を通して理解してもらいたいと考えています。

指定の教科書を利用して、法が人間の誕生から死までのそれぞれのライフステージで、どのように関わっていくかを、トピックとなる出来事を取りあげながら見ていきます。

現代社会（Ⅲ）（法学 a）では、人の誕生から大学に至るまでのライフステージでの法的諸問題を取りあげます。

毎回必ず六法を持参して講義に出席すること。

毎回、次の講義で取りあげる項目を指示しますので、教科書の該当ページに目を通して講義に出席すること。

受動的に講義を聴くのではなく、自分であったらどのように解決するかを考えて下さい。

◆ 評価方法

定期テストとレポートによって評価します。

◆テキスト、参考文献

テキスト：竜崎喜助『生の法律学』尚学社
参考文献は、講義で適宜指示します。

◆授業計画

1. 会社の中の労働者をめぐる法的問題
2. 現代の家族－婚姻制度と離婚
3. 刑事法の世界－尊属殺人と死刑執行
4. 日本の会社をめぐる法的問題－コーポレート・ガバナンス
5. 情報の公開と不開示－情報へのアクセス
6. 環境問題をめぐる法的問題
7. 環境ホルモンと法
8. 消費者問題をめぐる法
9. 多重債務者－自己破産と民事再生
10. 死ぬ権利はあるか－安楽死と尊厳死
11. 臓器移植の法的問題
12. 死をめぐる法的問題

全カリ 外共	現代社会 (III) (中東政治思想 a) 社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想)	担当者	藤原 和彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のオサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アル・カーイダは、2001年9月、反米ジハード「9・11テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は同年10月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。</p> <p>また、毎時限の講義は(1)テキスト(下記の解説)(2)原理主義運動を中心にした中東・中央アジアの政治情勢の時事解説(3)イスラム信仰を中心にした中東・中央アジア事情のビデオ鑑賞——の3部構成とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 (イントロダクション) セム族一神教の系譜 2 イスラム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係など 3 イスラム教戒律シャリーア(イスラム律法)とメッカ巡礼、利息の禁止など 4 エジプトの過激原理主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」 5 1981年のサダト・エジプト大統領暗殺 6 エジプトの過激原理主義革命家サイイド・クトゥブの革命理論「ジャーヒリーヤ論」 7 過激原理主義組織の原型、エジプトの「タクフィール・ワ・ヒジュラ(断罪と逃亡)団」 8 イスラム共同体(ウンマ)内部のジハード 9 タリバンによるカリフ制の復活 10 「イスラム集団」を生んだ上エジプト(エジプト中・南部)の社会風土 11 「イスラム集団」の反コプト(キリスト教)主義 12 「イスラム集団」の1997年のルクソール事件 	
◆ 評価方法			
出席率とテストによる			
◆テキスト、参考文献			
藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』(中公新書)(2001年)			

全カリ 外共	現代社会 (III) (中東政治思想 b) 社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想)	担当者	藤原和彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のオサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アル・カーイダは、2001年9月、反米ジハード「9・11テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は同年10月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。</p> <p>また、毎時限の講義は(1)テキスト(下記の解説)(2)原理主義運動を中心にした中東・中央アジアの政治情勢の時事解説(3)イスラム信仰を中心にした中東・中央アジア事情のビデオ鑑賞——の3部構成とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 原理主義運動一般の反ユダヤ主義 2 西欧民主主義とイスラム民主主義「シューラー」 3 1979年末の旧ソ連のアフガニスタン侵攻とアフガニスタン戦争の勃発 4 アラブ・アフガンズ(イスラム義勇兵) 5 アラブ・アフガンズの初期の精神指導者、パレスチナ人のアブダッラー・アッザーム 6 ビンラーディンによるアル・カーイダの結成 7 ビンラーディンの1996年「ジハード宣言」 8 初の原理主義国際連帯組織「世界イスラム戦線」の結成 9 アル・カーイダにおける、アイマン・ザワヒリらエジプト人勢力の台頭 10 過激原理主義運動の天国観と殉教テロ 11 1999年の「イスラム集団」の武闘停止 12 「イスラム集団」のアル・カーイダ批判 	
◆ 評価方法			
出席率と試験による			
◆テキスト、参考文献			
現代社会 (III) (中東政治思想) 現代科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想)			

全カリ	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)(春学期)	担当者	未定
◆講義目的、講義概要 1年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたことは何であるか等再確認させる。2年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き活きとした学生生活を送れるようにする。 選択するのは「入りたい企業」ではなく「自分のやりたい仕事」である。「就社」ではなく「就職」であることを認識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し、必要な知識、技能を理解させる。本講義では主に現役で活躍中のさまざまな職種の人材を招いて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に応えられるようにする。 【受講生への要望】 現場で働く社会人の話を聞くことで、将来どのように生きていくかを考え、これからのキャンパスライフがより充実したものになることを期待します。		◆授業計画 第1回 さまざまな仕事（進路）を考える オリエンテーション（講義の目的、進め方などの説明） 担当：未定 第2回 産業の構造変化と労働市場の変貌 担当：山越 徳（経済学部教授） 第3回 女性を取り巻く労働環境の変化 担当：未定 第4回 経済社会の変化と人事制度 担当：阿部 正浩（経済学部助教授） 第5回 職場から見た公務員の仕事 担当：未定 第6回 職場から見た運輸業の仕事 担当：未定 第7回 職場から見た旅行業の仕事 担当：未定 第8回 職場から見た金融・保険業の仕事 担当：未定 第9回 職場から見た総合商社の仕事 担当：未定 第10回 職場から見たマスコミの仕事 担当：未定 第11回 社会が求める人材とは （学生時代にやっておくこと） 担当：未定 第12回 キャンパスライフと仕事 シンポジウム形式による授業を予定 担当：未定	
◆評価方法 レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（9回以上出席のこと）を総合して評価します。			
◆テキスト、参考文献 テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。			

全カリ	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)(秋学期)	担当者	未定
◆講義目的、講義概要 春学期と同様		◆授業計画 第1回 さまざまな仕事（進路）を考える オリエンテーション（講義の目的、進め方などの説明） 担当：未定 第2回 産業の構造変化と労働市場の変貌 担当：山越 徳（経済学部教授） 第3回 女性を取り巻く労働環境の変化 担当：未定 第4回 経済社会の変化と人事制度 担当：阿部 正浩（経済学部助教授） 第5回 職場から見たアパレル業の仕事 担当：未定 第6回 職場から見たフード業の仕事 担当：未定 第7回 職場から見た百貨店の仕事 担当：未定 第8回 職場から見た情報産業の仕事 担当：未定 第9回 職場から見たホテルの仕事 担当：未定 第10回 職場から見た福祉・医療機関の仕事 担当：未定 第11回 社会が求める人材とは （学生時代にやっておくこと） 担当：未定 第12回 キャンパスライフと仕事 シンポジウム形式による授業を予定 担当：未定	
◆評価方法 春学期と同様			
◆テキスト、参考文献 春学期と同様			

全カリ 外共	自然・環境・人間（Ⅲ）（量子論の世界 a） 自然科学特殊講義 A（人間の自然認識）（通年）	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要 現代物理学を支える二本の柱は相対論と量子論であるが、この講義では量子論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、自然科学の法則における人間（観測者）の存在ということに注目していきたい。</p> <p>「量子論の世界 a」（春学期）では、ミクロの世界の成り立ちと、そこを支配する法則である量子力学について概説する。</p> <p>◆評価方法 日常の授業への参加態度と毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 原子と原子模型 3 光の波動説 4 電磁波 5 光電効果 6 光とは何か？ 7 光量子仮説 8 Bohr の仮定 9 粒子性と波動性を結ぶ関係 10 Schrödinger 方程式 11 確率の波 12 不確定性関係 	

全カリ 外共	自然・環境・人間（Ⅲ）（量子論の世界 b） 自然科学特殊講義 A（人間の自然認識）（通年）	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要 現代物理学を支える二本の柱は相対論と量子論であるが、この講義では量子論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、自然科学の法則における人間（観測者）の存在ということに注目していきたい。</p> <p>「量子論の世界 b」（秋学期）では、場の理論や観測の問題等を扱う。ブラックホールの蒸発や宇宙の発生というような新しい話題も紹介したい。</p> <p>「量子論の世界 a」成績不可の者は「量子論の世界 b」登録不可。</p> <p>◆評価方法 日常の授業への参加態度と毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 不確定性原理 2 観測の問題 3 粒子のスピン 4 反粒子と反世界 5 クォーク 6 基本相互作用 7 大統一理論 8 ビッグバン宇宙 9 宇宙の進化 10 ブラックホールの蒸発 11 量子宇宙論 12 まとめ 	

全カリ 外共	自然・環境・人間（I I I）（地球環境の変化とその要因） 自然科学特殊講義A （地球環境論）（通年）	担当者	鈴木 滋
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。</p> <p>この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？今何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史 4 地球環境の構造等：地球という惑星について 5 地球環境と地球システム 6 地球環境と資源（I）：資源の特性 7 地球環境と資源（I I）：エネルギー 8 地球環境と材料：地球材料学とは 9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 11 地球環境問題概論 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
◆ 評価方法			
基本的には定期試験による。			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>			

全カリ 外共	自然・環境・人間（I I I）（地球環境問題と環境保全） 自然科学特殊講義A （地球環境論）（通年）	担当者	鈴木 滋
◆講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。</p> <p>この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) 3 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) 4 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) 5 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) 6 地球環境問題各論（I）：酸性雨 7 地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8 地球環境問題各論（II）：有害廃棄物越境移動 9 地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 10 地球環境問題各論（III）：野生生物減少、開発途上国公害など 11 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
◆ 評価方法			
基本的には定期試験による。			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>			

全学共通授業科目 外国語学部共通科目	自然・環境・人間 (III) (宇宙論 a) 自然科学特殊講義 A (宇宙論) (通年)	担当者	福井 尚生
-----------------------	---	-----	-------

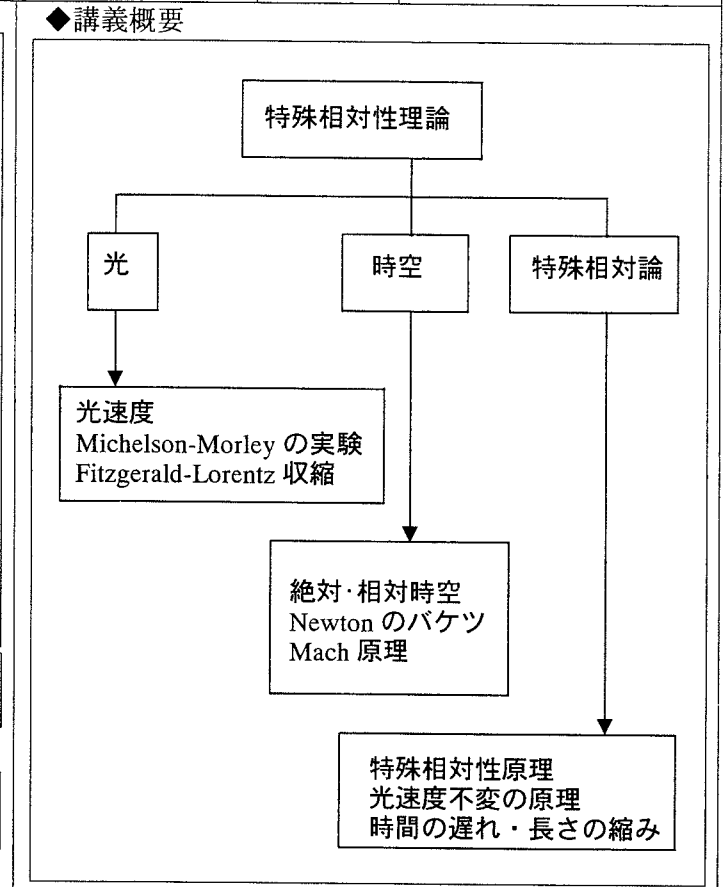
◆講義目的

- ☆『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。
- ☆Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また彼が時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依って、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。
- ☆従来の考え方を見直し、必要とあらば思い切った**発想の転換**、Paradigm 変換を試みることも時には大切なことだと思います。
- ☆視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ☆主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。

☆主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう**課題用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

- ☆テキスト/配布プリント、参考文献/『なっとくする相対性理論』松田卓也、二間瀬敏史 著・講談社



全学共通授業科目 外国語学部共通科目	自然・環境・人間 (III) (宇宙論 b) 自然科学特殊講義 A (宇宙論) (通年)	担当者	福井 尚生
-----------------------	---	-----	-------

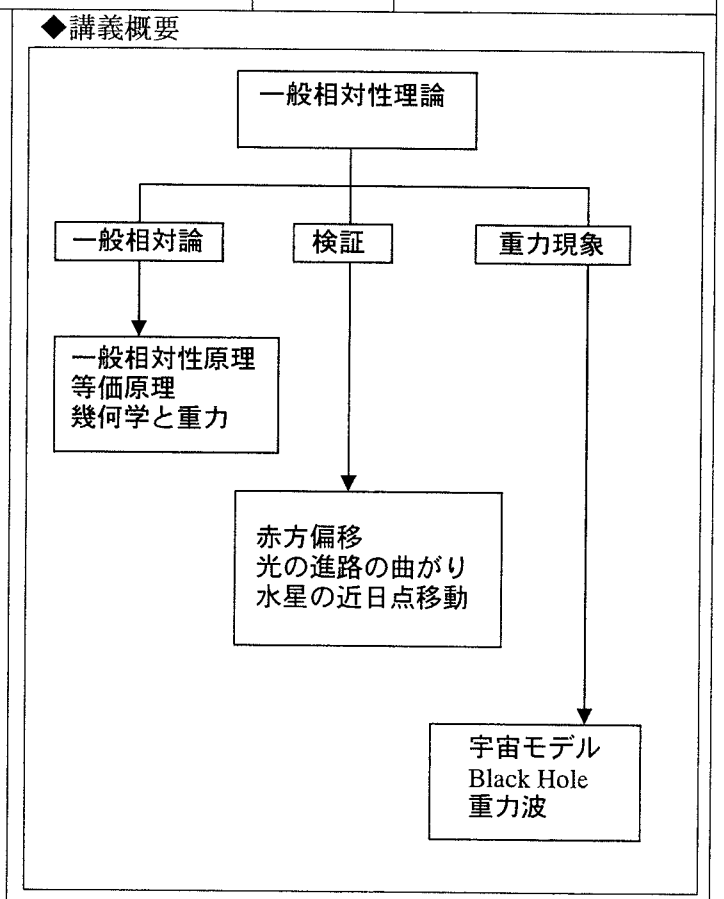
◆講義目的

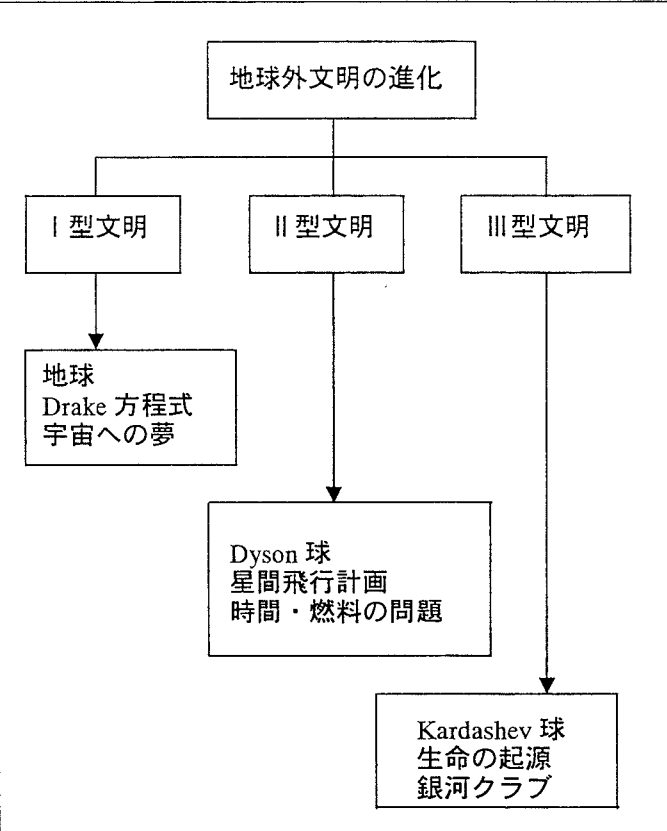
- ◎全学共通授業科目としての『宇宙論 b』は『宇宙論 a』の単位を修得した学生が履修することを希望します。
- ◎『宇宙論 b』では「一般相対性理論」とその理論が対象とする「重力現象」とを最新的话题を交えながら学びます。理論はその後の観測で確かめられなければなりません。折角の理論に変更を強いられることも多くあります。
- ◎発想を転換して得られた独自の考えは、**用心深く実践**する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話が、自分の考えを実践する際の役に立てば良いと思います。
- ◎視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ◎主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。

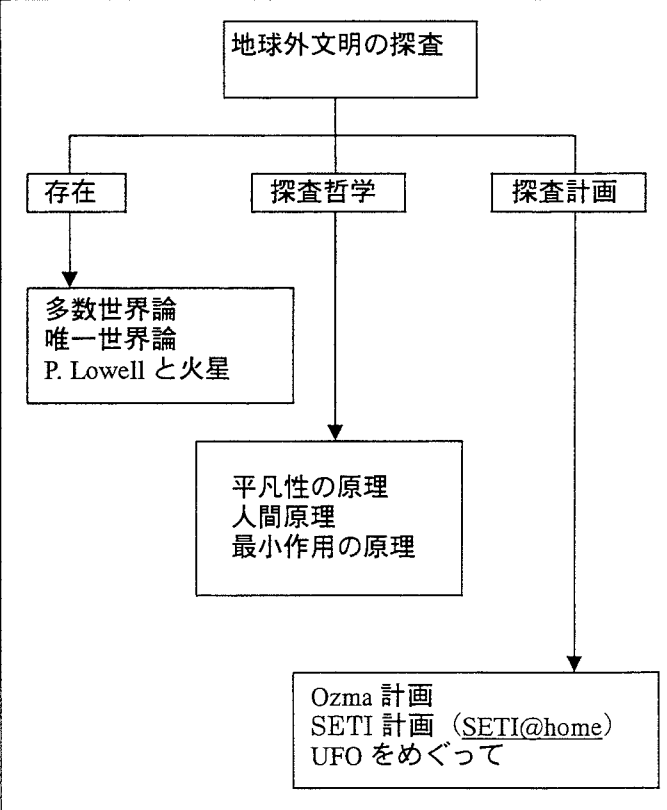
◎主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう**課題用紙の中身**です。

◆テキスト、参考文献

- ◎テキスト/配布プリント、参考文献/『なっとくする宇宙論』二間瀬敏史 著・講談社



全学共通授業科目 外国語学部共通科目	自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 a) 自然科学概論 (通年)	担当者	福井 尚生
<p>◆講義目的</p> <p>♪『地球外文明論 a』では「地球外文明の進化」を学びます。</p> <p>♪我々人類は、宇宙進化を司る宇宙方程式の現時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば文明の進化を考察出来る筈です。</p> <p>♪人類が今行う進化への営為が、この解の時間・空間発展に沿ったものかどうかをチェックし、進化への夢が持てればと思います。</p> <p>♪視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>♪主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で大きく先を考える努力をして下さい。</p> <hr/> <p>♪主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう課題用紙の中身です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>♪テキスト/配布プリント、参考文献/『地球外文明の思想史』横尾広光 著・恒星社厚生閣</p>		<p>◆講義概要</p>  <pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[I型文明] A --> C[II型文明] A --> D[III型文明] B --> E["地球 Drake 方程式 宇宙への夢"] C --> F["Dyson 球 星間飛行計画 時間・燃料の問題"] D --> G["Kardashev 球 生命の起源 銀河クラブ"] </pre>	

全学共通授業科目 外国語学部共通科目	自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球外文明論 b) 自然科学概論 (通年)	担当者	福井 尚生
<p>◆講義目的</p> <p>♂全学共通授業科目としての『地球外文明論 b』は、『地球外文明論 a』の単位を修得した学生が履修することを希望します。</p> <p>♂『地球外文明論 b』では多数世界論の立場から地球外文明の存在を信じ、「地球外文明の探査」の哲学と計画とを学びます。</p> <p>♂地球外文明の探査・発見 (への努力) は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。“Are we alone?”の問い掛けは続きます。</p> <p>♂視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>♂主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で大きく先を考える努力をして下さい。</p> <hr/> <p>♂主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、課題用紙の中身です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>♂テキスト/配布プリント、参考文献/『Cosmic Company』S. Shostak & A. Barnett, CAMBRIDGE</p>		<p>◆講義概要</p>  <pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[存在] A --> C[探査哲学] A --> D[探査計画] B --> E["多数世界論 唯一世界論 P. Lowell と火星"] C --> F["平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理"] D --> G["Ozma 計画 SETI 計画 (SETI@home) UFO をめぐって"] </pre>	

全カリ	ことばと思想 (IV) (日本語口頭表現のトレーニング - コミュニケーション篇)	担当者	飯島 一彦
外共	国語表現 (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という教科の授業)をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現(「話す」「聴く」)の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得していくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「話す」「聴く」と「考える」 2 コミュニケーションの基本① 「聴く」ことの実践 3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル 4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと 5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ 6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ 7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ 8 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ 9 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ 10 コミュニケーションの実践 自分のコミュニケーションを振り返る 11 コミュニケーションの実践 再び「話す」「聴く」と「考える」 12 まとめ 	
毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート			
◆テキスト、参考文献			
なし			

全カリ	ことばと思想 (IV) (日本語口頭表現のトレーニング - 表現篇)	担当者	飯島 一彦
外共	国語表現 (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>上記科目(春学期開設)の単位を修得した学生のみ(02年度以前入学生の通年履修者を除く)の受講を許可する。</p> <p>コミュニケーションの基本を獲得した後求められるのは、より豊かで深い表現力である。ここでいう表現力とは、口頭の日本語における多彩な言葉の表現、人により強く伝えることが出来る言葉の力のことである。</p> <p>日常の無意識の表現を超えて豊かで深い表現力を獲得するためには、意図的なトレーニングを必要とする。「話す」「聴く」ことを意識の上に明確にして、意図的な表現力の獲得をするために、様々なトレーニングを行う。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと 2 何を「伝える」のか?① 自分の言葉、他人の言葉 3 何を「伝える」のか?② 他人の言葉を「理解」する。 4 何を「伝える」のか?③ 自分の言葉を「理解」してもらう 5 何を「伝える」のか?④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫 6 何を「伝える」のか?⑤ 「表現するとは何か?」を考える 7 表現の実践と評価① 8 表現の実践と評価② 9 表現の実践と評価③ 10 表現の実践と評価④ 11 何が「伝わる」のか? 12 まとめ 	
毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート			
◆テキスト、参考文献			
なし			

全カリ ことばと思想 (IV) (作品を読む) 外共 国語表現 (通年)	担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのは言葉の力である。しかし言葉はただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しい言葉、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。</p> <p>今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、敬語法などを学ぶ。</p> <p>◆評価方法</p> <p>平常点。(新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>岡田啓介『国語表現法』(おうふう)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表現者(送り手)と理解者(受け手)の言葉におけるメカニズムを概説する 2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3 日本語の基礎知識――日本語の音韻、アクセントの特徴 4 美しい言葉の条件――正確さと品位をどのように獲得するか 5～7 スピーチ演習 8 ディベート(ビデオ鑑賞) 9 反省とまとめ 10～12 敬語について、文学作品の朗読と批評 	

全カリ ことばと思想 (IV) (作品を書く) 外共 国語表現 (通年)	(春学期開講) 担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互に交換、添削をする。手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。(とくに、助詞、助動詞の基本的使用法を知る)</p> <p>◆評価方法</p> <p>平常点。(新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>岡田啓介『国語表現法』(おうふう)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～3 日本語の文と文章、文の構造、文章の種類 4 文章を書く手順 5 主題と題材 6 材料を集める――説明文、報告文、論説文の特徴 7 材料を並べる――アウトラインの作成 8～9 文章を書く。文献資料を用いて文章を補強する 10 交換、批評し合う 11 推敲のポイントを学ぶ 12 まとめ 	

全カリ 外共	ことばと思想 (IV) (書き言葉の問題) 国語表現 (通年)	担当者	佐藤 毅
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆講義目標</p> <p>メールはその簡便性から一般化されてきたが、その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性とか心配りが失われつつある。また、話し言葉もそれぞれの世代でその形が区分され、世代間のコミュニケーションが失われつつある。書き言葉の問題と話し言葉の問題について現状分析をしながら問題点を探っていく。共に人を説得する言葉、心に届く言葉の本質を考えて行く講義である。</p> <p>◆講義概要</p> <p>著名人の手紙文を紹介しながら、メールと呼ばれるツールが獲得したもの、失ったものを見てみる。近年の流行語を見ながら、世代間のコミュニケーションギャップの問題を考えてみる。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>連続する講義なので休んだ場合は、必ずノートを補っておくようになしてください。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手紙文の約束事① 2 手紙文の約束事② 3 手紙文の解説・鑑賞① 4 手紙文の解説・鑑賞② 5 手紙文の解説・鑑賞③ 6 手紙文の解説・鑑賞④ 7 手紙文の解説・鑑賞⑤ 8 手紙文の解説・鑑賞⑥ 9 メール作成の問題点① 10 メール作成の問題点② 11 メール作成の問題点③ 12 まとめ 	
◆評価方法			
出席、レポート、試験による。			
◆テキスト、参考文献			
その都度、プリントを配布します。			

全カリ 外共	ことばと思想 (IV) (話し言葉の問題) 国語表現 (通年)	担当者	佐藤 毅
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆講義目標</p> <p>メールはその簡便性から一般化されてきたが、その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性とか心配りが失われつつある。また、話し言葉もそれぞれの世代でその形が区分され、世代間のコミュニケーションが失われつつある。書き言葉の問題と話し言葉の問題について現状分析をしながら問題点を探っていく。共に人を説得する言葉、心に届く言葉の本質を考えて行く講義である。</p> <p>◆講義概要</p> <p>著名人の手紙文を紹介しながら、メールと呼ばれるツールが獲得したもの、失ったものを見てみる。近年の流行語を見ながら、世代間のコミュニケーションギャップの問題を考えてみる。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>連続する講義なので休んだ場合は、必ずノートを補っておくようになしてください。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昭和 30 年代の世相と流行語 2 昭和 40 年代の世相と流行語 3 昭和 50 年代の世相と流行語① 4 昭和 50 年代の世相と流行語② 5 昭和から平成への転換点に見る世相と流行語 6 平成初年代の世相と流行語① 7 平成初年代の世相と流行語② 8 バブル経済崩壊後の世相と流行語① 9 バブル経済崩壊後の世相と流行語② 10 ギャル語とおやじギャグの問題 11 共通語の理想と現実 12 まとめ 	
◆評価方法			
出席、レポート、試験による。			
◆テキスト、参考文献			
その都度、プリントを配布します。			

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅳ) (日本語文章の理論と実践 a) 国語表現 (通年)	担当者	千本 健一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><目的>日本人なら日本語を読み書きできるのは当然、と思いきや、とらえておくと危うい。たとえば、自分のメモや日記をつけるだけのことなら問題はない。だが、いったん人に読ませるとなったら、自分勝手に書き散らし、ひとりで納得しているだけではすまなくなる。では、開かれた文章表現法を会得するには何が必要か。ここでは例文を読み、宿題を書くという行為を通して、日本語文章の表現力と読解力の向上をめざす。</p> <p><概要>文章を書くうえで心すべきことは正確さ、簡潔さ、それに明快さ。骨組みはこれだけだ。問題は、それをどう表現するかにある。授業では読むべき本を講読、あるいは提示しつつ、自分の考えを過不足なく他者に伝えるための文章表現を追究する。履修者には宿題などの形で、理にかなった読み書きの実際に触れてもらう。本講座では、作文(コンポジション)の基礎能力養成に主眼を置く。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末に課するレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><テキスト>随時、提示する。 <参考文献>千本健一郎『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 実践的文章論とトレーニング(基礎編) 7. } 8. } 9. } 10. }</p> <p>11. まとめ。レポート出題 12. レポート提出</p>	

全カリ 外共	ことばと思想(Ⅳ) (日本語文章の理論と実践 b) 国語表現 (通年)	担当者	千本 健一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><目的>書く力の源泉は読む力にある。第一、他人の書いたものに興味や関心をもてない人が、なぜ自分の書いたものに他人が目を向けてくれるなどと思えるのだろうか。というわけで、授業ではさまざまな文体、語り口をもった散文を読む。それによって文章の多様な型を知り、発想・表現・知識(情報)の面で学ぶべきものをさぐる。そのうえで、書く力は膨大な模倣の積み重ねから少しずつ得られる、という事実を体験する。</p> <p><概要>自分に伝えたいものがなければ、書くということ自体が成り立たない。だがその一方で、伝える内容さえあれば文章は粗雑でもいい、ということにはならない。この二つを両立させてはじめて、文章の名に値するものが生まれるのだ。そのための訓練として毎回、宿題を出す。主題を決め、それについて考え抜き、調べあげ、一字一字刻んでいく集中力と持続力をみがく。この講座では、作文(コンポジション)の応用力育成に主力を注ぐ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末に課するレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><テキスト>随時、提示する。 <参考文献>千本健一郎『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 実践的文章論とトレーニング(応用編) 7. } 8. } 9. } 10. }</p> <p>11. まとめ。レポート出題 12. レポート提出</p>	

全カリ 外共	ことばと思想 (IV) (英語通訳の仕事) 人文科学特殊講義 B (英語通訳の仕事)	担当者	福井 星一
◆講義目的、講義概要 外国語を勉強する目標として、将来就きたい仕事として、通訳ということのを少しでも考えているみなさんに、実際に通訳者が何に苦勞しながらどんな仕事をしているかを紹介します。 複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は、大変な仕事です。一方で、翻訳も通訳も機械化が始まっています。そういう現状と近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手ばかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 ほかにここでは、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントを提供します。参加者の英語のレベルを問わず、人数も多いため、厳しい通訳学校のような訓練はできませんが、最初の数回で英語の通訳の基本的な訓練方法を紹介し(授業計画の[]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。そういう練習方法を身に付ければ、通訳への自信につながることでしょ。		◆授業計画 1 通訳って何だろう どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2 ふだんの学習と直前の準備 [shadowing 入門] 3 通訳者に向いている性格、評判の良い通訳とは [sight-translation 入門] 4 どんな声を出すべきか [日本語アナウンス入門] 5 同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6 役に立つ常識、じゃまな先入観 7 うまい通訳、良い仕事って何だろう 8 就業の条件と環境、通訳者の上手な使われ方 9 失敗例、失敗の防ぎ方、善後策、通訳の助け合い 10 世界共通語の功罪、言葉を通じさせることの意味 11 異文化のギャップを埋める努力 12 これからの人間らしい holistic な通訳とは	
◆ 評価方法 出席と積極的な授業参加重視。レポートまたは take-home exam を課し、期末テストは行わない。			
◆テキスト、参考文献 プリントなどの教材を授業で配布。購入不要。			

全カリ 外共	ことばと思想 (IV) (英語通訳の仕事) 人文科学特殊講義 B (英語通訳の仕事)	担当者	福井 星一
◆講義目的、講義概要 春学期に同じ		◆授業計画 春学期に同じ	
◆ 評価方法 春学期に同じ			
◆テキスト、参考文献 春学期に同じ			

全カリ 外共	ことばと思想Ⅳ（論文を書く） 国語表現（通年）	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活に置いて必須となるレポート・論文の書き方とその手順を学ぶ。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、作業を通して、最終的にレポート（A4で5枚程度のもの）を完成させることを目標とする。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 問題意識 3 資料検索 4 序論① 5 序論② 6 引用・グラフ・表 7 本論① 8 本論② 9 本論③ 10 結論 11 注 12 まとめ 	
◆評価方法			
レポート 出席			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 『プラクティカル日本語 文章表現編』おうふう			

全カリ 外共	ことばと思想Ⅳ（口頭発表を行う） 国語表現（通年）	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「話す」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活や社会人として要求される口頭発表（プレゼンテーション）の基礎知識及び基礎技能の習得を目指す。後半、「聞く」能力の訓練についても触れていきたいと考えている。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、課題を決めて、順番に発表をしてもらい、話し方について講評を加えていくというかたちである。 ただし、受講人数が多い場合、このようなかたちでの発表は不可能となるので、別のメニューを行うこととなる。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 発音 3 朗読① 4 朗読② 5 プレゼンテーションの基礎知識① 6 プレゼンテーションの基礎知識② 7 発表① 8 発表② 9 発表③ 10 話を聞く① 11 話を聞く② 12 まとめ 	
◆評価方法			
レポート 出席			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 『プラクティカル日本語 口頭発表編』おうふう			

全カリ	現代社会 (IV) (インターンシップ)	(春学期)	担当者	阿部 正浩
<p>◆講座目標</p> <p>この講座は9回の講義と夏休みに実施してもらう企業内実習を通して、「働く」とは何か、「働く」ためにはどのようなスキルが必要なのかを、受講生に理解してもらう。</p> <p>働くことは、人生の一部である。人が生きる上では他にも大切なことがたくさんある。これから社会で生きていく諸君が、どのように人生を設計していくか、そしてどのようにキャリア形成をしていくか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいと思う。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>—講義—</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>講座の目的、講座の進め方、グループ決定、EQ アセスメントテストの実施</p> <p>第2回 企業や仕事とは何か?</p> <p>企業組織や仕事について、R-CAP の実施</p> <p>第3回 自分と向き合おう(自己目標の設定)</p> <p>自分の将来を考え、自己目標を設定する</p> <p>第4回 自分と向き合おう(EQとは何か)</p> <p>EQ アセスメントテストの解説</p> <p>第5回 自分の弱点を強みに変える</p> <p>EQ を伸ばすための自己理解と改善アクションプランの策定</p> <p>第6回 リーダシップをとろう</p> <p>リーダーシップ能力を養成する</p> <p>第7回 グループ対抗ビジネスゲーム</p> <p>学習したリーダーシップを発揮して、問題解決を図ろう</p> <p>第8回 コミュニケーションを上手にはかろう</p> <p>コミュニケーション能力を養成する</p> <p>第9回 グループ対抗ビジネスゲーム</p> <p>学習したコミュニケーション能力を発揮して、問題解決を図ろう</p> <p>—実習—</p> <p>夏期休業期間中に2週間、企業内実習を行う。</p> <p>上記以外に、3回ほどキャリアセンターによる課外指導がある。</p>		
<p>◆講座概要</p> <p>この講座は、9回の講義部分と夏休みに実施する企業内実習から成る。(なお、他に3回ほどキャリアセンターが実施する課外指導がある。)</p> <p>講義では、まず受講者に自分と向き合ってもらい、今後の人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルはEQ (Emotional Quality)である。ビジネスゲームやロールプレイ等を通してEQを開発し、リーダーシップやコミュニケーション能力を高め、受講生のキャリア形成に役立てたい。</p> <p>企業内実習では、受講生自身がインターンシップ先を見出し、各企業で様々な体験をしてきてほしい。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験となろう。なお、実習先を選ぶのに際して参考となる職業適性テストも講義中に行う。</p>				
<p>◆受講生への要望</p> <p>この講義は受け身で受講しないでほしい。積極的に参加し、今後の「生き方」に真剣に直面してほしい。</p>				
<p>◆評価方法</p> <p>講義および企業内実習への参加態度で評価する。</p>				
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>とくになし。</p>				

全カリ 外共	現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る a) 社会科学特殊講義 A (教育の現場：教師と語る) (通年)	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあうことと、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかむ。そのなかで、特に生活指導についての理解を深める。</p> <p>2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成する。そのため、右記日程の合宿に必ず参加すること（参加費は 1 万円程度）。旧カリの学生（通年授業で登録する学生）は、夏と冬の両方の合宿に参加しなければならない。</p> <p>3. 合宿で 6 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 6 回程度とする。</p> <p>4. 教職課程に登録しているか否かは問わない。</p> <p>5. 履修登録の上限を 30 名とする。</p> <p>6. 春学期 (a) を履修する場合には、秋学期 (b) も履修すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と最終レポートによる。合宿に参加しない場合には、不可とする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>高橋他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方等の説明 2 生活指導とは何か（その 1 / テキスト使用） 3 生活指導とは何か（その 2 / テキスト使用） 4 実践記録を読む（その 1） 5 実践記録を読む（その 2） 6 合宿参加のまとめ <p>合宿は、6 月 5 日（土）、6 日（日）の予定。</p>	

全カリ 外共	現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る b) 社会科学特殊講義 A (教育の現場：教師と語る) (通年)	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>履修条件：春学期の「教育の現場：教師と語る a」を履修していること。</p> <p>合宿の日程が 1 週間ほど前後する可能性があるの で、前後の土日をあけておくこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と最終レポートによる。合宿に参加しない場合には、不可とする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>高橋他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活指導と憲法（テキスト使用） 2 生活指導と異文化教育（テキスト使用） 3 生活指導と進路指導（テキスト使用） 4 実践記録を読む（その 3） 5 実践記録を読む（その 4） 6 合宿参加のまとめ <p>合宿は、12 月 4 日（土）、5 日（日）の予定。</p>	

全カリ 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (A) a) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (A)) (通年)	担当者	橋口 徹
◆講義目的、講義概要 <p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁等、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>		◆授業計画 <p>授業は通年ベースで行い、春学期を前半とし、秋学期を後半とする。したがって、全学共通授業科目の場合は半期授業となるため、当該授業を登録する予定の学生は、春学期のaクラスだけでなく、秋学期のbクラスも登録する必要がある。</p> <p>なお、下記の授業計画はあくまで1つの目安であり、受講生の理解度等を斟酌したうえで、毎回の授業について、その進度・内容ともに臨機応変に対応したいと考えている。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。</p>		①講義ガイダンス ～ 簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引と仕訳 ④勘定 ⑤帳簿の記入（その1） ⑥帳簿の記入（その2） ⑦決算と財務諸表Ⅰ（その1） ⑧決算と財務諸表Ⅰ（その2） ⑨決算と財務諸表Ⅰ（その3） ⑩現金預金取引（その1） ⑪現金預金取引（その2） ⑫まとめ	
◆テキスト、参考文献 <p>授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。</p>			

全カリ 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (A) b) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (A)) (通年)	担当者	橋口 徹
◆講義目的、講義概要 <p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁等、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>		◆授業計画 <p>授業は通年ベースで行い、春学期を前半とし、秋学期を後半としている。したがって、全学共通授業科目の場合は半期授業となるため、本講義を登録する予定の学生は、原則として、すでに春学期にaクラスを履修しておく必要がある。</p> <p>但し、aクラスの授業範囲に相当する学習内容をすでに既習済みの学生が登録を希望した場合には、個別に対応することになるが、例外的に登録を認めることもある。</p> <p>なお、下記の授業計画はあくまで1つの目安であり、受講生の理解度等を斟酌したうえで、毎回の授業について、その進度・内容ともに臨機応変に対応したいと考えている。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。</p>		①商品売買（その1） ②商品売買（その2） ③売掛金と買掛金 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用（その1） ⑩収益と費用（その2）、帳簿と伝票 ⑪決算と財務諸表Ⅱ（その1） ⑫決算と財務諸表Ⅱ（その2）、まとめ	
◆テキスト、参考文献 <p>授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。</p>			

全カリ 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (B) a) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (B)) (通年)	担当者	橋口 徹
◆講義目的、講義概要 <p>我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。</p> <p>本講座では、日本商工会議所主催の B A T I C (国際会計検定) での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>また本講座では、日商簿記 3 級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その可否は問わない。)</p> <p>なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>		◆授業計画 <p>春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。</p> <p>①講義ガイダンス ～ 英文会計とは</p> <p>②資産・負債・資本</p> <p>③借方と貸方：複式簿記</p> <p>④仕訳と転記</p> <p>⑤財務諸表</p> <p>⑥修正仕訳と決算仕訳</p> <p>⑦売上と仕入取引</p> <p>⑧現金仕訳帳</p> <p>⑨精算表 (その 1)</p> <p>⑩精算表 (その 2)</p> <p>⑪その他</p> <p>⑫まとめ</p>	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。</p>			

全カリ 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (B) b) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (B)) (通年)	担当者	橋口 徹
◆講義目的、講義概要 <p>我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。</p> <p>本講座では、日本商工会議所主催の B A T I C (国際会計検定) での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>また本講座では、日商簿記 3 級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その可否は問わない。)</p> <p>なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>		◆授業計画 <p>秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりである。</p> <p>したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要があるため、全学共通授業科目として本講義を登録する予定の学生は、春学期に a クラスを履修しておくことが望ましい。</p> <p>①講義ガイダンス ～ 基礎の確認 (その 1)</p> <p>②基礎の確認 (その 2)</p> <p>③財務諸表</p> <p>④その他 (その 1)</p> <p>⑤その他 (その 2)</p> <p>⑥国際会計理論 (その 1)</p> <p>⑦国際会計理論 (その 2)</p> <p>⑧国際会計理論 (その 3)</p> <p>⑨国際会計理論 (その 4)</p> <p>⑩問題演習</p> <p>⑪問題演習</p> <p>⑫まとめ</p>	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。</p>			

全カリ 現代社会 (Ⅳ) (コンピュータ入門a)		担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【法学部学生対象】 現代社会で必要不可欠なコンピュータとネットワークの仕組みについての概要を講義し、学部学生が4年間の学習・研究生活を通して必要とされるコンピュータとネットワークに関し、実習を通して基礎的技術を養うことを目的とする。 講義・実習を通して、この目標を達成するために、オペレーティングシステムの操作方法、ブラウザ、メールソフト、ワープロソフトなどの使用方法をはじめ、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、コンピュータとネットワーク全般の基礎的なものを扱う。 なお、各テーマの取り扱われる順序や時間配分については、担当教員によって若干異なることがある。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・レポート・試験などで総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>情報処理教育担当者会監修 『コンピュータ入門』</p>			<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 履修について、ID、パスワード、情報センター案内、コースの説明 2 コンピュータの基礎 情報倫理、OS、ネットワークの仕組み 3 タイプソフト キーボード、ファイル、文字入力、FD 4 電子メール 基本設定、送受信、添付ファイル、MO 5 ホームページの活用 URL、検索エンジン、ダウンロード 6 ワープロの利用 (1) 文書作成、保存、画像、編集 7 ワープロの利用 (2) 表、図形、レポート作成 8 表計算ソフトの概説、データ入力、計算 9 グラフ作成の概説、適切なグラフ 10 簡単な統計計算、各種計算 11 プレゼンテーション (1) ソフトの概説、スライド作成 12 プレゼンテーション (2) 図表・写真の利用、デモ

全カリ 現代社会 (Ⅳ) (コンピュータ入門b)		担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【法学部学生対象】 「コンピュータ入門a」で学んだ基礎知識をベースに、学部で4年間の学習・研究生活をするのに必要な表計算ソフトのより高度な使用方法と、ゼミなどで必要なデータベースソフトの使用方法について学ぶ。 これらのソフトの使用法については、例題を通して少しずつ着実に勉強して欲しい。 特に、表計算ソフトは、その他の科目では講義しないので、この講義でマスターするようになっているところを付けて欲しい。 この科目で基礎を学んだ後、プログラミング論、データベース論、コンピュータシミュレーション論、マルチメディア論、プレゼンテーション技法、コンピュータネットワーク論などの科目でさらなる知識を獲得されると良いでしょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・レポート・試験などで総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員指定の教科書および印刷物</p>			<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 履修について、コースの説明、情報倫理、ネットワークの仕組み 2 表計算 (1) 作表、表計算、グラフ 3 表計算 (2) 統計計算、各種関数利用 4 表計算 (3) 外部データベースを利用したデータ処理 5 表計算 (4) シミュレーション 6 表計算 (5) マクロ機能 7 表計算 (6) データベース機能、ソート 8 表計算 (7) 表計算の総合、レポート作成 9 データベース (1) ソフトの概説、データ内容の入力 10 データベース (2) テーブルのリレーションシップ 11 データベース (3) データ検索、ソート 12 データベース (4) データベースの総合、レポート作成

全カリ	現代社会(IV)(コンピュータアドヴァンスa)	担当者	田村 仁
◆講義目的、講義概要 この講義では4年間の学習・研究生活を通して必要とされる情報処理の基礎と応用を講義およびコンピュータ実習を通して学習する。本講義だけではなくその他の講義に対するレポート作成や、卒業論文執筆などの際に、次のような手段を使うことができるようになることを目的とする。①ワードプロセッサによる文章作成、②必要な資料・データのインターネットからの検索、③E-Mail を使った、情報交換、資料のやり取り、④Web ページ作成パソコンを用いたプレゼンテーション、⑤マクロ言語によるプログラミングの基礎知識。毎時間、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。		◆授業計画 1. コンピュータ利用の準備 2. 日本語入力とメール送信 3. WWW の参照とネットワークを使った情報検索 4. ファイル操作の基本 5. Word による文書作成と印刷 6. 図表の作成とレイアウト機能、レポート作成 7. 文章作成の総合練習 8. PowerPoint によるプレゼンテーション 9. Web 作成 10. Web 作成練習 11. プログラミングの基礎知識 12. 前期平常時試験(実技)	
◆ 評価方法 出席 30% 課題提出 30% 平常時試験(実技) 40%			
◆テキスト、参考文献 講義中に指示。Web ページ掲載予定			

全カリ	現代社会(IV)(コンピュータアドヴァンスb)	担当者	田村 仁
◆講義目的、講義概要 この講義では4年間の学習・研究生活を通して必要とされる情報処理の基礎と応用を講義およびコンピュータ実習を通して学習する。本講義だけではなくその他の講義に対するレポート作成や、卒業論文執筆などの際に用いることができる手法を学ぶ。後期では、主として表計算ソフトを用いたデータ集計と分析手法である。単純な表計算からはじめ、大きな表の集計、データ操作、統計的分析、シミュレーション、マクロ作成まで、基礎から応用まで一通り行う予定である。毎時間、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。		◆授業計画 1. Excel の基本操作 2. 数式の利用と表の書式設定 3. 絶対参照を用いた条件式とワークシート間の操作 4. グラフ作成と印刷 5. Excel によるリスト操作 6. データの単純集計とクロス集計 7. 統計的な分析 8. マクロ作成 9. Word と Excel の連携 10. シミュレーション 11. 表計算総合練習 12. 後期平常時試験(実技)	
◆ 評価方法 出席 30% 課題提出 30% 平常時試験(実技) 40%			
◆テキスト、参考文献 講義中に指示。Web ページ掲載予定			

全カリ	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講義は、経済学部「コンピュータ入門 a」・法学部「情報処理概論 a」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報や資料のやり取りをする。 2) 有用な情報を自ら発信する。 3) マルチメディアを活用する。 4) 各自の発表をパソコンで行う。 <p>ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。</p> <p>この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・レポート・試験などで総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員指定の教科書および印刷物</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 履修について、コースの説明、情報倫理、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本 HTML、タグ、サーバー 3 ホームページ作成 1 (ページ構成) 4 ホームページ作成 2 (画像、背景) 5 ホームページ作成 3 (罫線、文書整形) 6 ホームページ作成 4 (文字飾り) 7 ホームページ作成 5 (リスト) 8 ホームページ作成 6 (リンク) 9 ホームページ作成 7 (フレーム) 10 ホームページ作成 8 (テーブル) 11 ホームページ作成 9 (サウンド) 12 ホームページ作成 10 (アップロード、まとめ) 	

全カリ	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講義は、経済学部「コンピュータ入門 a」・法学部「情報処理概論 a」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報や資料のやり取りをする。 2) 有用な情報を自ら発信する。 3) マルチメディアを活用する。 4) 各自の発表をパソコンで行う。 <p>ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。</p> <p>この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・レポート・試験などで総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員指定の教科書および印刷物</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 履修について、コースの説明、情報倫理、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本 HTML、タグ、サーバー 3 ホームページ作成 1 (ページ構成) 4 ホームページ作成 2 (画像、背景) 5 ホームページ作成 3 (罫線、文書整形) 6 ホームページ作成 4 (文字飾り) 7 ホームページ作成 5 (リスト) 8 ホームページ作成 6 (リンク) 9 ホームページ作成 7 (フレーム) 10 ホームページ作成 8 (テーブル) 11 ホームページ作成 9 (サウンド) 12 ホームページ作成 10 (アップロード、まとめ) 	

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

全カリ	自然・環境・人間 (IV) (身近な自然観察 秋)	担当者	加藤 僖重
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆講義目標</p> <p>登録に先立っての注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学にはAとBがあるが、同一年度は勿論、年度を異にしてもどちらか片方しか履修できない。 一クラスの受講生を48名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 <p>講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ることが目標とする。 <p>◆講義概要</p> <p>身近な種類を観察しながら、日本の自然環境の特徴を理解する</p> <p>◆受講生への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物に関心のある学生であること。 動植物名、各々100種以上認識できること。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに：講義の内容を説明。実験室内での諸注意を行なう。 身近な植物の観察 1：スイカズラ科の花の構造 キャンパスウォッチング 1：種の同定 顕微鏡の使用法：顕微鏡の構造 顕微鏡の使用法：マイクロメータの使用法 身近な植物の観察 2：生産構造図の作成 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 身近な植物の観察 3：真果と偽果の構造 キャンパスウォッチング：五感を働かす 顕微鏡の使用法：細胞の観察 まとめ 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">毎回のレポート、試験による</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">毎回、プリントを配布する。</div>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
-----------	---	-----	------

◆講義目的、講義概要

[講義の目標]

レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。

[講義概要]

学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。

◆評価方法

出席と受講態度、レポート

◆テキスト、参考文献

なし

◆授業計画

1. 授業の内容と計画についての説明
2. 仲間づくりの時間：グループゲーム
3. 仲間づくりの時間：グループゲーム
野外炊飯の計画
4. 仲間づくりの時間：アウトドアクッキング
5. アウトドアレクリエーション種目
6. アウトドアレクリエーション種目
7. アウトドアレクリエーション種目
8. アウトドアレクリエーション種目
9. アウトドアレクリエーション種目
10. アウトドアレクリエーション種目
11. アウトドアレクリエーション種目
12. 合宿についてのオリエンテーション

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜・ウインドサーフィン) (夏季集中) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
-----------	--	-----	------

◆講義目的、講義概要

合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウインドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページをご覧ください。日程・参加費は別に案内します

[受講者への要望]

集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。

◆ 評価方法

出席と受講態度、レポート

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」
新潟県佐渡島 2004年7月後半4泊5日
費用¥35000程度 (交通費別)
佐渡島赤泊の自然資源を生かしたレクリエーション活動の体験と地域の歴史、文化を学ぶ機会を提供します。皆さんは日常から離れた場所で、美しい自然、ゆったりとした時間の流れと温かい人の心に触れることができるでしょう。これらの経験をするのがこの授業の目的です。

カヤック、釣り、スキndaイビング、虫狩り、農作業、地域見学、イカのひもの作り、食事作り (自分たちがとった魚や貝を使う)、奉仕活動などを予定しています。

[集中授業] 「ウインドサーフィン」
千葉県館山市 2004年9月前半4泊5日
費用¥20000程度 (交通費別)
浮力を持ったボードにセールを取り付け、舵の代わりにセールをさまざまな方向に動かし、風を利用して操作する水上の乗り物です。この授業では弱風域においてウインドサーフィンを操作できるようになることを目標とします。また、安全にマリンスポーツを楽しむことができるよう、風、潮流、生物、人間関係についての学習してもらいます。

初心者を対象に用具の使い方、組み立て方、海の安全知識、基本技術などから始め、弱い風の中ではセイリングできる程度のレベルまで多くの人が達しています。また、合宿生活となりますので、係分担、食事づくりなどへの積極的参加を通じて意義ある人間関係をはぐくむことができます。毎年、この合宿生活も学生たちは楽しんでいきます。

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)(秋学期) 体育Ⅰ・Ⅱ(秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p>	
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)(冬季集中) 体育Ⅰ・Ⅱ(秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p> <p>宿泊費ほか費用はかかりますが、必ず満足のいく内容となります。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 用具あわせ、基本動作</p> <p>第3回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第4回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第5回 ホッケーにチャレンジ その1</p> <p>第6回 ホッケーにチャレンジ その2</p> <p>第7回 バックストロークとバリエーション その1</p> <p>第8回 バックストロークとバリエーション その2</p> <p>第9回 フォアクロッシング その1</p> <p>第10回 フォアクロッシング その2</p> <p>第11回 バッククロッシング</p> <p>第12回 集中授業についてのオリエンテーション</p> <p>[集中授業] 「氷上スポーツ」 長野県軽井沢町 2005年2月中旬予定 費用¥28000程度(交通費別)</p> <p>3泊4日を午前と午後の6コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。</p> <p>アイススケート4コマ、カーリング2コマの予定です。</p> <p>アイススケートは、技術の進捗度や天候によって内容を変えます。カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。</p> <p>詳細については、オリエンテーション時に説明します。</p>	
◆評価方法			
出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価			
◆テキスト、参考文献			
特になし			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要 社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。 概要 自然と人間行動を十分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール (気象の読み方・地図の見方) を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。		◆授業計画 1: ガイダンス 2: 基礎体力測定 3: ゲームと班分け 4: 気象図の見方と地図・志賀高原ルート・尾瀬の自然観察 5: 山間を想定しての調理訓練 (1) 食材の選定とごみの処理の原則 6: 自然の楽しみ方 1) 山野草観察・ 7: サバイバル体験の知識と危険度について 8: 救急法 9: キャンプ地での調理訓練 事前購入とキャンプ地の安全度 10: テントの調整法と危険度について 11: 山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフづくり 12: 事前実施計画の最終検討・参加人員決定	
◆ 評価方法 出席重視・フィールドワーク			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドア山岳) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画 [夏季集中授業] 7月24日 (土) ~ 7月28日 (水) 1案「志賀高原」にて合宿 2案「尾瀬」キャンプ トレッキング靴・雨具必携	
◆ 評価方法 出席重視・フィールドワーク			
◆テキスト、参考文献			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート a)	担当者	和田 智
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>【受講者への要望】 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから29センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション インラインスケートとは</p> <p>2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方</p> <p>3 滑ることに慣れよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>4 滑ることに慣れよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>5 からだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>6 からだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション</p> <p>9 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション</p> <p>10 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション</p> <p>11 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション</p> <p>12 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト			
◆テキスト、参考文献			
<p>【テキスト】必要に応じて印刷物を配布します。 【参考文献】そのつど紹介します。</p>			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート b)	担当者	和田 智
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>【受講者への要望】 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから29センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<p>1 久しぶりにインラインスケート</p> <p>2 自由な動き作り：カーブ</p> <p>3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>6 自由な動き作り：フォアクロス</p> <p>7 自由な動き作り：フォアクロス</p> <p>8 自由な動き作り：バッククロス</p> <p>9 自由な動き作り：バッククロス</p> <p>10 インラインホッケー・実技テスト</p> <p>11 インラインホッケー・実技テスト</p> <p>12 インラインホッケー まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト			
◆テキスト、参考文献			
<p>【テキスト】必要に応じて印刷物を配布します。 【参考文献】そのつど紹介します。</p>			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインスケート a）	担当者	松原 裕
外共	体育Ⅰ・Ⅱ（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってインラインスケートが楽しめるように、基本技術と知識・マナーを学習し、楽しく実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもインラインスケートが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてインラインホッケーのゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。受講にふさわしい服装の準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 インラインスケートシューズ合せ。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 基本技術の確認と練習 フォア滑走、バック滑走、ストップ、ターンなど。</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 " "</p> <p>7 " "</p> <p>8 インラインホッケーの基本技術の確認と練習</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 技術テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインホッケー b）	担当者	松原 裕
外共	体育Ⅰ・Ⅱ（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってインラインホッケーが楽しめるように、ゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてインラインホッケーのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。インラインホッケーの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やオフィシャルなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明</p> <p>2 基本技術の確認と練習 フォア滑走、バック滑走、ストップ、ターンなど。</p> <p>3 インラインホッケーの基本技術の確認と練習</p> <p>4 グループ編成とゲーム</p> <p>5 " "</p> <p>6 " "</p> <p>7 グループ編成とゲーム（リーグ戦）</p> <p>8 " "</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（コーディネーショントレーニング） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	松原 裕
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>生涯にわたって運動が楽しめるように、自己の心身についての基本知識を学習し、運動のコーディネーション能力を高め、実践できるようにする。</p> <p>【講義の概要】</p> <p>この授業では、初心者・初級者でも運動が気軽に楽しめるように、基礎的な動きの習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてスノースポーツが出来るまでを目標とする。</p> <p>【受講生への要望】</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。受講にふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション（注意：春学期第1週の授業） 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 トレーニングルームの登録、体力測定。 （注意：秋学期第1週の授業）</p> <p>3 トランポリンと組み体操。</p> <p>4 バランストレーニング</p> <p>5 インラインスケート 6 " 7 " 8 " 9 インラインホッケー 10 " 11 インラインスキートレーニング</p> <p>12 スノースポーツ理論Ⅰ</p> <p>13 スノースポーツ理論Ⅱ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	松原 裕
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>生涯にわたってスノースポーツが楽しめるように、数種類のスノースポーツを経験し実践できるようにする。</p> <p>【講義の概要】</p> <p>今年度は秋学期の授業の継続。秋田県田沢湖スキー場にて2月下旬に実施。費用は宿泊と用具とリフト代で4万円と他に交通費。スキー・スノーボード・スノーブレード・ビッグフット・スノーシュー・ファンスキーを予定。</p> <p>【受講生への要望】</p> <p>自己の健康管理の継続。スノースポーツへの興味と理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。団体生活への協力。</p>		<p>場 所：秋田県田沢湖スキー場グループ編成。</p> <p>期 間：2月第4週を予定。4泊5日 （注意：卒業年度在籍者は登録できない）</p> <p>費 用：4万円 内訳は4泊12食・用具・旅行傷害保険等 （ウェアは各自で用意か別途負担）</p> <p>指導者：授業担当＋2名年生術の確認と練習 （受講者数により変更の可能性あり）</p> <p>日 程：午前2時間半・午後2時間半の各実習 夜1時間の講義</p> <p>*現地集合・現地解散</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要 【講義の目標】 生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。 【講義の概要】 この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。 また、中級者・上級者は、応用技術やゲームにおける戦術を習得する。 【受講生への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 テニスにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。		◆授業計画 1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。 2 グループ編成、テニスのマナー、グリップの確認など。 3 基本技術の確認と練習 グランドストローク、ボレー、サーブなど。 4 " " 5 " " 6 サーブ&レシーブ、ルール、審判法を学習し、ダブルスのゲームにおけるフォーメーションを理解する。 7 " " 8 ダブルスのゲーム（班別） 9 " " 10 " " 11 " " 12 " "	
◆ 評価方法 出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要 【講義の目標】 生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。 【講義の概要】 この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。 また、中級者・上級者は、応用技術やゲームにおける戦術を習得する。 【受講生への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 テニスにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。		◆授業計画 1 授業登録の確認と授業内容の説明。 グループ編成 2 基本技術の確認と練習 グランドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュの基本的な打ち方 3 " " 4 " " 5 サーブ&レシーブ、フォーメーションとポジショニングの学習 6 " " 7 ゲーム（リーグ戦） 8 " " 9 " " 10 " " 11 " " 12 まとめ	
◆ 評価方法 出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	田中茂宏
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。</p> <p>3 基本技術の練習。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
◆評価方法			
<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	田中茂宏
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。</p> <p>2 基本技術の練習。</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
◆評価方法			
<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。</p>			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a)	担当者	松原 裕
外共	体育Ⅰ・Ⅱ (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくダブルスゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。 テニスにふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 グループ編成、テニスのマナー、グリップの確認など。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 基本技術の確認と練習 グラウンドストローク、ボレー、サーブなど。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 サーブ&レシーブ、ルール、審判法の学習。 ダブルスのゲームにおけるフォーメーション。</p> <p>7 "</p> <p>8 ダブルスのゲーム (班別)</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 技術テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b)	担当者	松原 裕
外共	体育Ⅰ・Ⅱ (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってテニスが楽しめるように、ダブルスゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。ダブルスゲームの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やボールパーソンなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明 グループ編成。</p> <p>2 基本技術の確認と練習 グラウンドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュの基本的な打ち方</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 サーブ&レシーブ、フォーメーションとポジショニングの学習</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦)</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	山中邦夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>【講義概要】 ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>【受講者への要望】 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 ゴルフ競技の概要 (VTR と講義)</p> <p>3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>5 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。</p> <p>6 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。</p> <p>7 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。</p> <p>8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に9番アイアン)</p> <p>9 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>10 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>11 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に7番アイアン)</p> <p>12 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p>	
◆ 評価方法			
授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	山中邦夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>【講義概要】 ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>【受講者への要望】 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<p>1 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に5番アイアン)</p> <p>2 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>3 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン)</p> <p>4 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>5 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>6 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に9、7、5番アイアン)</p> <p>7 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>9 実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>10 実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>11 実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>12 実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p>	
◆ 評価方法			
授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田卓司
◆講義目的、講義概要 <p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		◆授業計画 1 オリエンテーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン (8、9、PW、SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する) 5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 7 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 8 ゴルフ練習場にて実習 (ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球) 9 (反復練習) 10 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 11 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 12 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)	
◆ 評価方法 出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。			
◆テキスト、参考文献 			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田卓司
◆講義目的、講義概要 <p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		◆授業計画 1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット (3、5、7、9、PW、SW) (個別指導とフォームのチェック) 3 1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習 4 ロングアイアン (3、4) ショット練習 5 ロングアイアン (3、4) ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 11 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 12 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習	
◆ 評価方法 出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。			
◆テキスト、参考文献 			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	檜山 康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>【講義概要】 ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>【受講者への要望】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 <p>◆評価方法</p> <p>授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション。 2 ボールに慣れること。試しのゲーム。 3 3対3もしくは4対4のゲーム。パスとサポート。 4 4対4もしくは5対5のゲーム。パスとサポート。 5 5対5もしくは6対6のゲーム。3人目の動き。 6 7対7もしくは8対8のハーフコートゲーム。3人目の動き。攻撃のリズム。 7 8対8もしくは9対9のハーフコートゲーム。プレッシャーのかけ方。 8 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方。 9 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方と全体の動き。 10 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	檜山 康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>【講義概要】 ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>【受講者への要望】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 <p>◆ 評価方法</p> <p>授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ポストプレーについて①。 2 ポストプレーについて②。 3 ポストプレーからの展開について①。 4 ポストプレーからの展開について② 5 ポストプレーを使って攻撃のリズムを作ることについて。 6 攻撃のリズムを作りながら、展開を変えていくことについて。 7 攻撃の幅について。 8 ポジションとシステムについて。 9 チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10 リーグ戦② 11 リーグ戦③ 12 リーグ戦④ 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松本光弘
◆講義目的、講義概要 <p>【講義の目標】 サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>【講義概要】 サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>【受講者への要望】 ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		◆授業計画 1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 " 5 " 6 ルールの解説 (雨天時に割り当てる) 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 " 9 " 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 " 12 サッカーの歴史 (雨天時に割り当てる)	
◆評価方法 出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 <p>【テキスト】「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社</p> <p>【参考文献】『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松本光弘
◆講義目的、講義概要 <p>【講義の目標】 サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>【講義概要】 サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>【受講者への要望】 ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		◆授業計画 1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 " 3 " 4 特殊戦術とフルゲーム 5 " 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 " 8 " 9 " 10 " 11 " 12 フルゲーム、評価	
◆評価方法 出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 <p>【テキスト】「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社</p> <p>【参考文献】『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズa) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要 心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に行い、全体的な体力について考える。		◆授業計画 1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、実施上の注意 2 トレーニンググループの使い方 体力測定について 3 トレーニングの理論と実践 筋力について(1) 4 トレーニングの理論と実践 筋力について(2) 5 トレーニングの理論と実践 筋力について(3) 6 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(1) 7 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(2) 8 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(3) 9 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(1) 10 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(2) 11 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(3) 12 トレーニングの理論と実践 体力測定及び評価	
◆ 評価方法 出席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。			
◆テキスト、参考文献 宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズb) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要 春学期に同じ		◆授業計画 1 トレーニングの理論と実践 食事について(1) 2 トレーニングの理論と実践 食事について(2) 3 トレーニングの理論と実践 食事について(3) 4 トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 5 トレーニングの理論と実践 心拍数について(1) 6 トレーニングの理論と実践 心拍数について(2) 7 トレーニングの理論と実践 心拍数について(3) 8 トレーニングの理論と実践 歩行について(1) 9 トレーニングの理論と実践 歩行について(2) 10 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(1) 11 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(2) 12 トレーニングの理論と実践 体力測定および評価	
◆ 評価方法 同			
◆テキスト、参考文献 同			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣功一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意ソフトボールの特質、ルール等について説明</p> <p>2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) ピッチング (スリングショット投法)</p> <p>3 ピッチング (スリングショット投法の復習およびウインドミル投法) トスバッティング</p> <p>4 ピッチング (各種投法の復習) ハーフバッティング</p> <p>5 守備練習 (基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング</p> <p>6 守備練習 (各ポジションの守備方法) シートノック</p> <p>7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習 (内野手の連携プレー)</p> <p>8 シートノックによる守備練習 (ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習</p> <p>9 審判の方法についての説明 チームの編成(1) (ポジション・打順を決める) 練習試合</p> <p>10 チーム練習 (試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D</p> <p>11 チーム練習 (トスバッティング) 試合 A~C、B~D</p> <p>12 チーム練習 (バント) 試合 A~D、B~C</p>	
◆ 評価方法			
評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣功一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 総合的練習(1) 審判方法の復習</p> <p>2 総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明</p> <p>3 チーム編成(2) (以下、各々試合 3 回ごとに編成をかえる) 練習試合</p> <p>4 チーム練習 (毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H</p> <p>5 チーム練習 試合 E~G、F~H</p> <p>6 チーム練習 試合 E~H、F~G</p> <p>7 チーム編成(3) チーム練習 試合 I~J、K~L</p> <p>8 チーム練習 試合 I~K、J~L</p> <p>9 チーム練習 試合 I~L、J~K</p> <p>10 チーム編成(4) チーム練習 試合 M~N、O~P</p> <p>11 チーム練習 試合 M~O、N~P</p> <p>12 チーム練習 試合 M~O、N~P</p>	
◆ 評価方法			
評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 個人的技能 基本技能 キャッチング</p> <p>3 スローイング 1対1での正確な技能の修得バッティング ノックとトスバッティング</p> <p>4 フリーバッティング正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける</p> <p>5 ピッチング</p> <p>6 集団的技能 連携プレー攻撃=バント及びヒットエンドラン</p> <p>7 タッチアッププレー守備=フォースプレー</p> <p>8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き</p> <p>9 カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション</p> <p>10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)</p> <p>11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。</p> <p>12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能 (捕球、送球、遠投) ・ゲーム結果 (集団、個人技能) <p>欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 個人技能 ゲーム ・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習</p> <p>2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など) を集計し成績を出し、技能を競い合う</p> <p>3 " "</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 " "</p> <p>7 " "</p> <p>8 " "</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 " "</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能 (捕球、送球、遠投) ・ゲーム結果 (集団、個人技能) <p>欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野元祐
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでほしい。</p>		<p>1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</p> <p>2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</p> <p>3 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。）独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>5 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>6 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>7 バンド練習。（グリップ、スタンス、セフティバンド）独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>8 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>9 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>10 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>11 前回の復習。 ゲーム実施。</p> <p>12 前回の復習。 ゲーム実施。</p>	
◆ 評価方法			
出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野元祐
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでほしい。</p>		<p>1 復習。 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>2 復習。 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>3 集団技能 (守備)、リレープレーを練習。 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>4 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (4)</p> <p>5 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>6 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>7 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>8 4 チームによるリーグ戦 (4)</p> <p>9 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>10 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>11 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>12 4 チームによるリーグ戦 (4)</p>	
◆ 評価方法			
出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野忠枝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成 2 競技場と用具について (準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方 3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う ミニ試合 4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合 5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルス試合方法と試合 6 サービスについて ボールの回転と ラケットの動きを練習 シングルス試合 7 審判法について学ぶ 8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合 9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合 10 上記に同じ 11 シングルス試合 12 まとめ シングルス試合 	
◆評価方法			
<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p></p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野忠枝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 復習 基本の動き シングルス試合 2 カットについて学ぶ シングルス試合 3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー 4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて 5 グループでダブルスの試合 6 上に同じ 7 上に同じ 8 上に同じ 9 シングルのトーナメント試合 10 シングルス ダブルスにわかれて試合 11 総復習 12 総復習と反省 	
◆評価方法			
<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p></p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（卓球 a） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	本田稔祐
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>【講義概要】 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>【受講者への要望】 授業の前日は早寝、当日は早起をして 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。特に初心者は形だけでも上手にできるようにする。ラケットはできれば個人で用意するように。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点、平常点、技能点、の3つで行う。（出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>『指導者のための卓球』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ。 倉木常夫他著 不昧堂出版 他</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明と個人資料カード作成（写真を必ず用意すること） 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え・フットワークなどの基本練習 4 フォアハンド・ロング・バックハンドショート・簡易ゲーム 5 バックハンド・ロング・ショートカット 簡易ゲーム 6 サーブ・レシーブ・能力別グループ内でのシングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い・ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション（卓球 b） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	本田稔祐
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>【講義概要】 シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>【受講者への要望】 授業の前日は早寝、当日は早起をして 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。特に初心者は形だけでも上手にできるようにする。ラケットはできれば個人で用意するように。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点、平常点、技能点、の3つで行う。（出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>『指導者のための卓球』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ。 倉木常夫他著 不昧堂出版 他</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成とチーム内シングルス・リーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルス・リーグ戦。 3 チーム対抗戦1 4 チーム対抗戦2 5 チーム対抗戦3 6 チーム対抗戦4 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 ダブルス・トーナメント戦 12 技能テスト 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>【講義概要】 バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4.セットオフェンス (ハーフコートにおける 3対2) 5.セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6.オールコートにおける試合 (班分けをする) 7.オールコートにおける試合 (班分けをする) 8.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 10.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 11.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 12.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>【講義概要】 バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	蓬郷 尚代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>【講義概要】 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2.基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>3.基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>4.オーバーナンバーの攻め方 (ハーフコートにおける 3対2)</p> <p>5.マンツーマンディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)</p> <p>6.オールコートにおける試合</p> <p>7.オールコートにおける試合</p> <p>8.リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)</p> <p>9.リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>10.リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>11.リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>12.リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p>	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	蓬郷 尚代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義の目標】 バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>【講義概要】 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 リーグ戦前の予備試合(リーグのためにチームの再編成)</p> <p>2 リーグ戦前の予備試合(リーグのためにチームの再編成)</p> <p>3 リーグ戦開始(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>4 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>5 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>6 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>7 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>8 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>9 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p>	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p> <p>◆受講者への要望</p> <p>毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、 次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。</p> <p>2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ</p> <p>3 基本的技術 ○ ストローク・オーバーヘッド (バック、フォア)・サイドアーム (フォア、バック)・アンダーハンド (フォア、バック)</p> <p>4 基本的技術 ○フットワーク 前後、左右 フライトの理解 ラケットワークとフライト (クリアー・ドライブ)</p> <p>5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス (フォア・バック) ○ショートサービスに対する対応 (プッシュ) ○基本的技術の復習</p> <p>6 " "</p> <p>7 " "</p> <p>8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得</p> <p>9 前回までの復習</p> <p>10 前回までの復習</p> <p>11 前回までの復習</p> <p>12 前回までの復習</p>	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p> <p>◆受講者への要望</p> <p>毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習</p> <p>2 " "</p> <p>3 " "</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 シングルの決勝リーグ戦</p> <p>7 " "</p> <p>8 " "</p> <p>9 ダブルスのリーグ戦</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 " "</p>	

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントンa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 年間授業計画の説明 実技実施上の諸注意 連絡事項の確認 2 バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3 ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4 クリヤー、ドロップの復習 ヘアピンの基本 5 各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6 半面シングルスの実施 カウント方法の確認 前 後へのフットワークの基本 7 半面シングルス 審判法の理解 審判の実施 8 ドライブの基本 正規のシングルスゲーム 9 スマッシュの基本 シングルスゲーム 10 各種ストロークの練習 ダブルスの基本 11 ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 12 リーグ戦の実施 	
◆ 評価方法			
出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。			
◆テキスト、参考文献			
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』ベースボールマガジン社			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントンb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2 ダブルスの組み合わせの決定 いくつかのグループによるリーグ戦 3 ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲーム中に生かす 4 ゲーム結果の分析 問題点の整理 ダブルスゲームの実施 5 ゲームの進行状況の確認 組み合わせを変えてのリーグ戦 6 ダブルスゲームの進行 課題をゲーム内で解決 7 ダブルスゲームの進行 ゲームの面白さの理解 8 ダブルスゲームの進行 高いレベルのゲーム 9 ゲームの中での課題の練習 組み合わせの変更 10 ゲームの中での課題の練習 相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習 11 ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員が実施 12 ゲームの進行 勝敗・順位について整理 	
◆ 評価方法			
同			
◆テキスト、参考文献			
同			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小川又八朗
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 基本技と動き (アンダー オーバー)、パスゲーム 1。</p> <p>3 レシーブとトス (ボールのつなぎ)、パスゲーム 2。</p> <p>4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム 3</p> <p>5 基本技と動き (アンダー フローターサーブ) サーブ レシーブ 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1</p> <p>6 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。</p> <p>7 チーム編成 (スターティングポジションの決定) サーブ レシーブのフォーメーション。サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>8 ゲーム、6チームによるリーグ戦。</p> <p>9 上記と同じ。8ゲーム、6チームによるリーグ戦。</p> <p>10 上記と同じ。</p> <p>11 上記と同じ。</p> <p>12 上記と同じ。まとめテスト</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社 『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小川又八朗
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 チーム編成 (スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。</p> <p>2 上記と同じ。</p> <p>3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>4 上記と同じ。</p> <p>5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に攻撃スパイク サーブ)</p> <p>6 上記と同じ。</p> <p>7 上記と同じ。</p> <p>8 ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に守りレシーブ ブロック)。</p> <p>9 上記と同じ。</p> <p>10 ゲーム (リーグ戦) 記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。</p> <p>11 上記と同じ</p> <p>12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー 審判法など知的理解度をテストする。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社 『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版</p>			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。</p> <p>2 基本技術と動き (アンダーハンドパス、オーバーハンドパス) 試しのゲーム</p> <p>3 アンダーハンドサーブ、レシーブ 試しのゲーム</p> <p>4 個人のレシーブ練習 (マンツーマン) スパイク練習</p> <p>5 様々な打ち方によるサーブ練習 試しのゲーム</p> <p>6 サーブレシーブフォーメーション アタックレシーブフォーメーション バレーボールのルールやゲーム運営法</p> <p>7 チーム編成</p> <p>8 ゲーム、チームによるリーグ戦</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 チーム編成</p> <p>2 グループ練習</p> <p>3 サーブレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>4 "</p> <p>5 スパイクレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦) ルールやゲームの運営法、さらにはゲーム内容の分析法を学習する。</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フットサル a)	担当者	松原 裕
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってフットサルが楽しめるように、フットサルの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもフットサルが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。 フットサルにふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 グループ編成、フットサルの歴史。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 フットサルのテクニック 競技特性、フィールドプレイヤーの技術、ゴールキーパーの技術。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 フットサルのシステムと戦術 システム、戦術。</p> <p>7 "</p> <p>8 フットサルのゲーム (審判法)</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 技術・審判テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
フットサル教本その他授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フットサル b)	担当者	松原 裕
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってフットサルが楽しめるように、ゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてフットサルのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。フットサルゲームの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やオフィシャルなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明 グループ編成。</p> <p>2 基本技術の確認と練習 フィールドプレイヤー、ゴールキーパー。</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 フォーメーションとポジショニングの学習</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦)</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フリスビーa)	担当者	和田 智
外共	体育Ⅰ・Ⅱ (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要]</p> <p>フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<p>1 オリエンテーション フライングディスクとは</p> <p>2 バックハンドスローとサイドアームスロー</p> <p>3 バックハンドスローとサイドアームスロー</p> <p>4 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>5 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>6 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>7 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>8 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>9 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>10 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>11 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>12 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて印刷物を配布します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フリスビーb)	担当者	和田 智
外共	体育Ⅰ・Ⅱ (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要]</p> <p>フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<p>1 秋学期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明</p> <p>2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>8 チーム編成とリーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて印刷物を配布します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス a)	担当者	青柳 多恵子
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかのかうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。</p> <p>目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動けることを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。</p>		<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 : ストレッチ・ダンスウォーク・ブルースステップ</p> <p>3 : ステップ I (ブルース・ワルツ)</p> <p>4 : ステップ II (チャチャ)</p> <p>5 : ステップ III (ワルツ B)</p> <p>6 : ステップ IV (クイック)</p> <p>7 : ステップ V (キューバンチャチャ)</p> <p>8 : ステップ VI (タンゴ)</p> <p>上記のステップを習熟度に応じて行う (ステップ I・II はマスターすること)</p>	
◆ 評価方法			
出席を重視			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス b)	担当者	青柳 多恵子
外共	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかのかうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。</p> <p>目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動けることを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。</p>		<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 : ストレッチ・ダンスウォーク・ブルースステップ</p> <p>3 : ステップ I (ブルース・ワルツ)</p> <p>4 : ステップ II (チャチャ)</p> <p>5 : ステップ III (ワルツ B)</p> <p>6 : ステップ IV (クイック)</p> <p>7 : ステップ V (キューバンチャチャ)</p> <p>8 : ステップ VI (タンゴ)</p> <p>上記のステップを習熟度に応じて行う (ステップ I・II はマスターすること)</p>	
◆ 評価方法			
出席を重視			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			

全カリ	English 111/112 a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line)を使用する。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 111/112 b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line)を使用する。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 121/122 a (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		◆授業計画	

全カリ	English 121/122 b (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		◆授業計画	

全カリ	English 141 a (ドイツ語・フランス語学科) English 141/142 a (経済・法学部)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。 教科書：統一教科書を使用。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		◆授業計画	

全カリ	English 141 b (独・仏学科) English 141/142 b (経済・法学部)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。 教科書：統一教科書を使用。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		◆授業計画	

全カリ	English 142 a (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。上級リスニング・会話。LL 教室は私用しない。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 142 b (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。上級リスニング・会話。LL 教室は私用しない。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 211/212 a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポートによる。</p> <p>◆テキスト、参考文献 担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 211/212 b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポートによる。</p> <p>◆テキスト、参考文献 担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 221/222 a (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。(1年次からの継続) 和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。パラグラフ・ライティングからより説得力のあるエッセイへと進む。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 221/222b (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。(1年次からの継続) 和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。パラグラフ・ライティングからより説得力のあるエッセイへと進む。 教科書：担当教員の指示に従うこと。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 241/242 a (法学部)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 TOEIC 対策につながるリスニング演習。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 241/242 b (法学部)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 TOEIC 対策につながるリスニング演習。</p> <p>◆評価方法 平常点・試験・レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ	English 110 a	担当者	保坂 華子
<p>◆講義目的、講義概要 英語の基礎力をつけていきましょう。</p> <p>語学の習得には「授業の参加者の積極性」が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。受講者各自に合わせた練習も予定しています。</p> <p>◆ 評価方法 出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」一やる気と努力を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストは受講者と相談の上決定します。他、必ず各自辞書を用意、持参すること。例:『リーダーズ英和辞典』</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 Introduction 2 Getting started with English 3- Practices July Working on the term-end assignment</p>	

全カリ	English 110 b	担当者	保坂 華子
<p>◆講義目的、講義概要 前期の続きで、さらに英語の基礎力を養いましょう。受講者各自に合わせた練習も予定しています。どんどん英語に接していきましょう。</p> <p>◆ 評価方法 出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」一やる気と努力を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 110b と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 Review 2- Practices December Working on the term-end assignment Last class Year-end review</p>	

全カリ	English121 a	担当者	山本英政
<p>◆講義目的、講義概要 自己表現を基礎としたパラグラフ・ライティング。パラグラフ・ライティングの授業である。短いながらも、英文としてきちっと相手に伝え得る内容と論理的な文の展開を学習する。必要に応じて文法の説明も加える。</p> <p>◆評価方法 普段の発表と出席 文の提出、試験</p> <p>◆テキスト、参考文献 On Your Way to Paragraph Writing</p>		<p>◆授業計画 最初の授業で詳細に説明する</p>	

全カリ	English121 b	担当者	山本英政
<p>◆講義目的、講義概要 自己表現を基礎としたパラグラフ・ライティング。パラグラフ・ライティングの授業である。短いながらも、英文としてきちっと相手に伝え得る内容と論理的な文の展開を学習する。必要に応じて文法の説明も加える。</p> <p>◆評価方法 普段の発表と出席 文の提出、試験</p> <p>◆テキスト、参考文献 On Your Way to Paragraph Writing</p>		<p>◆授業計画 最初の授業で詳細に説明する</p>	

全カリ	English 121a	担当者	岡田 圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>このコースは独仏の選択科目としてのライティングです。</p> <p>書くことは非常に知的な作業であり、自己発信をすることのできる重要なコミュニケーション手段です。現代社会ではどうしても英語リスニングやスピーキングに重点をおく傾向がありますが、ライティングをおろそかにしては決して英語力は伸びません。</p> <p>このコースでは高校レベルの「英作文」から脱却し、大学レベルの「アカデミック・ライティング」への橋渡しをすることを目的に、積極的に書く訓練をします。</p> <p>授業中の作文、宿題、テスト、ポートフォリオを総合して評価します。非常に負担の多いコースですが、学期末にはきちんとしたパラグラフが書けるようになります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>*出席、授業内での作文、宿題の作文、テスト、ポートフォリオを総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>First Steps in Academic Writing</i> Addison Wesley Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Writing about people 3. Narration 4. Narration 5. Description 6. Description 7. Paragraph Organization 8. Paragraph Organization 9. More about Paragraph Organization 10. More about Paragraph Organization 11. Review of the semester/TWE Practice 12. Review of the semester/TWE Practice 	

全カリ	English 121b	担当者	岡田圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>このコースは独仏の選択科目としてのライティングです。</p> <p>121a の継続としてパラグラフの延長としてのエッセイの書き方を学びます。春学期に引き続きポートフォリオを作成していただきます。また、秋学期は宿題はすべてワープロを使って書いていただきます。</p> <p>授業が終了することには自分のライティング力が1年前とは「まったく」違うことを「はっきり」実感することでしょう。</p> <p>春学期に引き続き負担の多いコースですが、得るものの多いコースだと確信しています。やる気のある皆さんの受講を期待しています。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>*出席、授業内での作文、宿題の作文、テスト、ポートフォリオを総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>First Steps in Academic Writing</i> Addison Wesley Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Review of Paragraph Organization 2. Essay Organization 3. Essay Organization 4. Essay Organization 5. Logical Division of Ideas 6. Logical Division of Ideas 7. Supporting an Opinion 8. Supporting an Opinion 9. Comparison-Contrast 10. Comparison-Contrast 11. Review of the semester/TWE practice 12. Review of the semester/TWE practice 	

全カリ	English 131a	担当者	E. R Howe
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p style="text-align: center;">COMPARATIVE CULTURE</p> <p>Course Description</p> <p>The purpose of this course is to improve students' English communication skills while introducing current events and the lived experiences of people in different cultures. Furthermore, it will facilitate students' personal expression and critical thinking through content-based discussions and presentations. Class participation is encouraged through pair work, discussion and other activities to prepare for the presentation of a national case study in the next semester.</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • Participation 60 % • Listening Test 40 % <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Lee, L., Yoshida, K. & Ziolkowski, S. (2000). <i>J-Talk</i>. Tokyo: Oxford University Press.</p>		<p>◆授業計画</p> <p style="text-align: center;">COMPARATIVE CULTURE</p> <p>Course Requirements</p> <p>Students are expected to actively participate in class activities and to be prepared to contribute to class discussions. Regular attendance, punctuality and participation are minimum requirements for passing this course. More than 4 absences per semester will result in failure. Each semester, students will write a listening test based on all class work. Also, in the second semester, students will prepare a presentation on a national case study for class discussion.</p> <p>Students will be provided with up-to-date web sites, periodicals and other handouts from the instructor each week.</p>	

全カリ	English 131 b	担当者	E. R. Howe
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p style="text-align: center;">COMPARATIVE CULTURE</p> <p>Course Description</p> <p>English 131b is a continuation of English 131a. The purpose of this course is to improve students' English communication skills while introducing current events and the lived experiences of people in different cultures. Furthermore, it will facilitate students' personal expression and critical thinking through content-based discussions and presentations. Class participation is encouraged through pair work, discussion and activities culminating in a presentation of a national case study.</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • Presentation 50 % • Participation 30 % • Listening Test 20 % <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Lee, L., Yoshida, K. & Ziolkowski, S. (2000). <i>J-Talk</i>. Tokyo: Oxford University Press.</p>		<p>◆授業計画</p> <p style="text-align: center;">COMPARATIVE CULTURE</p> <p>Course Requirements</p> <p>Students are expected to actively participate in class activities and to be prepared to contribute to class discussions. Regular attendance, punctuality and participation are minimum requirements for passing this course. More than 4 absences per semester will result in failure. Each semester, students will write a listening test based on all class work. Also, in the second semester, students will prepare a presentation on a national case study for class discussion.</p> <p>Students will be provided with up-to-date web sites, periodicals and other handouts from the instructor each week.</p>	

全カリ	English 131a	担当者	G. F. Robin
<p>◆講義目的、講義概要 This course will on developing English conversational skills using grammar and vocabulary acquired from previous study. It is designed for students who have had little opportunity to use English to speak to others.</p> <p>◆評価方法 Students will be graded on classroom participation, homework, and a speaking test at the end of each term.</p> <p>◆テキスト、参考文献 FIFTY-FIFTY Book 1, by Wilson and Bernard (Longmans)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Abilities 2. Time 3. Daily Routines 4. Location 5. Directions 6. Personal Information 7. Family 8. Likes and Dislikes 9. The Future 10. The Past 11. Describing People 12. In a Restaurant 13. Rehearsal Class 14. Speaking Test 	

全カリ	English 131b	担当者	G. F. Robin
<p>◆講義目的、講義概要 Continuing from the previous term, this course will develop new grammar and vocabulary for the purpose of improving English speaking skills.</p> <p>◆評価方法 Students will be graded on classroom participation, homework, and a speaking test at the end of the term.</p> <p>◆テキスト、参考文献 NEW ALL TALK Book 2 by David Peaty (Macmillan)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hometown 2. Holidays 3. Experiences 4. Possessions 5. Ability 6. Advice 7. Personality 8. Agreeing and Disagreeing 9. Phonecalls, appointments 10. Communication Strategies 11. Instructions 12. Rehearsal 13. Speaking test 	

全カリ	English 131a	担当者	G. G. Koch
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Communicative English (Speaking) This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>No text Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	

全カリ	English 131b	担当者	G. G. Koch
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Communicative English (Speaking) This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>No text Material will be downloaded from a web page</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	

全カリ	English 131a	担当者	C. Carpenter						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>As you know, English is today's <i>language of international communication</i>. People all over the world, from many different cultures, use English as a 1st or 2nd language and as a tool for communicating in <i>business, law, entertainment, and cultural exchange</i>. In the future, as Japanese professionals, you may need English to communicate with other professionals and business people from countries like <i>China, Korea, Indonesia, Singapore, and India</i>, not to mention <i>England, Canada, and America</i>. This class will encourage you to think of English as a skill and a tool. It is not something to memorize – it is something to use!</p> <p>Objectives: This course will help you express yourself in English in <i>discussion, debate, presentation and public speaking</i>. Of course, both accuracy [正確] and fluency [流暢] are important for communication, but this course will treat English as a tool and will emphasize your ability to fluently communicate your ideas. One goal of this course will be to raise your confidence level by creating situations for successful communication in English. Furthermore, this course will encourage you to become an independent language learner, and not be dependent on tests (or teachers) for your second language development.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <table> <tr> <td>Homework:</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>Participation:</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>Projects / Presentations:</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>※ Attendance Policy: <i>Attendance is required</i>. After your third (3rd) absence in a semester, you will receive a written warning (and an email warning). After your fourth (4th) absence, you will receive a failing grade (F) for the semester.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The textbook will be announced after the 1st week of class.</p> <p>◆授業計画</p> <p>A tentative course schedule will be distributed after the 1st week of class. Students will have some input into course topics and the schedule.</p>		Homework:	25%	Participation:	25%	Projects / Presentations:	50%
Homework:	25%								
Participation:	25%								
Projects / Presentations:	50%								

全カリ	English 131b	担当者	C. Carpenter						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>As you know, English is today's <i>language of international communication</i>. People all over the world, from many different cultures, use English as a 1st or 2nd language and as a tool for communicating in <i>business, law, entertainment, and cultural exchange</i>. In the future, as Japanese professionals, you may need English to communicate with other professionals and business people from countries like <i>China, Korea, Indonesia, Singapore, and India</i>, not to mention <i>England, Canada, and America</i>. This class will encourage you to think of English as a skill and a tool. It is not something to memorize – it is something to use!</p> <p>Objectives: This course will help you express yourself in English in <i>discussion, debate, presentation and public speaking</i>. Of course, both accuracy [正確] and fluency [流暢] are important for communication, but this course will treat English as a tool and will emphasize your ability to fluently communicate your ideas. One goal of this course will be to raise your confidence level by creating situations for successful communication in English. Furthermore, this course will encourage you to become an independent language learner, and not be dependent on tests (or teachers) for your second language development.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <table> <tr> <td>Homework:</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>Participation:</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>Projects / Presentations:</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>※ Attendance Policy: <i>Attendance is required</i>. After your third (3rd) absence in a semester, you will receive a written warning (and an email warning). After your fourth (4th) absence, you will receive a failing grade (F) for the semester.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The textbook will be announced after the 1st week of class.</p> <p>◆授業計画</p> <p>A tentative course schedule will be distributed after the 1st week of class. Students will have some input into course topics and the schedule.</p>		Homework:	25%	Participation:	25%	Projects / Presentations:	50%
Homework:	25%								
Participation:	25%								
Projects / Presentations:	50%								

全カリ	English 211a	担当者	岡田 圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>このコースは、経済学部を選択科目としての英語リーディングです。</p> <p>現代社会において英語リスニングやスピーキングが重要視される傾向がありますが、リーディングとライティングをおろそかにしては英語力は絶対に身につけません。</p> <p>このコースは、日本でもの作りを行っている企業についてのエッセイを読み、考えることを中心とします。</p> <p>現在の英語力は問いませんが、全回出席して熱心に予習、復習ができる学生に限り受講を認めます。必ず読解の力がつく授業をします。</p> <p>◆ 評価方法 *出席、小テスト、課題、期末テストを総合して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 独自教材を使用する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 日本の企業について読む「カゴメ」 3 「カゴメ」の続き 4 「資生堂」 5 「資生堂」の続き 6 「日清製粉」 7 「日清製粉」の続き 8 「松下電器」 9 「松下電器」の続き 10 「NTTドコモ」 11 「NTTドコモ」の続き 12 「シメックス」 	

全カリ	English 211b	担当者	岡田 圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>このコースは、経済学部を選択科目としての英語リーディングです。</p> <p>春学期の継続として、日本の企業についてのエッセイを読み、読解力、内容把握力、簡単な専門語を含む語彙力の充実をはかります。さらに読んだものについて自分の意見を持ち、それを表現する方法についても訓練します。</p> <p>春学期同様、必要に応じて文法解説も行い、総合的に力がつくような授業構成にします。</p> <p>春学期同様、受講者の現在の英語力は問いませんが、全回出席して熱心に予習、復習ができる学生に限り受講を認めます。</p> <p>◆ 評価方法 *出席、小テスト、課題、期末テストを総合して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 独自教材を使用する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション「中村ブレース」 2 「中村ブレース」の続き 3 「タマノイ酢」 4 「タマノイ酢」の続き 5 「楽天」 6 「楽天」の続き 7 「サカタの種」 8 「サカタの種」の続き 9 「ミズノ」 10 「ミズノ」の続き 11 「味の素」 12 「味の素」の続き 	

全カリ	English351	担当者	安井美代子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて、2ないし3レベルに分け、それぞれのレベルの応じて、週5時間程度の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の単語テストを受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。単語テストの範囲は「講義支援システム」上でテスト前の日曜日まで公開する。</p> <p>学期完結の2単位科目。重複履修不可。受講対象は全学部の上2 - 4年生。3レベルに分ける場合、TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は火曜日5限、水曜日3限、木曜日5限中央棟606にて対応する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどAの割合を多くする。定期試験は、スタンダードコースのリーディング教材に準拠した問題50%、その他の問題50%を予定。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回単語テスト 4 第2回単語テスト 5 第3回単語テスト 6 第4回単語テスト 7 第5回単語テスト 8 第6回単語テスト 9 第7回単語テスト 10 第8回単語テスト 	

全カリ	English351	担当者	安井美代子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期と同一</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

全カリ 外共	ドイツ語 I A a 基礎ドイツ語 I (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通し身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>矢羽々 崇:『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p> <p>Step 1 ~ Step 5</p>	

全カリ 外共	ドイツ語 I A b 基礎ドイツ語 I (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通し身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>矢羽々 崇:『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p> <p>Step 6 ~ Step 9</p>	

全カリ	ドイツ語 I B a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1)ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2)言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通し身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>矢羽々 崇:『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p> <p>Step 1 ~ Step 5</p>	

全カリ	ドイツ語 I B b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1)ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2)言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通し身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>矢羽々 崇:『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『ドイツ語一年生—ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社)2003年</p> <p>Step 6 ~ Step 9</p>	

全カリ	ドイツ語 I C a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何よりも重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p> <p>◆ 評価方法 学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 佐藤修子+伊藤祐紀子：『CD 付き・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』（三修社）2003 年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『CD 付き・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』（三修社）2003 年</p> <p>Lektion 1 ~ Lektion 6</p>	

全カリ	ドイツ語 I C b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何よりも重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p> <p>◆ 評価方法 学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 佐藤修子+伊藤祐紀子：『CD 付き・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』（三修社）2003 年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『CD 付き・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』（三修社）2003 年</p> <p>Lektion 7 ~ Lektion 12</p>	

全カリ 外共	ドイツ語ⅡA a 基礎ドイツ語Ⅱ	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>1年次に学習したことを土台に、実践的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog-ベーシック版・CD付き』（郁文堂）2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『Dialog-ベーシック版・CD付き』（郁文堂）2001年</p> <p>Lektion 1 ~ Lektion 10</p>	

全カリ 外共	ドイツ語ⅡA b 基礎ドイツ語Ⅱ	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>1年次に学習したことを土台に、実践的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog-ベーシック版・CD付き』（郁文堂）2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『Dialog-ベーシック版・CD付き』（郁文堂）2001年</p> <p>Lektion 11 ~ Lektion 16</p>	

全カリ	ドイツ語ⅡB a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog-ベーシック版・CD付き』(郁文堂)2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『Dialog-ベーシック版・CD付き』(郁文堂)2001年</p> <p>Lektion 1 ~ Lektion 10</p>	

全カリ	ドイツ語ⅡB b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog-ベーシック版・CD付き』(郁文堂)2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『Dialog-ベーシック版・CD付き』(郁文堂)2001年</p> <p>Lektion 11 ~ Lektion 16</p>	

全カリ	ドイツ語ⅡC a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わっててください。</p> <p>◆ 評価方法 学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』(三修社) 2004年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『CD付き・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』</p> <p>Lektion 1 ~ Lektion 6</p>	

全カリ	ドイツ語ⅡC b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってってください。</p> <p>◆ 評価方法 学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』(三修社) 2004年</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『CD付き・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』</p> <p>Lektion 7 ~ Lektion 12</p>	

<p>全カリ 外共</p>	<p>フランス語 I A a 基礎フランス語 I(通年)</p>	<p>担当者</p>	<p>各担当教員</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>これは週 1 回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>春学期では MOSAÏQUES の leçon5 まで進みます。授業はビデオと MD を使って行ないます。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は担当の先生により異なります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生により指示されます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>MOSAÏQUES</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音とつづり字の読み方 <hr/> 2. 発音とつづり字の読み方 <hr/> 3. 第 1 課 <hr/> 4. 第 2 課 <hr/> 5. 第 2 課 <hr/> 6. 第 3 課 <hr/> 7. 第 3 課 <hr/> 8. 第 4 課 <hr/> 9. 第 4 課 <hr/> 10. 第 5 課 <hr/> 11. 第 5 課 <hr/> 12. まとめ <hr/> 	
<p>全カリ 外共</p>	<p>フランス語 I A b 基礎フランス語 I(通年)</p>	<p>担当者</p>	<p>各担当教員</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>これは週 1 回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>春学期では MOSAÏQUES の leçon6 から leçon9 が 10 まで進みます。授業はビデオと MD を使って行ないます。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は担当の先生により異なります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生により指示されます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>MOSAÏQUES</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 6 課 <hr/> 2. 第 6 課 <hr/> 3. 第 6 課 <hr/> 4. 第 7 課 <hr/> 5. 第 7 課 <hr/> 6. 第 7 課 <hr/> 7. 第 8 課 <hr/> 8. 第 8 課 <hr/> 9. 第 8 課 <hr/> 10. 第 9 課 <hr/> 11. 第 9 課 <hr/> 12. 第 9 課 <hr/> 	

全カリ	フランス語 I B a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。IB は日本人、1C はフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>IB ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の核先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. 発音 (1)</p> <hr/> <p>2. 発音 (2)</p> <hr/> <p>3. unité 1 leçon 1</p> <hr/> <p>4. unité 1 leçon 2</p> <hr/> <p>5. unité 1 leçon 3</p> <hr/> <p>6. unité 1 leçon 4</p> <hr/> <p>7. unité 2 leçon 5</p> <hr/> <p>8. unité 2 leçon 6</p> <hr/> <p>9. unité 2 leçon 7</p> <hr/> <p>10. unité 2 leçon 8</p> <hr/> <p>11. unité 3 leçon 9</p> <hr/> <p>12. unité 3 leçon 10</p> <hr/>	
全カリ	フランス語 I B b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。IB は日本人、1C はフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>IB ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の核先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. unité 3 leçon 11</p> <hr/> <p>2. unité 3 leçon 12</p> <hr/> <p>3. unité 4 leçon 13</p> <hr/> <p>4. unité 4 leçon 14</p> <hr/> <p>5. unité 4 leçon 15</p> <hr/> <p>6. unité 4 leçon 16</p> <hr/> <p>7. unité 5 leçon 17</p> <hr/> <p>8. unité 5 leçon 18</p> <hr/> <p>9. unité 5 leçon 19</p> <hr/> <p>10. unité 5 leçon 20</p> <hr/> <p>11. bilan(1)</p> <hr/> <p>12. bilan (2)</p> <hr/>	

全カリ	フランス語 I C a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力をつけることを目指します。 フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の核先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
全カリ	フランス語 I C b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力をつけることを目指します。 フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の核先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan(1) 12. bilan (2) 	

全カリ 外共	フランス語Ⅱ A a 基礎フランス語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 これは一年次のフランス語 I(基礎フランス語 I)に引き続き、週 1 回の授業でフランス語の基礎を学ぶコースの 2 年目です。</p> <p>教科書は引き続き MOSAÏQUES を用い、leçon9 あるいは leçon10 から始まって、leçon16 まで進み、その後 annexes を学習します。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、これは目安で、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>授業はビデオと MD を用いて行ないます。</p> <p>◆ 評価方法 担当の先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 MOSAÏQUES</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 10 課 2. 第 10 課 3. 第 10 課 4. 第 11 課 5. 第 11 課 6. 第 11 課 7. 第 12 課 8. 第 12 課 9. 第 12 課 10. 第 13 課 11. 第 13 課 12. 第 13 課 		
全カリ 外共	フランス語Ⅱ A b 基礎フランス語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 これは一年次のフランス語 I(基礎フランス語 I)に引き続き、週 1 回の授業でフランス語の基礎を学ぶコースの 2 年目です。</p> <p>教科書は引き続き MOSAÏQUES を用い、leçon14 から始まって、leçon16 と付録の部分まで進みません。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、これは目安で、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>◆ 評価方法 担当の先生が指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 MOSAÏQUES</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 14 課 2. 第 14 課 3. 第 14 課 4. 第 15 課 5. 第 15 課 6. 第 15 課 7. 第 16 課 8. 第 16 課 9. 第 16 課 10. Complémentaire 5 11. Lyon vous aimerez. 12. まとめ 		

全カリ	フランス語Ⅱ B a	担当者	各担当教員																																				
<p>◆講義目的、講義概要 これは1年次のフランス語 IB に引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。IB は日本人、IC はフランス人が担当します。</p> <p>IB では文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p> <p>◆ 評価方法 担当の先生より指示があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献 INITIAL vol.1 INITIAL vol.2</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="820 226 1469 936"> <tr><td>1. INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5. INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8.</td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>		1. INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.	unité 6	leçon 22	3.	unité 6	leçon 23	4.	unité 6	leçon 24	5. INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.	unité 1	leçon 2	7.	unité 1	leçon 3	8.	unité 1	leçon 4	9.	unité 2	leçon 5	10.	unité 2	leçon 6	11.	unité 2	leçon 7	12.	unité 2	leçon 8
1. INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																					
2.	unité 6	leçon 22																																					
3.	unité 6	leçon 23																																					
4.	unité 6	leçon 24																																					
5. INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																					
6.	unité 1	leçon 2																																					
7.	unité 1	leçon 3																																					
8.	unité 1	leçon 4																																					
9.	unité 2	leçon 5																																					
10.	unité 2	leçon 6																																					
11.	unité 2	leçon 7																																					
12.	unité 2	leçon 8																																					
全カリ	フランス語Ⅱ B b	担当者	各担当教員																																				
<p>◆講義目的、講義概要 これは1年次のフランス語 IB に引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。IB は日本人、IC はフランス人が担当します。</p> <p>IB では文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p> <p>◆ 評価方法 担当の先生より指示があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献 INITIAL vol.1 INITIAL vol.2</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="820 1234 1469 1944"> <tr><td>1.</td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>		1.	unité 3	leçon 9	2.	unité 3	leçon 10	3.	unité 3	leçon 11	4.	unité 3	leçon 12	5.	unité 4	leçon 13	6.	unité 4	leçon 14	7.	unité 4	leçon 15	8.	unité 4	leçon 16	9.	unité 5	leçon 17	10.	unité 5	leçon 18	11.	unité 5	leçon 19	12.	unité 5	leçon 20
1.	unité 3	leçon 9																																					
2.	unité 3	leçon 10																																					
3.	unité 3	leçon 11																																					
4.	unité 3	leçon 12																																					
5.	unité 4	leçon 13																																					
6.	unité 4	leçon 14																																					
7.	unité 4	leçon 15																																					
8.	unité 4	leçon 16																																					
9.	unité 5	leçon 17																																					
10.	unité 5	leçon 18																																					
11.	unité 5	leçon 19																																					
12.	unité 5	leçon 20																																					

全カリ	フランス語ⅡC a	担当者	各担当教員																																				
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>これは1年次のフランス語IBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。IBは日本人、ICはフランス人が担当します。</p> <p>ICでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生より指示されます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1 INITIAL vol.2</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1. INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5. INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8 ;</td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>			1. INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.	unité 6	leçon 22	3.	unité 6	leçon 23	4.	unité 6	leçon 24	5. INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.	unité 1	leçon 2	7.	unité 1	leçon 3	8 ;	unité 1	leçon 4	9.	unité 2	leçon 5	10.	unité 2	leçon 6	11.	unité 2	leçon 7	12.	unité 2	leçon 8
1. INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																					
2.	unité 6	leçon 22																																					
3.	unité 6	leçon 23																																					
4.	unité 6	leçon 24																																					
5. INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																					
6.	unité 1	leçon 2																																					
7.	unité 1	leçon 3																																					
8 ;	unité 1	leçon 4																																					
9.	unité 2	leçon 5																																					
10.	unité 2	leçon 6																																					
11.	unité 2	leçon 7																																					
12.	unité 2	leçon 8																																					
全カリ	フランス語ⅡC b	担当者	各担当教員																																				
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>これは1年次のフランス語IBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。IBは日本人、ICはフランス人が担当します。</p> <p>ICでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当の先生より指示されます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>INITIAL vol.1 INITIAL vol.2</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1. INITIAL vol.2</td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>			1. INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9	2.	unité 3	leçon 10	3.	unité 3	leçon 11	4.	unité 3	leçon 12	5.	unité 4	leçon 13	6.	unité 4	leçon 14	7.	unité 4	leçon 15	8.	unité 4	leçon 16	9.	unité 5	leçon 17	10.	unité 5	leçon 18	11.	unité 5	leçon 19	12.	unité 5	leçon 20
1. INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9																																					
2.	unité 3	leçon 10																																					
3.	unité 3	leçon 11																																					
4.	unité 3	leçon 12																																					
5.	unité 4	leçon 13																																					
6.	unité 4	leçon 14																																					
7.	unité 4	leçon 15																																					
8.	unité 4	leçon 16																																					
9.	unité 5	leçon 17																																					
10.	unité 5	leçon 18																																					
11.	unité 5	leçon 19																																					
12.	unité 5	leçon 20																																					

全カリ スペイン語 I A a 外共 基礎スペイン語 I (通年)	担当者	各担当教員								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="826 277 1477 902"> <tr><td>1 発音・アクセント</td></tr> <tr><td>2 名詞の性・数、冠詞</td></tr> <tr><td>3 形容詞</td></tr> <tr><td>4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用</td></tr> <tr><td>5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用</td></tr> <tr><td>6 ser, estar 動詞の使い方</td></tr> <tr><td>7 代名詞の使い方</td></tr> <tr><td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td></tr> </table>		1 発音・アクセント	2 名詞の性・数、冠詞	3 形容詞	4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用	5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用	6 ser, estar 動詞の使い方	7 代名詞の使い方	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 発音・アクセント										
2 名詞の性・数、冠詞										
3 形容詞										
4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用										
5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用										
6 ser, estar 動詞の使い方										
7 代名詞の使い方										
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。										

全カリ スペイン語 I A b 外共 基礎スペイン語 I (通年)	担当者	各担当教員						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I Aa に引き続き、<u>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="826 1326 1477 1794"> <tr><td>1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ</td></tr> <tr><td>2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ</td></tr> <tr><td>3 代名詞の使い方</td></tr> <tr><td>4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用</td></tr> <tr><td>5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</td></tr> <tr><td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td></tr> </table>		1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ	2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ	3 代名詞の使い方	4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用	5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ								
2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ								
3 代名詞の使い方								
4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用								
5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用								
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。								

全カリ スペイン語 I B a	担当者	各担当教員								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、スペイン語 I Ca とのペア履修を</u>要望する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="798 224 1460 884"> <tr><td>1 発音・アクセント</td></tr> <tr><td>2 名詞の性・数、冠詞</td></tr> <tr><td>3 形容詞</td></tr> <tr><td>4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用</td></tr> <tr><td>5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用</td></tr> <tr><td>6 ser, estar 動詞の使い方</td></tr> <tr><td>7 代名詞の使い方</td></tr> <tr><td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td></tr> </table>		1 発音・アクセント	2 名詞の性・数、冠詞	3 形容詞	4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用	5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用	6 ser, estar 動詞の使い方	7 代名詞の使い方	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 発音・アクセント										
2 名詞の性・数、冠詞										
3 形容詞										
4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用										
5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用										
6 ser, estar 動詞の使い方										
7 代名詞の使い方										
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。										

全カリ スペイン語 I B b	担当者	各担当教員						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I Ba に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、会話コースのスペイン語 I Cb とのペア履修を</u>要望する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="798 1288 1460 1769"> <tr><td>1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ</td></tr> <tr><td>2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ</td></tr> <tr><td>3 代名詞の使い方</td></tr> <tr><td>4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用</td></tr> <tr><td>5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</td></tr> <tr><td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td></tr> </table>		1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ	2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ	3 代名詞の使い方	4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用	5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ								
2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ								
3 代名詞の使い方								
4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用								
5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用								
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。								

全カリ スペイン語 I C a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、</u>スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 I Ba とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I Ba の「授業計画」を参照のこと。</p>	

全カリ スペイン語 I C b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I Ca に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、</u>文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 I Bb とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I Bb の「授業計画」を参照のこと。</p>	

全カリ スペイン語 II A a 外共 基礎スペイン語II(通年)	担当者	各担当教員				
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語IAabの継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』(芸林書房) および、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習</td></tr> <tr><td>2 動詞の活用 --- 直説法線過去</td></tr> <tr><td>3 点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>4 比較表現</td></tr> <tr><td>5 過去分詞と現在分詞</td></tr> </table> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習	2 動詞の活用 --- 直説法線過去	3 点過去と線過去の違い	4 比較表現	5 過去分詞と現在分詞
1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習						
2 動詞の活用 --- 直説法線過去						
3 点過去と線過去の違い						
4 比較表現						
5 過去分詞と現在分詞						

全カリ スペイン語 II A b 外共 基礎スペイン語II(通年)	担当者	各担当教員				
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語IIAa に引き続き、<u>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形</td></tr> <tr><td>2 動詞の活用 --- 現在進行形</td></tr> <tr><td>3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形</td></tr> <tr><td>4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形</td></tr> <tr><td>5 命令表現</td></tr> </table> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形	2 動詞の活用 --- 現在進行形	3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形	4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形	5 命令表現
1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形						
2 動詞の活用 --- 現在進行形						
3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形						
4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形						
5 命令表現						

全カリ スペイン語ⅡB a	担当者	各担当教員						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語 IBab の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、スペイン語 IICa とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="820 277 1469 734"> <tr> <td>1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習</td> </tr> <tr> <td>2 動詞の活用 --- 直説法線過去</td> </tr> <tr> <td>3 点過去と線過去の違い</td> </tr> <tr> <td>4 比較表現</td> </tr> <tr> <td>5 過去分詞と現在分詞</td> </tr> <tr> <td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td> </tr> </table>		1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習	2 動詞の活用 --- 直説法線過去	3 点過去と線過去の違い	4 比較表現	5 過去分詞と現在分詞	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習								
2 動詞の活用 --- 直説法線過去								
3 点過去と線過去の違い								
4 比較表現								
5 過去分詞と現在分詞								
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。								

全カリ スペイン語ⅡB b	担当者	各担当教員						
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 IIBa に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p><u>基本的には、会話コースのスペイン語 IICb とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="809 1328 1458 1794"> <tr> <td>1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形</td> </tr> <tr> <td>2 動詞の活用 --- 現在進行形</td> </tr> <tr> <td>3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形</td> </tr> <tr> <td>4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形</td> </tr> <tr> <td>5 命令表現</td> </tr> <tr> <td>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</td> </tr> </table>		1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形	2 動詞の活用 --- 現在進行形	3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形	4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形	5 命令表現	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
1 動詞の活用 --- 直説法現在完了形								
2 動詞の活用 --- 現在進行形								
3 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形								
4 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形								
5 命令表現								
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。								

全カリ スペイン語ⅡC a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBa とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBa の項目と同じであるが、スペイン語 IICa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBa の「授業計画」を参照のこと。</p>	

全カリ スペイン語ⅡC b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I Ca に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBb とのペア履修を要望する。</u></p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBb の項目と同じであるが、スペイン語 IICb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBb の「授業計画」を参照のこと。</p>	

全カリ 外共	中国語 I Aa 基礎中国語 I (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>入門にあたって、しばらく「漢字」や「文法」にあまりこだわることなく、「発音」に重点をおいて、外国語としての中国語の門をくぐることができるように、言い換えれば、口頭練習を通して自然に中国語の基礎が身につくように図る授業です。</p> <p>必要な学習事項は教科書の例文中に盛り込んでありますので、受講者にとって、とにかく「耳」と「口」を駆使して学ぶことが大切です。</p> <p>課本文の対話も、日本語訳が付記されていますので、まるごと暗誦する意気込みで練習してください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『新版例解中国語入門你问我答』白帝社 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>	<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書：発音／第1課 ～ 第9課</p> <p>(内容)</p> <p>形容詞述語文／動詞述語文／名詞述語文 各種疑問文／ 助数詞／代詞／接続詞／副詞</p> <p>日常のあいさつ／数の数え方 年月日の表し方／曜日の表し方 時刻と時間の表し方</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>		

全カリ 外共	中国語 I Ab 基礎中国語 I (通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>入門にあたって、しばらく「漢字」や「文法」にあまりこだわることなく、「発音」に重点をおいて、外国語としての中国語の門をくぐることができるように、言い換えれば、口頭練習を通して自然に中国語の基礎が身につくように図る授業です。</p> <p>必要な学習事項は教科書の例文中に盛り込んでありますので、受講者にとって、とにかく「耳」と「口」を駆使して学ぶことが大切です。</p> <p>課本文の対話も、日本語訳が付記されていますので、まるごと暗誦する意気込みで練習してください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『新版例解中国語入門你问我答』白帝社</p>	<p>◆授業計画</p> <p>教科書：第10課 ～ 第20課</p> <p>(内容)</p> <p>3つのアスペクト助詞 各種助動詞／各種前置詞 各種語気助詞／各種補語 使役表現と兼語式／受身表現 “把”構文／“是…的”構文</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>		

全カリ	中国語 I B a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>入門にあたって、しばらく「漢字」や「文法」にあまりこだわることなく、「発音」に重点をおいて、外国語としての中国語の門をくぐるができるように、言い換えれば、口頭練習を通して自然に中国語の基礎が身につくように図る授業です。</p> <p>必要な学習事項は教科書の例文中に盛り込んでありますので、受講者にとって、とにかく「耳」と「口」を駆使して学ぶことが大切です。</p> <p>課本文本の対話も、日本語訳が付記されていますので、まるごと暗誦する意気込みで練習してください。</p> <p>◆ 評価方法 期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『新版例解中国語入門你问我答』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書：発音／第1課 ～ 第9課</p> <p>(内容)</p> <p>形容詞述語文／動詞述語文／名詞述語文 各種疑問文／ 助数詞／代詞／接続詞／副詞</p> <p>日常のあいさつ／数の数え方 年月日の表し方／曜日の表し方 時刻と時間の表し方</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	

全カリ	中国語 I B b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>入門にあたって、しばらく「漢字」や「文法」にあまりこだわることなく、「発音」に重点をおいて、外国語としての中国語の門をくぐるができるように、言い換えれば、口頭練習を通して自然に中国語の基礎が身につくように図る授業です。</p> <p>必要な学習事項は教科書の例文中に盛り込んでありますので、受講者にとって、とにかく「耳」と「口」を駆使して学ぶことが大切です。</p> <p>課本文本の対話も、日本語訳が付記されていますので、まるごと暗誦する意気込みで練習してください。</p> <p>◆ 評価方法 期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『新版例解中国語入門你问我答』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>教科書：第10課 ～ 第20課</p> <p>(内容)</p> <p>3つのアスペクト助詞 各種助動詞／各種前置詞 各種語気助詞／各種補語 使役表現と兼語式／受身表現 “把”構文／“是…的”構文</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	

全カリ	中国語 I C a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>中国語を学ぶにあたって必ず身につけるべき基礎力を養います。</p> <p>まず、発音の概要をピンイン（中国語表音ローマ字）のつづりの規則を通して学び、練習します。</p> <p>次いで、正しい発音の習得に力点を置きながら基本語彙・語順の原則等の文法事項や基礎的日常生活表現を学びます。</p> <p>受講者には、積極的に授業に参加し、「耳」・「口」・「目」・「手」のすべてにわたって偏らずに使って学ぶ姿勢を心掛けることが求められます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『新編・例文中心初級中国語』同学社 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館（推薦）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書：発音／第一課 ～ 第九課</p> <p>（内容）</p> <p>指示代名詞、人称代名詞、疑問詞 数量詞、方位詞 方向補語、結果補語 動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文</p> <p>数のいいかた 年齢のいいかた、ききかた 月日、曜日、時刻のいいかた</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	

全カリ	中国語 I C b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>中国語を学ぶにあたって必ず身につけるべき基礎力を養います。</p> <p>中国語において文を作るために欠かせない機能語（虚詞）の用法と各種構文を学びます。</p> <p>受講者には、積極的に授業に参加し、「耳」・「口」・「目」・「手」のすべてにわたって偏らずに使って学ぶ姿勢を心掛けることが求められます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『新編・例文中心初級中国語』同学社 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館（推薦）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>教科書：発音／第十課 ～ 第二十課</p> <p>（内容）</p> <p>動作・状態の進行、動作・状態の持続 動詞の重ね型、将然態 状態補語、可能補語 各種助動詞 主述述語文、“把”のつく文、兼語文</p> <p>物の値段</p> <p>等々</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	

全カリ 外共	中国語Ⅱ Aa 基礎中国語Ⅱ（通年）	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習い身につけた基礎力をもとに、場面別会話文やポイント例文の練習を通して、表現能力を高めることを目標とします。</p> <p>使用テキストの取り上げる実用的なテーマにおける日常生活の中での使用頻度の高い語句を繰り返し学ぶことによって、実際にコミュニケーションを行う力を養成します。</p> <p>受講者は、理屈をひとまず措いて、繰り返し聴き、口に出して読んで、覚え込む作業に専念することも必要となります。</p> <p>◆ 評価方法 *期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『中国語中級テキスト悠遊北京』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書 第一課 ～ 第五課</p> <p>（場面） 税関で 出迎え ホテルで 観光 買い物</p>	

全カリ 外共	中国語Ⅱ Ab 基礎中国語Ⅱ（通年）	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習い身につけた基礎力をもとに、場面別会話文やポイント例文の練習を通して、表現能力を高めることを目標とします。</p> <p>使用テキストの取り上げる実用的なテーマにおける日常生活の中での使用頻度の高い語句を繰り返し学ぶことによって、実際にコミュニケーションを行う力を養成します。</p> <p>受講者は、理屈をひとまず措いて、繰り返し聴き、口に出して読んで、覚え込む作業に専念することも必要となります。</p> <p>◆ 評価方法 *期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『中国語中級テキスト悠遊北京』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書 第六課 ～ 第七課</p> <p>（場面） レストランで 娯楽について 受診 見送り</p>	

全カリ	中国語Ⅱ B a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習い身につけた基礎力をもとに、場面別会話文やポイント例文の練習を通して、表現能力を高めることを目標とします。</p> <p>使用テキストの取り上げる実用的なテーマにおける日常生活の中での使用頻度の高い語句を、繰り返し学ぶことによって、実際にコミュニケーションを行う力を養成します。</p> <p>受講者は、理屈をひとまず措いて、繰り返し聴き、口に出して読んで、覚え込む作業に専念することも必要となります。</p> <p>◆ 評価方法 *期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『中国語中級テキスト悠遊北京』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書 第一課 ～ 第五課</p> <p>(場面)</p> <p>税関で</p> <p>出迎え</p> <p>ホテルで</p> <p>観光</p> <p>買い物</p>	

全カリ	中国語Ⅱ B b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習い身につけた基礎力をもとに、場面別会話文やポイント例文の練習を通して、表現能力を高めることを目標とします。</p> <p>使用テキストの取り上げる実用的なテーマにおける日常生活の中での使用頻度の高い語句を、繰り返し学ぶことによって、実際にコミュニケーションを行う力を養成します。</p> <p>受講者は、理屈をひとまず措いて、繰り返し聴き、口に出して読んで、覚え込む作業に専念することも必要となります。</p> <p>◆ 評価方法 *期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：『中国語中級テキスト悠遊北京』白帝社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書 第六課 ～ 第七課</p> <p>(場面)</p> <p>レストランで</p> <p>娯楽について</p> <p>受診</p> <p>見送り</p>	

全カリ	中国語Ⅱ C a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習った文法事項を着実に復習しながら、中国語の平易ではあるが生の文章を読むように段階的に学習を進めていきます。</p> <p>受講者には、本文を暗誦する意気込みで学ぶことが望まれます。読解力の養成だけでなく、暗誦した文章が、自身で中国語を話すときや書くときのベースとなることをも目指すからです。</p> <p>未だ文字を「目」で追う段階ではないので、附属のCDを繰り返し聞き、口に出して読む練習が欠かせません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『読む中国語』朝日出版社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書</p> <p>ウォーミングアップ</p> <p>ユニット1</p> <p>ユニット2</p> <p>(内容としては、「補語」といわれる事項と「連動式」「使役」「受身」などのやや複雑な構文を学びます)</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p> <p>また、進度によっては、適宜やさしい中国語の生の文章を補充教材として用意し、さらに読解の楽しさを体験します。</p>	

全カリ	中国語Ⅱ C b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の一年間で習った文法事項を着実に復習しながら、中国語の平易ではあるが生の文章を読むように段階的に学習を進めていきます。</p> <p>受講者には、本文を暗誦する意気込みで学ぶことが望まれます。読解力の養成だけでなく、暗誦した文章が、自身で中国語を話すときや書くときのベースとなることをも目指すからです。</p> <p>未だ文字を「目」で追う段階ではないので、附属のCDを繰り返し聞き、口に出して読む練習が欠かせません。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験と平常点（出席・参加姿勢・小テスト等）によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『読む中国語』朝日出版社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>ガイダンス</p> <p>教科書</p> <p>ユニット3</p> <p>ユニット4</p> <p>(既習事項を文脈の中で確認して一層の定着を図り、さらに語彙や言い回しを増やすことを目標とします)</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p> <p>また、進度によっては、適宜やさしい中国語の生の文章を補充教材として用意し、さらに読解の楽しさを体験します。</p>	

全カリ 外共	ポルトガル語 I a 基礎ポルトガル語 I (通年)	担当者	山本 麻美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【目的】ポルトガル語をはじめて学ぶ者や初級者を対象として、正しい発音、聞き取り、会話、文法の基礎固めをする。コミュニケーション及びプレゼンテーションに必要な総合的基礎力の養成を目指す。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景の理解も試みる。</p> <p>【概要】テキストに沿って基本表現を口頭練習しながらポルトガル語の正しい発音をマスターする。現地会話に馴染むように実際の生活で頻出する口語表現も学習し、日常レベルでのコミュニケーション能力を養うと同時に、配布資料で文法事項を丁寧に解説していく。ヒアリング・発音練習にはブラジルやポルトガルのポピュラー音楽(サンバ、ボサノヴァ、ファド等)や映画、テレビ番組の一部を利用する。その他、ドキュメンタリー・ビデオ等の映像資料で社会的・文化的背景の理解も深める。本講義は、ポルトガル語文化圏の全体像を正しくイメージするための機会としたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席状況と試験により評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>①『こうすれば話せるCDブラジルポルトガル語』(朝日出版社) ②『現代ポルトガル語辞典』(白水社)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ポルトガル語総論 (ポ語はどのような言語か? / ポ語の歴史 / 辞書紹介) 2 文字と発音(アルファベット、綴り字記号、母音、子音、アクセント) 3 文型と特徴、発音練習、挨拶 4 主格人称代名詞、動詞 SER、動詞 ESTAR 5 疑問文と否定文、名詞、冠詞、形容詞、動詞 IR 6 名詞、冠詞、形容詞の性数一致 7 動詞総説、規則動詞の活用(直説法・現在) 8 動詞 TER、時の副詞、指示詞 9 現在形と現在進行形 10 主要不規則動詞の活用(直説法・現在)、数詞 11 《IRの直・現在形+Infinitivo》の未来表現 12 まとめと復習 <p>*上記は学習予定の主要文法事項を記載したものである。授業では、テキストと配布資料(プリント)を中心に、常に声を出してポルトガル語のリズムとイントネーションを体得することを目指したい。</p>	

全カリ 外共	ポルトガル語 I b 基礎ポルトガル語 I (通年)	担当者	山本 麻美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【目的】ポルトガル語をはじめて学ぶ者や初級者を対象として、正しい発音、聞き取り、会話、文法の基礎固めをする。コミュニケーション及びプレゼンテーションに必要な総合的基礎力の養成を目指す。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景の理解も試みる。</p> <p>【概要】テキストに沿って基本表現を口頭練習しながらポルトガル語の正しい発音をマスターする。現地会話に馴染むように実際の生活で頻出する口語表現も学習し、日常レベルでのコミュニケーション能力を養うと同時に、配布資料で文法事項を丁寧に解説していく。ヒアリング・発音練習にはブラジルやポルトガルのポピュラー音楽(サンバ、ボサノヴァ、ファド等)や映画、テレビ番組の一部を利用する。その他、ドキュメンタリー・ビデオ等の映像資料で社会的・文化的背景の理解も深める。本講義は、ポルトガル語文化圏の全体像を正しくイメージするための機会としたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席状況と試験により評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>①『こうすれば話せるCDブラジルポルトガル語』(朝日出版社) ②『現代ポルトガル語辞典』(白水社)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 直説法・完了過去 2 直説法・未完了過去 3 前置詞、直説法・現在未来 4 所有詞、疑問詞 5 前置詞句 6 比較級 7 接続詞、~menteの副詞 8 時の副詞句 9 直説法・過去未来の丁寧な表現 10 縮小辞、受身文 11 重要表現、既習文法事項の確認 12 まとめ <p>*上記は学習予定の主要文法事項を記載したものである。授業では、テキストと配布資料(プリント)を中心に、常に声を出してポルトガル語のリズムとイントネーションを体得することを目指したい。</p>	

全カリ 外共	ポルトガル語Ⅱa 基礎ポルトガル語Ⅱ（通年）	担当者	山本 麻美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【目的】ポルトガル語Ⅰより一步進んだ会話表現、文法、読解、作文力を習得し、コミュニケーション及びプレゼンテーション能力を向上させる。ポルトガル語の基礎を構造的に完成させ、実際に活用できるようにする。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景について理解を深める。</p> <p>【概要】原則としてポルトガル語Ⅰの続きと位置付けるが、ポ語Ⅰを履修していない場合でもポ語学習経験のある者は受講可能とする。初級後半から中級レベルを想定して授業を行うが、受講者の習熟度に応じて内容を調節する予定である。ポ語Ⅰと合わせてひと通りポルトガル語の基礎文法を習得し終えることを目指すが、重要な表現や文法事項は既習のものでも繰り返し解説する。歌、音楽、映像資料等、視聴覚教材を使って社会、歴史、文化にも触れ、ポルトガル語文化圏について様々な角度から理解を試みる。</p> <p>◆評価方法</p> <p>講義中に指示する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>①『こうすれば話せるCDブラジルポルトガル語』（朝日出版社）②『現代ポルトガル語辞典』（白水社）他</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 イントロダクション （概要説明、受講者との本講義の方向性の確認等）</p> <p>2-11 テキストの続き 文法事項の解説 歌、映画、ニュース番組等の聞き取り ポルトガル語文化圏の世界 練習問題 読解 その他</p> <p>12 まとめと復習</p>	

全カリ 外共	ポルトガル語Ⅱb 基礎ポルトガル語Ⅱ（通年）	担当者	山本 麻美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【目的】ポルトガル語Ⅰより一步進んだ会話表現、文法、読解、作文力を習得し、コミュニケーション及びプレゼンテーション能力を向上させる。ポルトガル語の基礎を構造的に完成させ、実際に活用できるようにする。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景について理解を深める。</p> <p>【概要】原則としてポルトガル語Ⅰの続きと位置付けるが、ポ語Ⅰを履修していない場合でもポ語学習経験のある者は受講可能とする。初級後半から中級レベルを想定して授業を行うが、受講者の習熟度に応じて内容を調節する予定である。ポ語Ⅰと合わせてひと通りポルトガル語の基礎文法を習得し終えることを目指すが、重要な表現や文法事項は既習のものでも繰り返し解説する。歌、音楽、映像資料等、視聴覚教材を使って社会、歴史、文化にも触れ、ポルトガル語文化圏について様々な角度から理解を試みる。</p> <p>◆評価方法</p> <p>講義中に指示する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>①『こうすれば話せるCDブラジルポルトガル語』（朝日出版社）②『現代ポルトガル語辞典』（白水社）他</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 復習</p> <p>2-11 テキストの続き 文法事項の解説 歌、映画、ニュース番組等の聞き取り ポルトガル語文化圏の世界 練習問題 読解 その他</p> <p>12 まとめと復習</p>	

全カリ 外共	ロシア語 IA a 基礎ロシア語 I (総合) (通年)	担当者	斉藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ヨーロッパとアジアのちょうど中間に位置するロシアは、今日の国際情勢の中でなお重要な地位を占めているだけでなく、千年以上の歴史に渡り、西ヨーロッパとは異なる独特の文化を育ててきました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語等とはずいぶん違った特徴があり、興味を持って学ぶことができると思います。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語 I Ba」、「基礎ロシア語 I (会話)」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p> <p>◆評価方法 ①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-6. アルファベット(キリル文字)の発音・書き方 基本的な文型 (平叙文、疑問文、否定文)</p> <p>7. 名詞の性と、形容詞類の変化</p> <p>8. 動詞の現在変化(1)</p> <p>9. 場所の表現 (1) (前置詞、名詞の格変化の導入)</p> <p>ロシアの地理・歴史・文化についての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。</p>	

全カリ 外共	ロシア語 IA b 基礎ロシア語 I (総合) (通年)	担当者	斉藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「ロシア語 IAa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。</p> <p>◆評価方法 ①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>10. 場所の表現 (2) (前置詞)</p> <p>11. 動詞の現在変化 (2)</p> <p>12. 不規則動詞の現在変化</p> <p>13. 形容詞の変化</p> <p>14. 名詞の複数形</p> <p>15. 名詞の格変化 (1) 生格</p> <p>16. 名詞の格変化 (2) 対格</p> <p>17. 動詞の過去変化</p> <p>18. 運動の動詞、方向の表現</p>	

全カリ 外共	ロシア語 I Ba 基礎ロシア語 I (会話) (通年)	担当者	佐藤千登勢
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、はじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。</p> <p>ロシアはみなさんにとって馴染みのある国ではないかもしれませんが、けれども今後、ロシアと日本との結び付きが、文化、政治、経済など多岐にわたって深く強いものになることは間違いありません。そのロシアで話されている言葉は、アルファベットのかたち（キリル文字）からして恰好よく、響く音はこの上なく美しいものです。</p> <p>この授業では、発音、イントネーション、リズムを正しく身に付ける練習を重ね、ロシア語で挨拶をしたり、買い物をしたりできるようにします。また、ロシアの文化や生活習慣について、毎回、映像資料を通して紹介していきます。</p> <p>この授業は「ロシア語 I A」あるいは「基礎ロシア語 I (総合)」と併せて受講するのが望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p> <p>Говорим по-русски! Я желаю вам успехов в учёбе.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>*学期末に試験（会話とディクテーション）を行いますが、最重要視するのは出席率です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、プリントを配付します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（ロシア語、およびロシアについて） 2 アルファベット、発音練習 3 アルファベット、発音練習 4 単語、文章の発音練習 5 動詞の変化、名詞の性、発音練習 6 動詞の変化、代名詞、発音練習 7 動詞の変化、所有代名詞、発音練習 8 自己紹介の表現、発音練習 9 自己紹介の表現、発音練習 10 買い物に必要な表現 11 映画鑑賞 12 試験（会話とディクテーション） 	

全カリ 外共	ロシア語 I Bb 基礎ロシア語 I (会話) (通年)	担当者	佐藤千登勢
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「ロシア語 I Ba」の続きとなります。ロシア語の音の響きの美しさを共に味わいながら、会話の練習をさらに深めていきましょう。</p> <p>道を尋ねる時、外食する時の表現を覚えて、ロシアを旅行する時も困らないレベルを目指します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末に試験（会話とディクテーション）を行いますが、最重要視するのは出席率です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、プリントを配付します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習 2 道の尋ねかた、疑問詞、対格 3 道の尋ねかた、対格 4 モスクワの地下鉄について、発音練習 5 道の尋ねかた、ダイアログ応用 6 外食に必要な表現、メニューの見方 7 外食に必要な表現、数詞 8 外食に必要な表現、発音練習 9 外食に必要な表現、発音練習 10 まとめと補足 11 映画鑑賞 12 試験（会話とディクテーション） 	

全カリ 外共	ロシア語ⅡAa 基礎ロシア語Ⅱ（総合）（通年）	担当者	佐藤千登勢
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>昨年度に「ロシア語Ⅰ」もしくは「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩をひととおり学んだことのある人なら誰でも受講可能です。</p> <p>この授業では、昨年度使用した文法のテキストをさらに進めていながら、新たな文法事項や表現を身に付けていきます。また、総合的な力をつけるために、リスニング、音読にも力を入れます。なお、ロシア語にも長い歴史をもつ検定試験というものがありますが、みなさんがこの授業を一年間受講し終えた頃には、4級か3級に合格するぐらいの力がついていていことでしょうか。是非、目標をたてて挑戦してみてください。</p> <p>ロシアはヨーロッパとアジアの融合とよく言われるように、その文化や自然、民族は多様性に富んでおり、豊かな芸術を誇る国です。映像資料を通して、ロシアの音楽、バレエ、映画などを共に味わう時間ももちます。</p> <p>この授業は、「ロシア語ⅡB」、「基礎ロシア語Ⅱ（会話）」と併せて受講するのが望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポートと平常点により決定しますが、もっとも重要視するのは出席率です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを配付します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（ロシア語、ロシアの文化について） 2 テキスト18課「運動の動詞」、練習問題 3 作文、音読、リスニング 4 テキスト19課「形容詞＋名詞」の生格、練習問題 5 作文、音読、リスニング 6 テキスト20課「形容詞＋名詞」の前置格 7 練習問題、作文、音読、筆記体の練習 8 「個数詞と順序数詞」、筆記体の練習 9 テキスト21課「形容詞＋名詞」の与格「命令形」、筆記体の練習 10 練習問題、作文、音読、筆記体の練習 11 テキスト22課「可能、禁止、義務」の表現、筆記体の練習 12 映画鑑賞 	

全カリ 外共	ロシア語ⅡAb 基礎ロシア語Ⅱ（総合）（通年）	担当者	佐藤千登勢
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「ロシア語ⅡAa」の続きとなります。同じテキストを用いて、ひき続き、文法の習得と復習をゆっくりと確実に進めていきます。音読の練習とリスニングにもさらに力を入れていきます。</p> <p>ロシアの文化や芸術を知るためのビデオ資料、映画もできるだけ楽しむようにします。映画の台詞の中にも、聴き取れる表現が出てきていっそう面白くなることでしょうか。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポートと平常点により決定しますが、もっとも重要視するのは出席率です。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを配付します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習、テキスト23課「未来形」、練習問題、作文、音読、リスニング 2 テキスト24課「数詞＋名詞」の表現、練習問題 3 作文、音読、リスニング 4 テキスト25課「形容詞＋名詞」の造格 5 練習問題、作文、音読 6 前置詞の要求する格、練習問題 7 時間を示す副詞、副詞句のいろいろ、リスニング 8 「動詞の完了体と完了体」（過去形）練習問題 9 「動詞の完了体と完了体」（未来形）練習問題 10 復習および補足、リスニング 11 映画鑑賞 	

全カリ 外共	ロシア語ⅡB a 基礎ロシア語Ⅱ（会話）（通年）	担当者	斉藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>昨年度に全カリの「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、ロシア語会話の教科書、音声教材を用いた易しい日常会話の練習を通して、これまで学んだ文法事項の復習と、新たな文法事項の習得を行ないます。とくにロシア語は発音に慣れるのがやや難しい言語なので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>さらにプリント教材をもちいて簡単な文章の読解練習も行ないます。</p> <p>文法を中心とした「ロシア語ⅡA」、「基礎ロシア語Ⅱ（総合）」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p> <p>◆評価方法 ①期末試験（筆記および口頭）、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』（白水社）、および授業時に配布するプリント。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。大まかな学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-2. 人・物の名前の訊ね方 / 家族の単語 3. 場所の訊ね方 4. 自己紹介の表現 5. 可能・不可能の表現 6. 数の訊ね方 / 曜日 / 数詞 7. 副詞を使った表現 / 言語の表現 8. 目的の表現 / 身体の部位</p> <p>その他、時おりロシアの映画・音楽を見たり聴いたりします。</p>	

全カリ 外共	ロシア語ⅡB b 基礎ロシア語Ⅱ（会話）（通年）	担当者	斉藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「ロシア語ⅡBa」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p> <p>さらにプリント教材をもちいて、新たな文法事項の習得および、読解練習を行ないます。文法に関しては、1年間で名詞の格変化をすべて習得することを目標とします。</p> <p>◆評価方法 ①期末試験（筆記および口頭）、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』（白水社）、および授業時に配布するプリント。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>全体で教科書の最後（第17課）まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>9. 所有の表現 10. 居住に関する表現 11. 好みの表現 / 食べ物単語 12. 電話の表現 / 一日の時間 13. 値段の訊ね方 / 数詞＋名詞の表現 14. 道順の表現 15. 未来の表現 16. 時刻の表現</p>	

全カリ 外共	朝鮮語 I A a 基礎朝鮮語 I (総合) (通年)	担当者	朴 勇俊
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」朴勇俊 (プリント)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」</p> <p>12回 期末試験</p>	

全カリ 外共	朝鮮語 I A b 基礎朝鮮語 I (総合) (通年)	担当者	朴 勇俊
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」朴勇俊 (プリント)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」</p> <p>12回 期末試験</p>	

全カリ 外共	朝鮮語 I B a 基礎朝鮮語 I (講読・会話) (通年)	担当者	李 貞美
◆講義目的、講義概要 <p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		◆授業計画 <p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11回 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」</p> <p>12回 期末試験</p>	
◆ 評価方法 <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで -」 朴勇俊 (プリント)</p>			

全カリ 外共	朝鮮語 I B b 基礎朝鮮語 I (講読・会話) (通年)	担当者	李 貞美
◆講義目的、講義概要 <p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		◆授業計画 <p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」</p> <p>12回 期末試験</p>	
◆ 評価方法 <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで -」 朴勇俊 (プリント)</p>			

全カリ 外共	朝鮮語ⅡA a 基礎朝鮮語Ⅱ（総合）（通年）	担当者	李 貞美
◆講義目的、講義概要 韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。		◆授業計画 1回 本講義に対する紹介、概要説明 2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民族衣装」 「虎と干し柿」（民話） 12回 期末試験	
◆ 評価方法 評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。			
◆テキスト、参考文献 「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」 朴勇俊（プリント）			

全カリ 外共	朝鮮語ⅡA b 基礎朝鮮語Ⅱ（総合）（通年）	担当者	李 貞美
◆講義目的、講義概要 韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。		◆授業計画 1～11回 次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。 「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「濟州島」 「牛になった怠け者」（民話） 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」 12回 期末試験	
◆ 評価方法 評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。			
◆テキスト、参考文献 「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」 朴勇俊（プリント）			

全カリ 外共	朝鮮語Ⅱ B a 基礎朝鮮語Ⅱ（講読・会話）（通年）	担当者	朴 勇俊
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで -」 朴勇俊（プリント）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11 回 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。</p> <p>「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」</p> <p>12 回 期末試験</p>	

全カリ 外共	朝鮮語Ⅱ B b 基礎朝鮮語Ⅱ（講読・会話）（通年）	担当者	朴 勇俊
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「韓国語学習 - 基礎から完成まで -」 朴勇俊（プリント）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1～11 回 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。</p> <p>「出身地」 「伝言」 「ピザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」</p> <p>12 回 期末試験</p>	

全カリ 外共	タイ語 I a 基礎タイ語 I	担当者	江藤双恵												
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができ、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験の成績および出席状況</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著/大学書林)およびプリント</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="829 224 1481 902"> <tr><td>1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？</td></tr> <tr><td>2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音</td></tr> <tr><td>3 文字の読み書き1（中子音・高子音）</td></tr> <tr><td>4 文字の読み書き2（低子音と長母音）</td></tr> <tr><td>5 文字の読み書き3（真正二重子音・平音節・促音節）</td></tr> <tr><td>6 文字の読み書き4（声調符号、短母音）</td></tr> <tr><td>7 文字の読み書き5（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）</td></tr> <tr><td>8 文字の読み書き6（一字再読字）</td></tr> <tr><td>9 文字の読み書き7（タイ数字、年月日に関する表記、例外）、</td></tr> <tr><td>10 タイ文化入門（希望により映画などビジュアル教材を用いる）</td></tr> <tr><td>11 会話1（挨拶、所在に関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>12 会話2（ものの性質などに関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> </table>		1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？	2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音	3 文字の読み書き1（中子音・高子音）	4 文字の読み書き2（低子音と長母音）	5 文字の読み書き3（真正二重子音・平音節・促音節）	6 文字の読み書き4（声調符号、短母音）	7 文字の読み書き5（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）	8 文字の読み書き6（一字再読字）	9 文字の読み書き7（タイ数字、年月日に関する表記、例外）、	10 タイ文化入門（希望により映画などビジュアル教材を用いる）	11 会話1（挨拶、所在に関する表現）、タイ語を聞いて書く	12 会話2（ものの性質などに関する表現）、タイ語を聞いて書く
1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？															
2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音															
3 文字の読み書き1（中子音・高子音）															
4 文字の読み書き2（低子音と長母音）															
5 文字の読み書き3（真正二重子音・平音節・促音節）															
6 文字の読み書き4（声調符号、短母音）															
7 文字の読み書き5（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）															
8 文字の読み書き6（一字再読字）															
9 文字の読み書き7（タイ数字、年月日に関する表記、例外）、															
10 タイ文化入門（希望により映画などビジュアル教材を用いる）															
11 会話1（挨拶、所在に関する表現）、タイ語を聞いて書く															
12 会話2（ものの性質などに関する表現）、タイ語を聞いて書く															

全カリ 外共	タイ語 I b 基礎タイ語 I	担当者	江藤双恵												
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができ、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、挨拶、数、年月日と時間など日常会話に最低限必要な表現を学ぶ。さまざまな状況に応じた会話表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、ディクテーションによって正確な発音と表記の仕方を身につけ、作文練習によって表現能力をつける</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験の成績および出席状況</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著/大学書林)およびプリント</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="829 1283 1481 2074"> <tr><td>1 会話1（家族に関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>2 会話2（所有、存在に関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>3 会話3（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>4 会話4（可能、不可能に関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>5 会話5（名前、所在、手段などに関する表現）</td></tr> <tr><td>6 会話6（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>7 会話7（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>8 会話8（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>9 会話9（日時に関する表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>10 会話10（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>11 会話11（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く</td></tr> <tr><td>12 タイ文化入門（タイ映画などビジュアル教材の鑑賞）</td></tr> </table>		1 会話1（家族に関する表現）、タイ語を聞いて書く	2 会話2（所有、存在に関する表現）、タイ語を聞いて書く	3 会話3（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く	4 会話4（可能、不可能に関する表現）、タイ語を聞いて書く	5 会話5（名前、所在、手段などに関する表現）	6 会話6（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く	7 会話7（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く	8 会話8（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く	9 会話9（日時に関する表現）、タイ語を聞いて書く	10 会話10（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く	11 会話11（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く	12 タイ文化入門（タイ映画などビジュアル教材の鑑賞）
1 会話1（家族に関する表現）、タイ語を聞いて書く															
2 会話2（所有、存在に関する表現）、タイ語を聞いて書く															
3 会話3（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く															
4 会話4（可能、不可能に関する表現）、タイ語を聞いて書く															
5 会話5（名前、所在、手段などに関する表現）															
6 会話6（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く															
7 会話7（類別詞の用法1）、タイ語を聞いて書く															
8 会話8（類別詞の用法2）、タイ語を聞いて書く															
9 会話9（日時に関する表現）、タイ語を聞いて書く															
10 会話10（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く															
11 会話11（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く															
12 タイ文化入門（タイ映画などビジュアル教材の鑑賞）															

全カリ 外共	タイ語Ⅱ a 基礎タイ語Ⅱ (通年)	担当者	江藤双恵
◆講義目的、講義概要 さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。		◆授業計画 1 導入；今タイ語を学ぶ意義。タイ文化、社会に関するトピックス。 2 会話 1 (比較、最上級に関する表現) 3 会話 2 (食べ物に関する表現) 4 会話 3 (疑問詞の使い方) 5 会話 4 (可能表現のいろいろ) 6 文法 1 (疑問文・否定文、疑問文への答え方) 7 会話 6 (推量に関する表現) 8 会話 7 (お金の計算) 9 会話 8 (電話をかける) 10 会話 9 (旅行する) 11 文法 2 (存在・所有動詞の用法、繋辞の用法) 12 購読 1 (平易な物語など)	
◆ 評価方法 定期試験の成績および出席状況			
◆テキスト、参考文献 「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著大学書林刊) およびプリント			

全カリ 外共	タイ語Ⅱ b 基礎タイ語Ⅱ (通年)	担当者	江藤双恵
◆講義目的、講義概要 さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。		◆授業計画 1 会話 1 (受身の表現) 2 会話 2 (病気のとき) 3 会話 3 (買い物をする) 4 会話 4 (素材に関する表現) 5 購読 1 (平易な物語など) 6 購読 2 (平易な物語など) 7 文法 1 (類別詞の用法、比較) 8 文法 2 (一般動詞の用法) 9 文法 3 (助動詞) 10 購読 3 (現代タイ事情) 11 購読 4 (現代タイ事情) 12 ビジュアル作品などの鑑賞	
◆ 評価方法 定期試験の成績および出席状況			
◆テキスト、参考文献 「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著大学書林刊) およびプリント			

全カリ 外共	アラビア語 I a 基礎アラビア語 I	担当者	師岡利-マ・エルサムニ-
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アラビア語は、総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連の公用語の一つに指定されています。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、10億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界で最も誤解された宗教」と言われていますが、アラブ世界もまた、世界で最も誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。</p> <p>本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かな文化に親しんでもらうことを目指しています。</p> <p>文法に片寄らず、「まずは言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に会話にも重点を置きつつ、さまざまなメディアを通じて、自然にアラビア語を呼吸してもらいたいと考えています。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. (会話) アラブ人と友達になろう 1 3. (会話) アラブ人と友達になろう 2 4. (文法) アラビア文字に挑戦 1 5. (文法) アラビア文字に挑戦 2 6. (文法) アラビア文字に挑戦 3 7. (文法) アラビア文字に挑戦 4 8. (会話) アラブ人と友達になろう 3 9. (会話) 友達を紹介しよう 10. (文法) アラビア語を読む! 11. (文法) いよいよ自分の名前を書く! 12. 復習 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>簡単な会話・筆記試験を行います。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト</p> <p>『アラビア語の入門』（改訂版）（本田孝一著、白水社）</p> <p>参考文献</p> <p>『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニ著、白水社）</p> <p>『アラビア文字を書いてみよう、読んでみよう』（本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニ著、白水社）</p>			

全カリ 外共	アラビア語 I b 基礎アラビア語 I	担当者	師岡利-マ・エルサムニ-
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚でつかんでもらうことを目指しています。</p> <p>本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (会話) 「これは何ですか」 1 2. (会話) 「これは何ですか」 2 3. (文法) 「私は日本人です」 1 4. (文法) 「私は日本人です」 2 5. (会話) 空港でアラビア語を使ってみよう 1 6. (会話) 空港でアラビア語を使ってみよう 2 7. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 1 8. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 2 9. (会話) 「ご出身はどちらですか？」 10. (会話) 「駅はどこですか？」 11. 復習 12. 期末テスト 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>簡単な会話・筆記試験を行います。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト</p> <p>『アラビア語の入門』（改訂版）（本田孝一著、白水社）</p> <p>参考文献</p> <p>『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニ著、白水社）</p> <p>『アラビア文字を書いてみよう、読んでみよう』（本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニ著、白水社）</p>			

全カリ 外共	アラビア語Ⅱ a 基礎アラビア語Ⅱ	担当者	師岡カリマ・エルサムニ-
<p>◆講義目的、講義概要 前年度に基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象にしています。 テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、詩、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。</p> <p>◆ 評価方法 簡単な会話・筆記試験を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト 『アラビア語の入門』（改訂版）（本田孝一著、白水社） 参考文献 『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニ著、白水社） 『アラビア文字を書いてみよう、読んでみよう』（本田孝一・師岡カリマ・エルサムニ著、白水社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 復習 3. (文法)「私は～を持っています」 1 4. (文法)「私は～を持っています」 2 5. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 1 6. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 2 7. (文法) of の表現 8. (文法) 双数と複数 1 9. (文法) 双数と複数 2 10. (会話) 数の表し方 1 11. (会話) 数の表し方 2 12. 復習 	

全カリ 外共	アラビア語Ⅱ b 基礎アラビア語Ⅱ	担当者	師岡カリマ・エルサムニ-
<p>◆講義目的、講義概要 前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。 一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァラエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブ世界の素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれ興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。</p> <p>◆評価方法 簡単な会話・筆記試験を行います。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト 『アラビア語の入門』（改訂版）（本田孝一著、白水社） 参考文献 『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニ著、白水社） 『アラビア文字を書いてみよう、読んでみよう』（本田孝一・師岡カリマ・エルサムニ著、白水社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (会話)「昨日、あなたは何をしましたか？」 1 2. (会話)「昨日、あなたは何をしましたか？」 2 3. (文法) 動詞(完了形)の使い方① 4. (文法) 動詞(完了形)の使い方 2 5. (文法) アラビア語の細胞「語根ってなに？」 1 6. (文法) アラビア語の細胞「語根ってなに？」 2 7. (文法) 動詞(未完了形)の使い方 1 8. (文法) 動詞(未完了形)の使い方 2 9. (応用) 手紙を書いてみよう 10. (応用) 絵本を読んでみよう 11. 復習 12. 期末テスト 	

外国語学部共通科目	現代ヘブライ語 I	担当者	高橋 正男
-----------	-----------	-----	-------

全学共通授業科目	現代ヘブライ語 Ia	担当者	高橋 正男
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セム語概説 2. ヘブライ文字 (アレフ・ベイト) の書体 (活字体・筆記体) 3. ヘブライ文字の書き方(1) 4. ヘブライ文字の書き方(2) 5. 発音 6. 発音の手引 (1) 7. 発音の手引 (2) 8. 名詞と代名詞 (1) 9. 名詞と代名詞 (2) 10. 形容詞 11. 前置詞 12. 動詞の現在形 (1)
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神藤雄他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ 2 本組) ミルトス (5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能) <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。 <p>受講者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。
	テキスト参考文献		

全学共通授業科目	現代ヘブライ語 Ib	担当者	高橋 正男
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 13. 動詞の現在形 (2) 14. 語根と動詞 15. ラメッド・ヘー型のバアル態 16. 不定詞 (1) 17. ビエル態の現在形 18. ヒトバエル態の現在形 19. ニフアル態の現在形 20. ヒフフィル態の現在形 21. 不規則名詞複数形 22. 数詞 (1) 23. 数詞 (2) 24. 名詞の人称接尾辞と連結詞
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神藤雄他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ 2 本組) ミルトス (5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能) <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。 <p>受講者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。
	テキスト参考文献		

外国語学部共通科目	現代ヘブライ語Ⅱ	担当者	高橋 正男
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	現代ヘブライ語Ⅱa	担当者	高橋 正男
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。前年度に引き続き日常会話と文法を交互に学習し、現地のヘブライ語新聞の講読を目標とする。併せて創世記を読む。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 復習 3. ニフアル態の現在形 4. ヒフィル態の現在形 5. 不規則な名詞複数形 6. 数詞 (1) 7. 数詞 (2) 8. 名詞の人称接尾辞 9. 連結語 / ヘブライ語新聞講読 (1) 10. パアル態の過去形 11. ラメッドーヘー型パアル態の過去形
	評価方法		<p>テキスト</p> <p>・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。</p> <p>・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。</p> <p>参考文献</p> <p>・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ 2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)</p> <p>評価方法</p> <p>・平常点と学年末の口述会話テストによる。</p> <p>受講者への要望</p> <p>・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。</p> <p>・前期末・後期末に補講を予定している。</p>
	テキスト参考文献		

全学共通授業科目	現代ヘブライ語Ⅱb	担当者	高橋 正男
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。前年度に引き続き日常会話と文法を交互に学習し、現地のヘブライ語新聞の講読を目標とする。併せて創世記を読む。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 12. ビエル態の過去形 13. ヒトバエル態の過去形 14. ニフアル態の過去形 15. プアル態とフフアル態 16. 比較の表現 17. 不定詞 (2) / ヘブライ語新聞講読 (2) 18. 動詞の未来形 19. パアル態の未来形 20. ヒフィル態の未来形 21. ニフアル態の未来形 22. 不規則な未来形 23. 条件文 24. ヘブライ語新聞講読 (3)
	評価方法		<p>テキスト</p> <p>・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。</p> <p>・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。</p> <p>参考文献</p> <p>・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ 2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)</p> <p>評価方法</p> <p>・平常点と学年末の口述会話テストによる。</p> <p>受講者への要望</p> <p>・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。</p> <p>・前期末・後期末に補講を予定している。</p>
	テキスト参考文献		

全カリ 外共	古典ギリシア語 I a 古典ギリシア語 I (通年)	担当者	古川堅治
-----------	-------------------------------	-----	------

◆講義目的、講義概要

<講義目的>

一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。

<講義概要>

授業は毎回単元を1～2つずつ学習するペースで進むが、途中10分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しつつ、アト・ホームな雰囲気で行ないたい。また、予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくので、出席は必ず毎回するように心がけること。

◆ 評価方法

出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしない(平常点評価)。

◆テキスト、参考文献

<テキスト>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円)

◆授業計画

- 1 字母・発音・音韻などの分類
(この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける)
- 2 音節・アクセント・句読点
(この時点で、古典ギリシア語の単語が読める)
- 3 動詞の変化・直説法能動相現在
(この時点で、単文が理解できる)
- 4 名詞の第一変化
(この時点で、名詞の規則変化が理解できる)
- 5 動詞の変化・直説法能動相未来
(この時点で、未来形が理解できる)
- 6 動詞の変化・直説法能動相未完了過去
(この時点で、動詞の三時制がマスターできる)
- 7 名詞の第二変化
(この時点でスベルがすらすら書けるようになる)
- 8 形容詞の変化(第一・第二変化)
(ここで、語順が決まっていなかったことが理解できる)
- 9 前置詞(ここで、ヨーロッパ近代諸語の前置詞との対比によって、その類似性が理解できる)
- 10 動詞の変化・直説法能動相アオリスト
(ここで、過去時制の文章理解ができるようになる)
- 11 動詞の変化・現在完了と過去完了(これで動詞の諸時制を学ぶことにより、文章理解が一層促進する)
- 12 指示代名詞と強意代名詞
(この時点で、早くも新約聖書が読めるようになる)

* () 内は到達度チェックの際のポイントを示しているため、各自の理解度の指針とすること。

全カリ 外共	古典ギリシア語 I b 古典ギリシア語 I (通年)	担当者	桜井悠美
-----------	-------------------------------	-----	------

◆講義目的、講義概要

<講義目的>

同上

<講義概要>

同上

◆ 評価方法

同上

◆テキスト、参考文献

同上

◆授業計画

- 1 εἶμι動詞とφημι動詞
(この時点で、動詞の人称変化の基本が理解できる)
- 2 疑問代名詞と不定代名詞(ここで、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる)
- 3 動詞の変化・直説法中動相の各時制(1)
(この時点で、中動相の独特な用法が理解できる)
- 4 動詞の変化・直説法中動相の各時制(2)
(ここまできると、微妙な文章表現が理解できる)
- 5 人称代名詞(この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる)
- 6 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞(ここまできると、文章上のつながりが理解しやすくなる)
- 7 第二アオリストの用法(この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる)
- 8 動詞の変化・直説法受動相
(この時点で、受身の文章表現が理解できる)
- 9 名詞の第三変化(1)(この時点で、名詞の不規則変化の「変化の規則性」が理解できる)
- 10 名詞の第三変化(2)
(同上)
- 11 能相欠如動詞と約音動詞(ここまできると、辞書を片手にスムーズに文章が理解できるようになる)
- 12 まとめ(この最終回で、古典ギリシア語習得の意義について理解しよう)

* () 内は到達度チェックの際のポイントを示しているため、各自の理解度の指針とすること。

全カリ 外共	古典ギリシア語Ⅱa 古典ギリシア語Ⅱ（通年）	担当者	古川堅治
◆講義目的、講義概要 <講義目的>一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手にともかくも可能になることを主目的とする。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語かつ一文一文と、こまめに根気よく掘り下げて行くことから始めたい。丁寧にゆっくり、かつ、じっくりと取り組むように心がけたい。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。 <講義概要>毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）の極めてやさしく、短い文章をもとに、ノートの手書き、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識、裏話やエピソード、関連する映像など、さまざまな工夫をこらして授業を進めたい。出席は毎回心がけるようにしてほしい。受講希望者は初級文法を修了している方が望ましい。		◆授業計画 1 はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方等を指導する） 2 「イソップ物語」は単なる童話か？ （アウポスの知恵） 3 にわとりと泥棒 （その1） 4 にわとりと泥棒 （その2） 5 にわとりと泥棒 （その3） 6 かめとその寝ぐら （その1） 7 かめとその寝ぐら （その2） 8 かめとその寝ぐら （その3） 9 おおかみの叫び （その1） 10 おおかみの叫び （その2） 11 おおかみの叫び （その3） 12 春学期まとめ	
◆ 評価方法 出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行なう（平常点評価）。			
◆テキスト、参考文献 テキストは使用せず、プリントを配布する。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介する。			

全カリ 外共	古典ギリシア語Ⅱb 古典ギリシア語Ⅱ（通年）	担当者	桜井悠美
◆講義目的、講義概要 <講義目的> 同上 <講義概要> 同上		◆授業計画 1 さまざまな人間類型 （テオフラストスの鋭い人間観） 2 おべっか使い （その1） 3 おべっか使い （その2） 4 おべっか使い （その3） 5 不平たらたら （その1） 6 不平たらたら （その2） 7 不平たらたら （その3） 8 信用できない人 （その1） 9 信用できない人 （その2） 10 ニュース・メーカー （その1） 11 ニュース・メーカー （その2） 12 秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）	
◆ 評価方法 同上			
◆テキスト、参考文献 同上			

全カリ 外共	ラテン語 I a ラテン語 I (通年)	担当者	松田 治
<p>◆講義目的 古典ラテン語は難しそうに見えるが、語尾変化などの約束ごとを理解すれば、近代語と同様に習得できる。多くの例文を読むことで約束ごとは身につく。そうすると自分でラテン語の文をつづれるようになる。とりあえず易しい文章を読んで理解することを目標にする。</p> <p>◆講義概要 動詞の直説法現在の活用を自由自在に使いこなせるように、教室で繰り返し練習する。平行して名詞の変化、形容詞の変化を学ぶ。</p> <p>◆受講生への要望 コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p> <p>◆評価方法 出席することがまず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。</p> <p>◆テキスト、参考文献 『詳解ラテン文法』樋口勝彦、藤井 昇共著 (研究社) 参考書は授業中に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概説 2. ラテン語の読み方 3. Sum の現在形 4. 規則動詞 (1) 5. 規則動詞 (2) 6. 名詞 (1) 7. 名詞 (2) 8. 形容詞 (1) 9. 形容詞 (2) 10. 規則動詞 (3, 4) 11. 人称代名詞 12. 前置詞 	

全カリ 外共	ラテン語 I b ラテン語 I (通年)	担当者	松田 治
<p>◆講義目的 動詞の完了形を学び、かなり複雑なラテン語文を読みこなせることを目標としたい。</p> <p>◆講義概要 前半の授業で身につけた文法を土台にして、やや複雑な語法や文の構造を把握できるような形で授業を進める。やはり動詞の活用が大切で、直説法や接続法などのモードによる変化、現在・過去・未来といった時制による変化など、ラテン語形態論の基本をしっかりと学びたい。</p> <p>◆受講生への要望 コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p> <p>◆評価方法 出席することがまず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。</p> <p>◆テキスト、参考文献 『詳解ラテン文法』樋口勝彦、藤井 昇共著 (研究社) 参考書は授業中に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の過去形 2. 不規則動詞 3. 名詞 (3) 4. 形容詞 (3) 5. 指示代名詞 6. 動詞の未来形、現在分詞 7. 疑問詞 8. 関係代名詞 9. 完了 (1) 10. 完了 (2) 11. 命令法 12. 受動態 	

全カリ 02年度以前	ラテン語Ⅱ a ラテン語Ⅱ (通年)	担当者	松田 治
<p>◆講義目的 易しい文章をたくさん読んで、ラテン語の文章そのものに慣れ親しむことを目標とする。</p> <p>◆講義概要 ラテン語文の意味は、動詞の活用と、名詞語尾の母音の長短によって決定されるといっても過言ではない。前半の授業ではこの基本を再認識するため、最初は名詞の変化や動詞の活用を復習し、それから易しいリーダーに取り組むことにする。これが終われば、次は古典の中から、初級文法を身につけていれば誰でも読めるような優しい文章をえらぶ。</p> <p>◆受講生への要望 コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p> <p>◆評価方法 出席することがまず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。</p> <p>◆テキスト、参考文献 1. プリント配布 2. 『ラテン語文選』小林 標編著 (大学書林)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概説 2. 名詞変化の復習 3. 動詞活用の復習 (1) 4. 動詞活用の復習 (2) 5. 易しいリーダー (1) 6. 易しいリーダー (2) 7. 易しいリーダー (3) 8. 易しいリーダー (4) 9. 女のいくさ (1) 10. 女のいくさ (2) 11. 女のいくさ (3) 12. 女のいくさ (4) 	

全カリ 02年度以前	ラテン語Ⅱ b ラテン語Ⅱ (通年)	担当者	松田 治
<p>◆講義目的 ここではただラテン語を読むだけではなく、作家のこと、その時代のことなど、偉大な文明を築いた古代ローマ人たちの姿にも触れて、彼らの残した文化をうかがい知る端緒となるような授業を心がけたい。</p> <p>◆講義概要 前半の授業で確認した文法を活かして、やや歯ごたえのある古典の文章にも取り組む。ゆっくり時間をかけてすすめたい。</p> <p>◆受講生への要望 コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p> <p>◆評価方法 出席することがまず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。</p> <p>◆テキスト、参考文献 『ラテン語文選』小林 標編著 (大学書林)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ローマ建国の物語 (1) 2. ローマ建国の物語 (2) 3. ローマ建国の物語 (3) 4. ローマ建国の物語 (4) 5. ハンニバル戦争 (1) 6. ハンニバル戦争 (2) 7. ハンニバル戦争 (3) 8. ハンニバル戦争 (4) 9. ハンニバル戦争 (5) 10. ハンニバル戦争 (6) 11. 抒情詩 12. 叙事詩 	

03年度以降 02年度以前	総合講座 総合講座 B	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目標</p> <p>日本で「現代思想」と呼ばれている、現代ヨーロッパのもっとも先鋭的な思想への入門的な講座です。特に言語と思想のかかわりを中心に、ソシユールやフロイトから始まり、さまざまな思想家の世界に触れていきます。</p> <p>担当の先生はテーマに従って変わります。その分野の専門の先生が直接授業をされるので、現代思想に興味のある学生諸君にはぜひ聴講いただきたいと思います。</p> <p>◆講義概要</p> <p>いわゆる「現代思想」全体に対して、大まかな展望を与える講座となっています。具体的には、精神分析や言語学、そして構造主義およびポスト構造主義の哲学を解説し、理解していくことが目的です。最近日本では現代思想など「軽薄」で、どうでもよいと考え、そう公言する人が専門家のなかにもいますが、それは間違いで、多くの学ぶべきことがそこにはあります。</p> <p>難解とされる現代思想が実は私たちの現実と深くかかわっていることを理解していただければと思います。</p> <p>さらに詳しい授業内容および担当者についての説明を用意しています。興味のある方は教務課まで申し出てください。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>単に知識を得るためではなく、自分でものを考え、自分で判断するためにこそ、私たちはものを学ぶのだということを忘れないこと。 本を読むのをいとわないこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>最初の授業の際指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当の先生から指示があります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (若森栄樹) 2. 講座全体へのイントロダクション (若森栄樹) 3. ソシユールの言語学 (渡沼英二) 4. フロイトの精神分析学 1. (大原知子) 5. フロイトの精神分析学 2. (大原知子) 6. ジョルジュ・バタイユ (岩野卓司) 7. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 8. ジャック・デリダと脱構築 (若森栄樹) 9. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 10. アドルノと否定の弁証法 (船戸満之) 11. フランクフルト学派の諸相 (船戸満之) 12. 現代における詩人 (吉田文憲) <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期ガイダンス (若森栄樹) および現代フェミニズム 1. (井上たか子) 2. 現代フェミニズム 2. (井上たか子) 3. ソシユールの言語理論 (渡沼英二) 4. 精神分析の現在——ジャック・ラカン (大原知子) 5. 精神分析の現在——クライン、クリステヴァ (大原知子) 6. コジェーヴ、ラカンと日本 (若森栄樹) 7. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 8. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 9. アドルノと「ホロコースト」 (船戸満之) 10. フランクフルト学派 (船戸満之) 11. 現代思想の諸問題—まとめ (若森栄樹) 12. 詩とは何か? (吉田文憲) 	

03年度以降 02年度以前	情報科学概論 a 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、文系学生のための情報科学とコンピュータリテラシーから着目し、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化・マルチメディア化、コンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。本講義はコンピュータのソフトの使い方ではなく、情報に関する知識を身につく方や情報関係資格を目指している方に役を立つように工夫している。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係の概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、ソフトウェアの開発の手法について述べる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	

03年度以降 02年度以前	情報科学概論 b 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式、サーバー・クライアントモデル 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、IPアドレス、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 オンライン・ソフトウェア オンライン・ソフトウェアの使い方と使用 12 まとめ 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(入門) コンピュータ入門	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(初級-表計算入門) 情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(初級-表計算入門) 情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一步踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一步踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用 1） 情報科学各論（中級—表計算応用 1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用 1） 情報科学各論（中級—表計算応用 1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(中級-HTML応用1) 情報科学各論(中級-HTML応用1)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用) 3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み) 4 Javaアプレットの概要 5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習(定数と変数) 7 プログラム練習(for文1) 8 プログラム練習(for文2) 9 プログラム練習(if文) 10 プログラム練習(配列) 11 プログラム練習(Mathオブジェクト) 12 総合演習 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用1） 情報科学各論（中級－HTML 応用1）	担当者	金子憲一
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習（1） 3 HTMLとFTPの復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5 CUIとGUI 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGIの利用（1） 11 CGIの利用（2） 12 総合報告会 	
◆ 評価方法			
課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。			
◆ テキスト、参考文献			
授業中に指示する。 プリントの配布も行う。			

		担当者	
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中 雅英
◆講義目的、講義概要	◆授業計画		
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. Java Script 1 4. Java Script 2 5. Java Script 3 6. Java Script 4 7. CGI 1 8. CGI 2 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 		
◆ 評価方法	授業中に指示する課題と平常点で評価する。		
◆テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(中級－HTML応用2) 情報科学各論(中級－HTML応用2)	担当者	東 孝博
------------------	--	-----	------

<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Javaの基本構造 2 イベント処理 (マウスイベント1) 3 イベント処理 (マウスイベント2) 4 イベント処理 (キーイベント1) 5 イベント処理 (キーイベント2) 6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス) 7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト) 9 スレッドの利用 (イメージの移動) 10 スレッドの利用 (色の変化・時計) 11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習
---	---

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 1） 情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの 1 つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1 回目の授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 2） 情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>30H で理解できるアクセス 2000， 実教出版 図解雑学データベース， ナツメ出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー（1） 6 クエリー（2） 7 グループによるテーブル設計 1（ハイレベルエンティティ分析） 8 グループによるテーブル設計 2（関係データ分析） 9 グループによるテーブル設計 3（テーブル作成） 10 グループによるクエリ設計 1（外部スキーマの設計） 11 グループによるクエリ設計 1（クエリの作成） 12 グループによるプレゼンテーション 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—データベース1） 情報科学各論（中級—データベース1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものである。データには数値データと文字データがあるが、Excel ではそのどちらも同じように扱うことができる。膨大な量の情報のなかから、自分が必要とするデータを的確に抽出するには、数値データと文字データ両方の処理知識が必要となる。</p> <p>ネット上からデータをダウンロードし、データベースの形式に加工する方法、情報をデータベース機能を利用して処理する方法などを取得することを目標とする。</p> <p>授業の後半では、自分自身でデータベースを構築し、加工、分析、まとめ（発表）という一連の過程を行う。その過程からデータベースの基本的な概念を学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は30名とする。30名を超える場合には抽選とする。第1回目の授業で行うので、必ず出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席およびレポート課題。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「Windows による情報活用」 共立出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよび Excel の復習 2 データベースとは—データの配布 3 並べ替え機能と集計 4 レコードの抽出と検索 5 第1回目課題作成 6 クロス集計（1） 7 クロス集計（2） 8 第2回目課題作成 9 データベースの構築（1） 10 データベースの構築（2）、最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 1） 情報科学各論（中級—プログラミング論 1）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 最初の講義で指示する。 必要な資料をファイルで配布する。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 プログラミング言語の発展史 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 簡単なプログラムの作成 プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する 基本的コントロール オブジェクトと変数 選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 繰り返しあるプログラムの作成（1） 繰り返しあるプログラムの作成（2） 総合練習 アプリケーションの試作 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 2） 情報科学各論（中級—プログラミング論 2）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要な資料をファイルで配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期の復習 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 個人情報データベースの設計 コントロールの活用 応用的なテクニック 探索 二分探索、併合、逐次探索 ソート 選択ソート、挿入ソート 文字列の処理 文字列の照合と置き換え 再帰というプログラミング手法 さまざまなグラフィックスの処理 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 a 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。</p> <p>講義概要 テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 経済学の考え方 3. 取引と貿易 4. 需要と供給と価格 5. 予備日 6. 需要・供給分析の応用（その1） 7. 需要・供給分析の応用（その2） 8. 時間とリスク（その1） 9. 時間とリスク（その2） 10. 公共部門（その1） 11. 公共部門（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 b 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法 *課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. GNP とは（その1） 3. GNP とは（その2） 4. マクロ経済学と完全雇用（その1） 5. マクロ経済学と完全雇用（その2） 6. 経済成長（その1） 7. 経済成長（その2） 8. 失業と総需要（その1） 9. 失業と総需要（その2） 10. インフレーション（その1） 11. インフレーション（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 a 社会心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて概説していく。年間を通じての講義の概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会心理学とは 2. 行動の社会化と発達 3. 集団と個人の行動 4. 環境と人間の認知・行動 5. 他者認知と自己認知 6. 現代社会と個人の行動 <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 社会的行動の発達① 4. 社会的行動の発達② 5. 社会的行動の発達③ 6. 社会的行動の発達④ 7. 集団と個人の行動① 8. 集団と個人の行動② 9. 集団と個人の行動③ 10. 集団と個人の行動④ 11. 対人関係の心理① 12. 対人関係の心理② 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 b 社会心理学	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的および講義概要は上記を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的環境と人間の心理① 2. 社会的環境と人間の心理② 3. 文化と人間の行動① 4. 文化と人間の行動② 5. 文化と人間の行動③ 6. 文化と人間の行動④ 7. 社会的認知① 8. 社会的認知② 9. 社会的認知③ 10. 社会的認知④ 11. 現代社会と心理① 12. 現代社会と心理② 	

外共	国語表現（通年）	担当者	福沢 健
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活に置いて必須となるレポート・論文の書き方とその手順を学ぶ。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、作業を通して、最終的にレポート（A4で5枚程度のもの）を完成させることを目標とする。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する</u>。</p> <p>◆ 評価方法 レポート 出席</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト 『プラクティカル日本語 文章表現編』おうふう</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 問題意識 3 資料検索 4 序論① 5 序論② 6 引用・グラフ・表 7 本論① 8 本論② 9 本論③ 10 結論 11 注 12 まとめ 	

外共	国語表現（通年）	担当者	福沢 健
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「話す」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活や社会人として要求される口頭発表（プレゼンテーション）の基礎知識及び基礎技能の習得を目指す。後半、「聞く」能力の訓練についても触れていきたいと考えている。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、課題を決めて、順番に発表をしてもらい、話し方について講評を加えていくというかたちである。 ただし、受講人数が多い場合、このようなかたちでの発表は不可能となるので、別のメニューを行うこととなる。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する</u>。</p> <p>◆ 評価方法 レポート 出席</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト 『プラクティカル日本語 口頭発表編』おうふう</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 発音 3 朗読① 4 朗読② 5 プレゼンテーションの基礎知識① 6 プレゼンテーションの基礎知識② 7 発表① 8 発表② 9 発表③ 10 話を聞く① 11 話を聞く② 12 まとめ 	

外共	日本国憲法（通年）	担当者	加藤一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>憲法の人権論を中心にした勉強を行う。毎回、具体的ケース（判例）にもとづき、正確な条文解釈を行う。</p> <p>なお、必ず六法をもってくること。出版社は問わない、</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>加藤・植村『現代憲法入門講義』（北樹出版） 吉田編『憲法重要判例』（敬文堂）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 六法全書の使い方。 3. 憲法三大原則 4. 人権の享有主体 5. 法の下での平等 6. 信教の自由 7. 学問の自由 8. 表現の自由（1） 9. 表現の自由（2） 10. 表現の自由（3） 11. 表現の自由（4） 12. 予備日 	

外共	日本国憲法	担当者	加藤一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>...</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的自由（1） 2. 経済的自由（2） 3. 人身の自由 4. 社会権（1） 5. 社会権（2） 6. 社会権（3） 7. 平和主義（1） 8. 平和主義（2） 9. 選挙権 10. 国会 11. 裁判所 12. 予備日 	

外共	日本語教育特殊講義A	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>2. 日本語解説書の一つであるテキスト及び日本語習得に関する論文を正確に読解できるよう習練をつむのも目的の一つである。</p> <p>3. 担当部分の英文を担当者があらかじめ達意の日本語に訳し、その要約をつくり、それを参加者に配布できるように準備する。</p> <p>4. 日本語を学ぶ英語話者が陥りがちな誤用を研究し、そこから浮かび出る日本語特徴を考察する。</p> <p>5. その考察を日本語の文法組織の全体像の中に位置づけ、知識の体系化をはかる。</p> <p>6. シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。</p> <p>授業への積極的な参加が望まれる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>① 課題（まとめ） ②試験の得点 ③出席率（欠席4回以上はF評価とする）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>① “Situation vs. Person on Focus” by John Hinds, くろしお出版 ②プリント</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>初回はオリエンテーションを行う。 発表担当の分担。いかなる方法で勉強をすすめるか説明。 以下の項目を春・秋学期にわたり扱う。</p> <p>“Situation vs. Person Focus” by John Hinds</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ellipsis in conversation 2. Referential triggers 3. Situation Focus 4. Blending existential and possessive expressions 5. Avoiding possession marking 6. Transitives, intransitives, and incoatives 7. States rather than actions. 8. Required absence of subjects 9. Responsibility and situation focus 10. Ellipsis in situation focus <p>“An Invitation to Second Language Acquisition Research in Japanese”</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Role of Input and Interaction in the Acquisition of Japanese as a Second/Foreign Language 2. Sociolinguistic / interaction-analytic perspectives on AJSL research 3. Contentions of Second Language Acquisition Research 4. Vocabulary Acquisition in Japanese 3. Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language 	

外共	日本語教育特殊講義A	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>6. Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language</p> <p>7. Studies on L2 writing Instruction in the past and present</p> <p>後期にあつては、前記に引き続き、論文を読みその内容を検討していく。</p>	